

医療に関する意識調査報告書

令和2年3月

川 越 市

(裏白)

目 次

1	調査の概要	1
	(1) 調査の目的	1
	(2) 調査の方法	1
	(3) 調査項目	1
	(4) 調査実施結果	2
	(5) 報告書の見方	2
2	調査結果	3
	(1) 基本属性	3
	問1 性別	3
	問2 年齢	3
	問3 職業	4
	問4 家族構成	4
	問4-1 同居家族	5
	問5 居住地区	5
	問6 居住期間	6
	問7 医療保険	7
	(2) 医療機関の利用状況	8
	問8 この5年間の入院経験	8
	問8-1 この5年間に入院した医療機関	10
	問9 この1年間の通院経験	11
	問9-1 この1年間に通院した医療機関	13
	問10 この1年間の歯科医院への通院経験	14
	問10-1 この1年間に通院した歯科医院	16
	問11 お薬手帳の持参状況	17
	問12 処方薬の飲み残しの有無	19
	問13 ジェネリック医薬品の認知状況	21
	問13-1 ジェネリック医薬品の服薬状況	24
	問14 診療時間外の急病経験	26
	問14-1 診療時間外の急病時の対応	28
	問15 川越市夜間休日診療所の認知・利用状況	30
	問16 川越市予防歯科センターの認知・利用状況	32

問 17	かかりつけ医の有無	34
問 17-1	かかりつけ医がいる家族	37
問 17-2	かかりつけ医の場所（医療機関）	38
問 17-3	かかりつけ医への期待	40
問 17-4	かかりつけ医を決めていない理由	41
問 18	かかりつけ薬局（薬剤師）の有無	42
問 18-1	かかりつけ薬局がいる家族	45
問 18-2	かかりつけ薬局（薬剤師）の場所	45
問 18-3	かかりつけ薬局への期待	47
問 18-4	かかりつけ薬局を決めていない理由	48
問 19	病気や医療の情報の入手方法	49
（3）在宅医療等の認知状況		51
問 20	在宅医療の認知状況	51
問 21	訪問看護の認知状況	53
問 22	在宅医療の利用状況	55
（4）保健医療行政への関心・重点意向		57
問 23-1	現在関心のある施策	57
問 23-2	今後力をいれてほしい施策	58
（5）今後の医療への意向		60
問 24	川越市の医療への期待	60
問 24-1	医療機関が増えると良い理由	62
問 24-2	増えると良い診療科	63
資料（調査票）		65

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、「第二次川越市保健医療計画」が令和2年度をもって計画期間の満了を迎えることから、市民の医療に関する意識や意向を把握し、新たな計画を策定する上での資料として活用するため実施しました。

(2) 調査の方法

項目	内容
①調査地域	川越市全域
②調査対象者	川越市に居住する満20歳以上の市民
③標本数	2,000人
④抽出方法	住民基本台帳（令和元年11月1日現在）から無作為抽出
⑤調査方法	郵送配布、郵送回収
⑥調査実施期間	令和元年12月4日～令和元年12月23日

(3) 調査項目

区分	項目
①基本属性	○性別 ○年齢 ○職業 ○家族構成・同居家族 ○居住地区 ○居住期間 ○医療保険
②医療機関の利用状況	○入院・通院経験、利用医療機関 ○お薬手帳の持参状況 ○処方薬の状況 ○休日、夜間の医療機関の利用状況 ○かかりつけ医・かかりつけ薬局（薬剤師）の状況 ○医療に関する情報の入手先
③在宅医療等の認知状況	○在宅医療・訪問看護の認知状況 ○在宅医療の利用状況
④保健医療行政への関心・重点意向	○現在関心のある施策 ○今後力を入れてほしい施策
⑤今後の医療への意向	○川越市の医療への期待 ○自由記入意見

1 調査の概要

(4) 調査実施結果

標本数	回答票数	回収率
2,000人	993票	49.7%

(5) 報告書の見方

①留意点

- 比率は百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入し算出しているため、合計が100%を上下する場合があります。
- 2つ以上の回答をする設問(複数回答)では、比率の合計が100%を上回ります。
- 「総数」は比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示しています。
- 平成16年度調査及び平成26年度調査と令和元年度調査とでは選択肢が同一でない場合があるため、平成16年度調査及び平成26年度調査にはない選択肢は、グラフの値は「-」と表記しています。

②標本誤差

今回の調査結果の値(%)を、そのまま20歳以上の全市民の回答として捉えると多少の誤差が生じます。今回の回答票数から標本誤差を算出し、20歳以上の全市民の回答を推定します(信頼度は95%)。

P=回答の比率	標本誤差
10%または90%	±1.9%
20%または80%	±2.5%
30%または70%	±2.9%
40%または60%	±3.1%
50%	±3.2%

<参考例>

問11では、お薬手帳を「1 常に持参している」が59.7%であり、この59.7%(P=回答の比率)を約60%とみると、上表から標本誤差は「±3.1%」存在することになります。

このため、20歳以上の全市民における「1 常に持参している」との回答割合は62.8%~56.6%(59.7%±3.1%)の範囲内にあると推定されます。

2 調査結果

(1) 基本属性

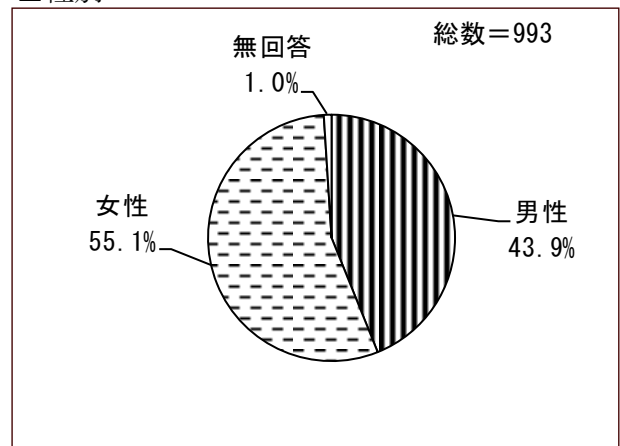
問1 性別

問1 あなたの性別について、お答えください。(1つに○)

性別は、男性が43.9%、女性が55.1%であり、女性が男性よりも11.2ポイント高くなっています。

項目	今回 令和元年度 (総数=993)	前回 平成26年度 (総数=1,056)
男性	43.9%	43.8%
女性	55.1%	55.3%
無回答	1.0%	0.9%

■性別



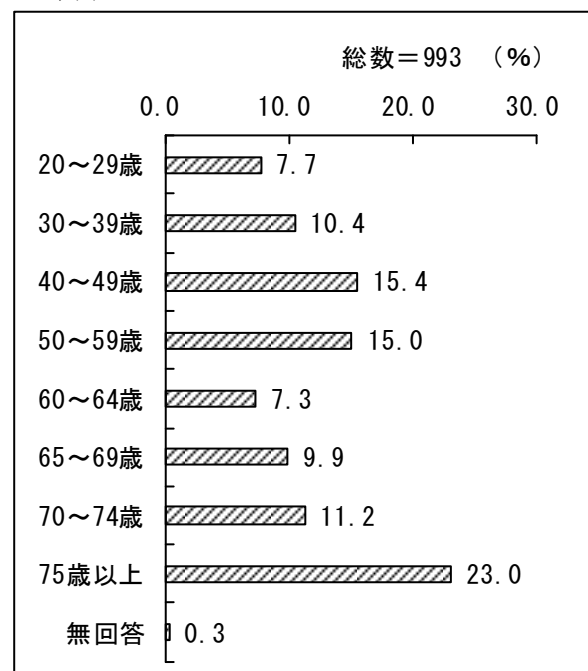
問2 年齢

問2 あなたの満年齢について、お答えください。(1つに○)

年齢は、「75歳以上」が最も高く23.0%、次いで「40～49歳」が15.4%、「50～59歳」が15.0%となっています。

項目	今回 令和元年度 (総数=993)	前回 平成26年度 (総数=1,056)
20～29歳	7.7%	6.6%
30～39歳	10.4%	14.2%
40～49歳	15.4%	15.2%
50～59歳	15.0%	14.7%
60～64歳	7.3%	9.0%
65～69歳	9.9%	11.5%
70～74歳	11.2%	11.9%
75歳以上	23.0%	16.3%
無回答	0.3%	0.6%

■年齢



2 調査結果

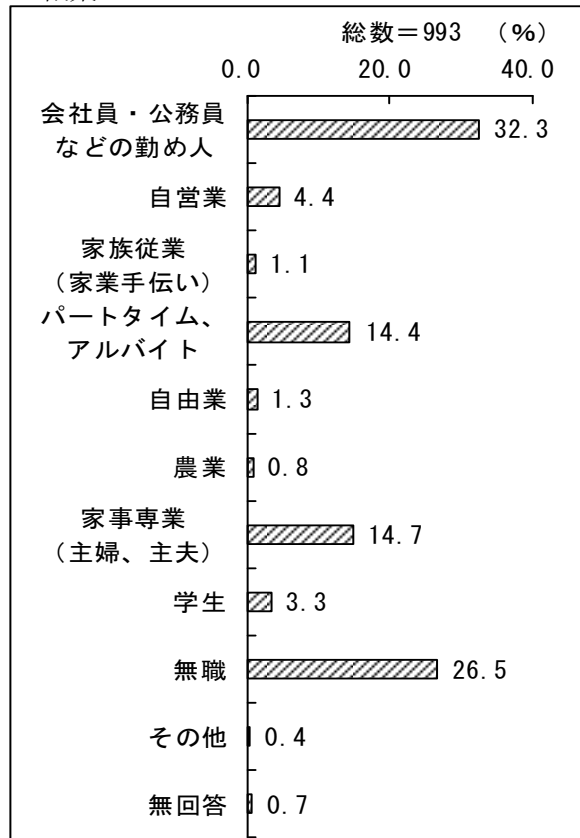
問3 職業

問3 あなたのご職業は、次のどれにあたりますか。(主なもの1つに○)

職業は、「会社員・公務員などの勤め人」が最も高く32.3%、次いで「無職」が26.5%、「家事専業(主婦、主夫)」が14.7%となっています。

項目	今回 令和元年度 (総数=993)	前回 平成26年度 (総数=1,056)
会社員・公務員 などの勤め人	32.3%	30.6%
自営業	4.4%	4.5%
家族従業 (家業手伝い)	1.1%	0.8%
パートタイム、 アルバイト	14.4%	13.5%
自由業	1.3%	0.7%
農業	0.8%	0.5%
家事専業 (主婦、主夫)	14.7%	20.5%
学生	3.3%	1.1%
無職	26.5%	24.3%
その他	0.4%	2.5%
無回答	0.7%	1.1%

■職業



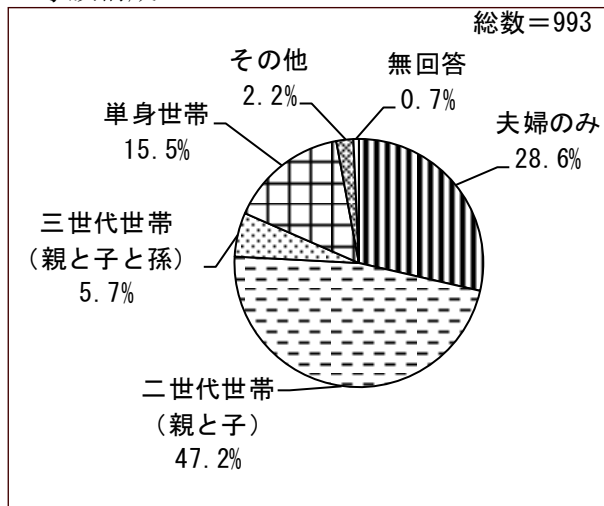
問4 家族構成

問4 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

家族構成は、「二世世代世帯(親と子)」が最も高く47.2%、次いで「夫婦のみ」が28.6%、「単身世帯」が15.5%となっています。

項目	今回 令和元年度 (総数=993)	前回 平成26年度 (総数=1,056)
夫婦のみ	28.6%	26.3%
二世世代世帯 (親と子)	47.2%	49.1%
三世世代世帯 (親と子と孫)	5.7%	7.8%
単身世帯	15.5%	13.2%
その他	2.2%	2.7%
無回答	0.7%	1.0%

■家族構成



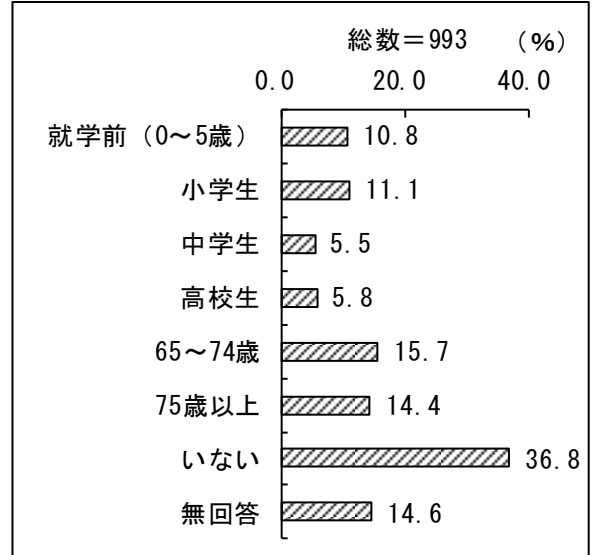
問4-1 同居家族

問4-1 同居のご家族に次に該当する方はいますか。(〇はいくつでも)

同居家族は、「いない」が最も高く36.8%、次いで「65～74歳」が15.7%、「75歳以上」が14.4%となっています。

項目	今回 令和元年度 (総数=993)	前回 平成26年度 (総数=1,056)
就学前 (0～5歳)	10.8%	13.1%
小学生	11.1%	10.9%
中学生	5.5%	4.5%
高校生	5.8%	4.7%
65歳～74歳	15.7%	23.8%
75歳以上	14.4%	23.8%
いない	36.8%	37.2%
無回答	14.6%	19.2%

■同居家族（複数回答）



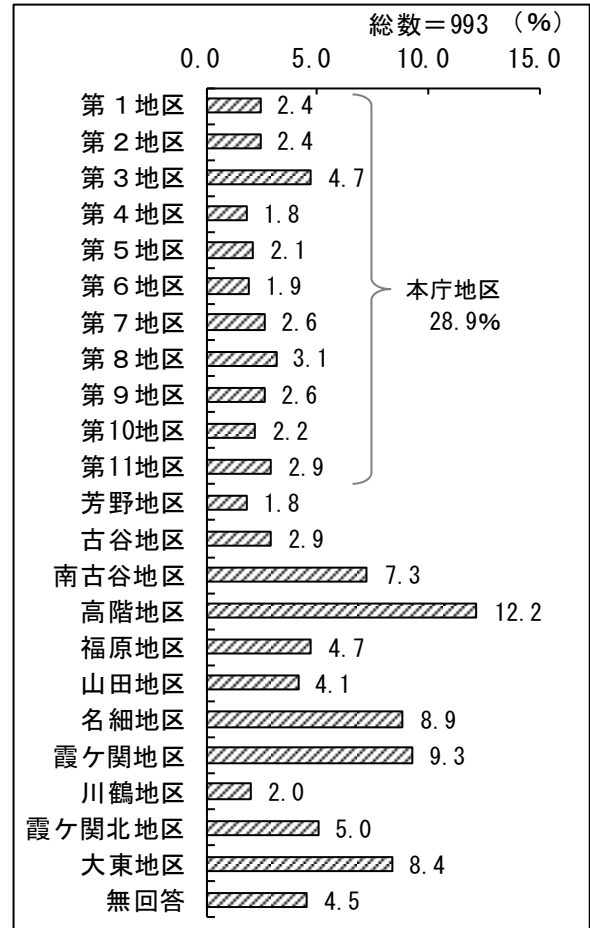
問5 居住地区

問5 あなたのお住まいは、次のどちらの地区ですか。(1つに〇)

居住地区は、「高階地区」が最も高く12.2%、次いで「霞ヶ関地区」が9.3%、「名細地区」が8.9%となっています。

なお、「第1地区」から「第11地区」を合わせた「本庁地区」は28.9%です（小数点以下第2位を四捨五入しグラフを作成しているため、グラフの合計値(28.7%)と異なります）。

■居住地区



2 調査結果

項目	今回 令和元年度 (総数=993)	前回 平成26年度 (総数=1,056)
第1地区	2.4%	2.7%
第2地区	2.4%	2.4%
第3地区	4.7%	4.5%
第4地区	1.8%	1.3%
第5地区	2.1%	1.6%
第6地区	1.9%	1.3%
第7地区	2.6%	3.7%
第8地区	3.1%	2.4%
第9地区	2.6%	3.2%
第10地区	2.2%	2.8%
第11地区	2.9%	2.8%
(本庁地区： 第1地区～ 第11地区の合計)	28.9%	28.8%
芳野地区	1.8%	1.7%
古谷地区	2.9%	2.7%
南古谷地区	7.3%	6.9%
高階地区	12.2%	13.4%
福原地区	4.7%	5.8%
山田地区	4.1%	9.8%
名細地区	8.9%	9.3%
霞ヶ関地区	9.3%	1.9%
川鶴地区	2.0%	4.8%
霞ヶ関北地区	5.0%	8.2%
大東地区	8.4%	3.5%
無回答	4.5%	3.0%

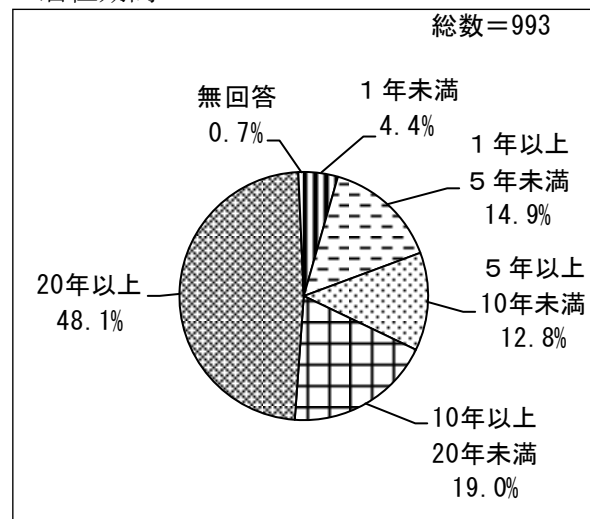
問6 居住期間

問6 あなたの現住所での居住期間は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

居住期間は、「20年以上」が最も高く48.1%、次いで「10年以上20年未満」が19.0%、「1年以上5年未満」が14.9%となっています。

項目	今回 令和元年度 (総数=993)	前回 平成26年度 (総数=1,056)
1年未満	4.4%	5.0%
1年以上5年未満	14.9%	16.4%
5年以上10年未満	12.8%	14.5%
10年以上20年未満	19.0%	15.6%
20年以上	48.1%	47.7%
無回答	0.7%	0.8%

■居住期間



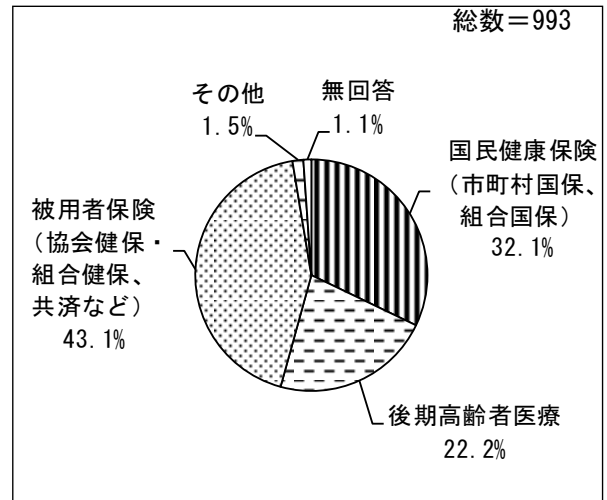
問7 医療保険

問7 あなたがご加入の医療保険等の種類は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

医療保険は、「被用者保険（協会健保・組合健保、共済など）」が最も高く43.1%、次いで「国民健康保険（市町村国保、組回国保）」が32.1%、「後期高齢者医療」が22.2%となっています。

項目	今回 令和元年度 (総数=993)	前回 平成26年度 (総数=1,056)
国民健康保険(市町村国保、組回国保)	32.1%	40.1%
後期高齢者医療	22.2%	14.8%
被用者保険(協会健保・組合健保、共済など)	43.1%	40.2%
その他	1.5%	2.7%
無回答	1.1%	2.3%

■医療保険



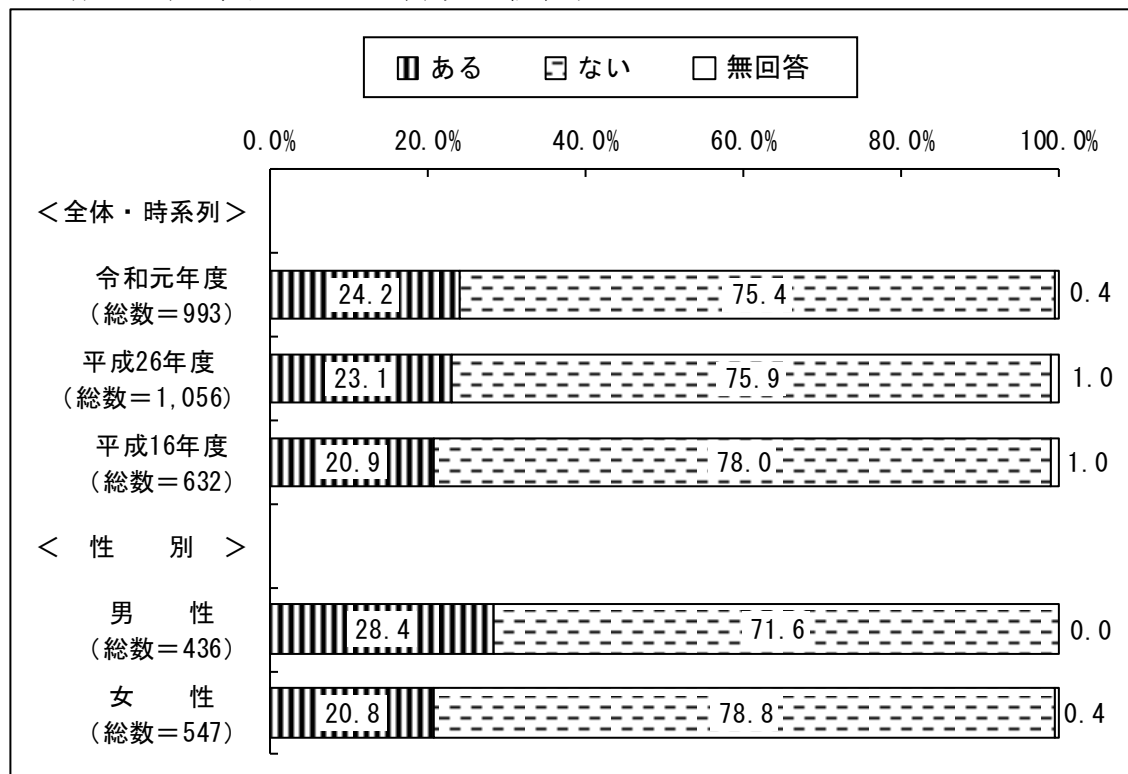
2 調査結果

(2) 医療機関の利用状況

問8 この5年間の入院経験

問8 あなたは、この5年間に病気やけがで入院したことがありますか。(1つに○)

■全体・時系列、性別この5年間の入院経験



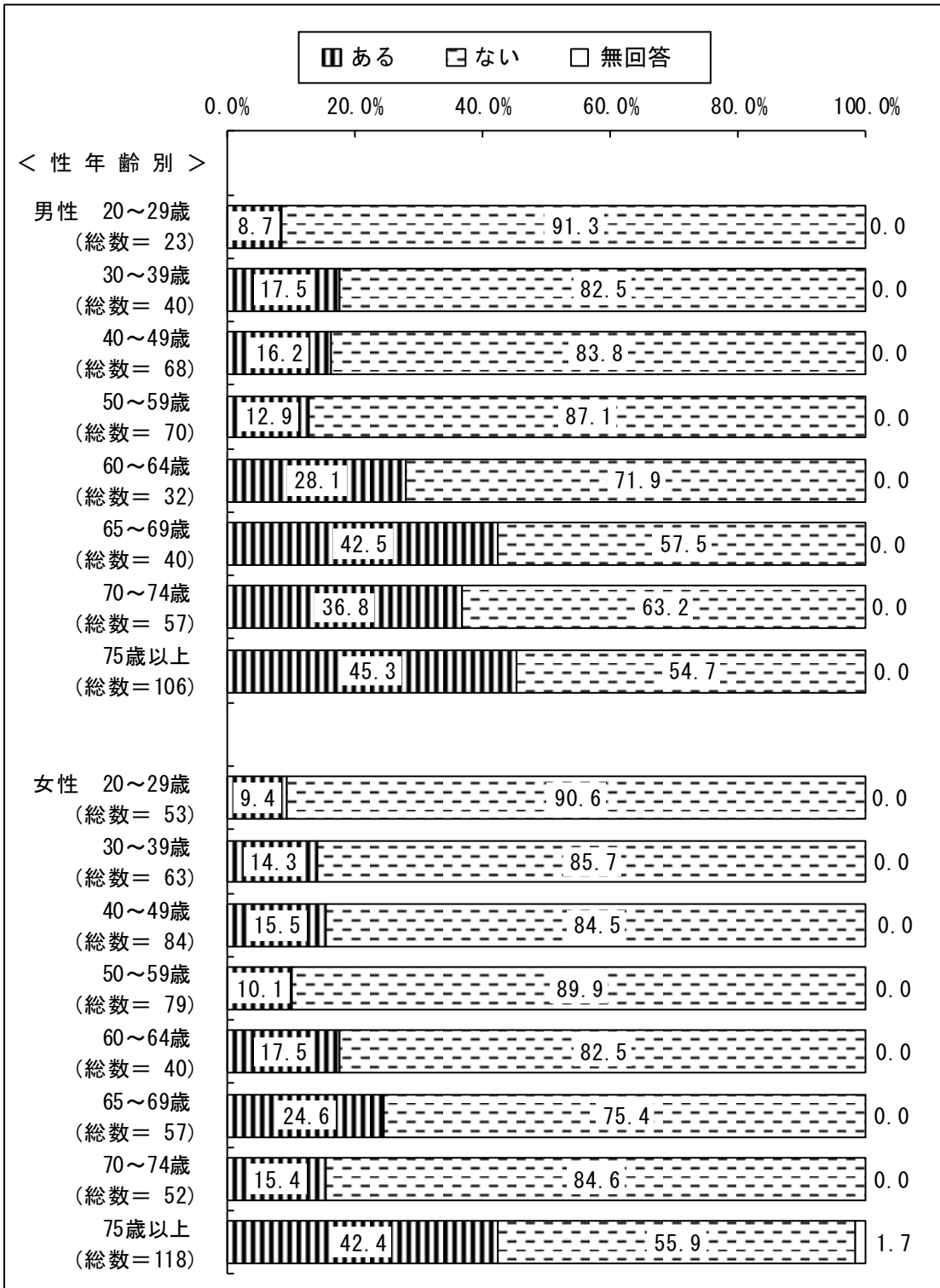
<全体・時系列>

この5年間の入院経験は、「ない」が75.4%、「ある」が24.2%であり、この5年間での入院経験が「ある」割合は、平成26年度(23.1%)よりも1.1ポイント高くなっています。

<性別>

この5年間に入院経験が「ある」割合は、男性が28.4%、女性が20.8%であり、男性が女性よりも7.6ポイント上回っています。

■性年齢別この5年間の入院経験



<性年齢別>

男性、女性ともに、年齢が高くなるにつれ過去5年間の入院経験が「ある」割合が上昇する傾向にあり、男性では65歳以上で3割台から4割台、女性では75歳以上で4割台となっています。

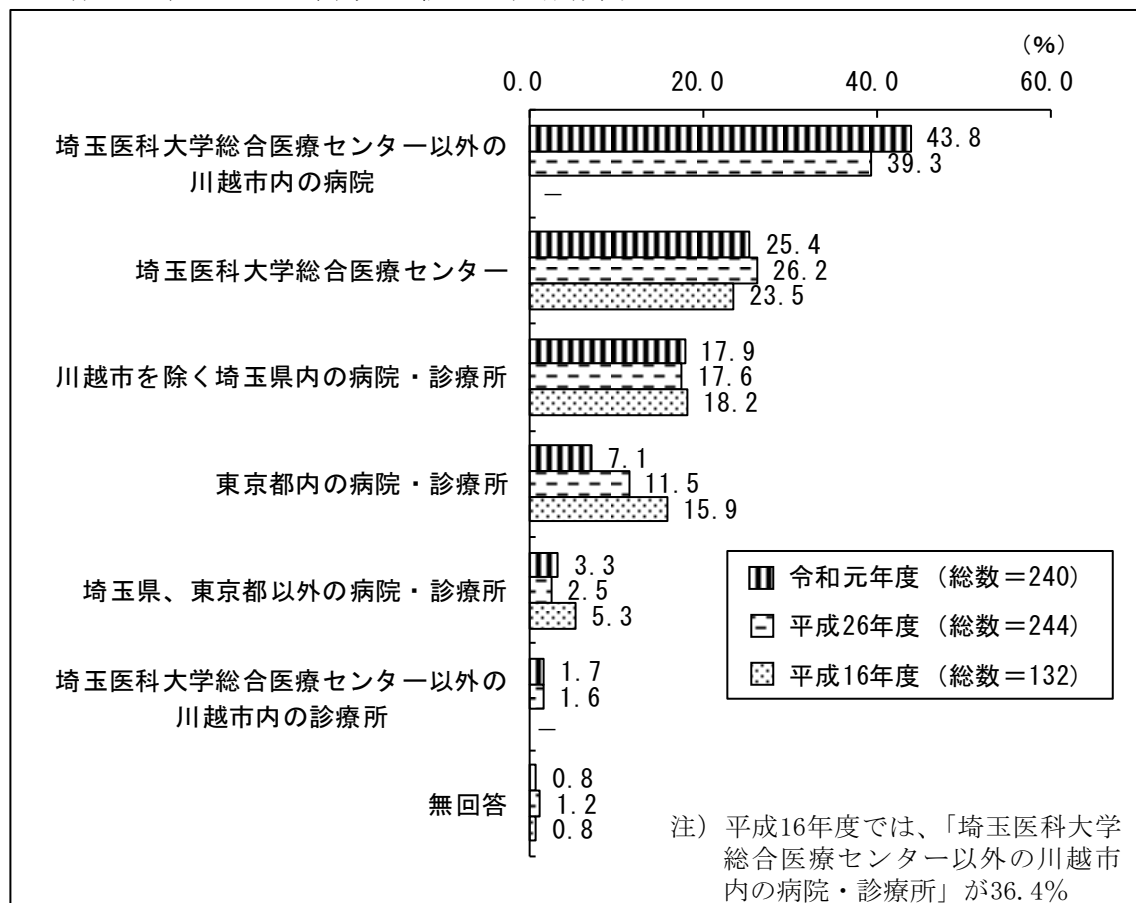
問 8 - 1 この5年間に入院した医療機関

【問8で、「1. ある」と答えた方におたずねします。】

問 8 - 1 どちらの医療機関※に入院されましたか。(1つに○)

◆ 2回以上入院された方は、最近入院された場合についてお答えください。

■ 全体・時系列この5年間に入院した医療機関



※医療機関（病院と診療所）について

- ・患者を入院させることができる施設等（病床）が、20床以上ある医療機関が「病院」です。
- ・病床が19床以下、または、病床が無い医療機関が「診療所」です。
- ・医療機関の名称を「〇〇病院」とすることができるのは「病院」だけです。

<全体・時系列>

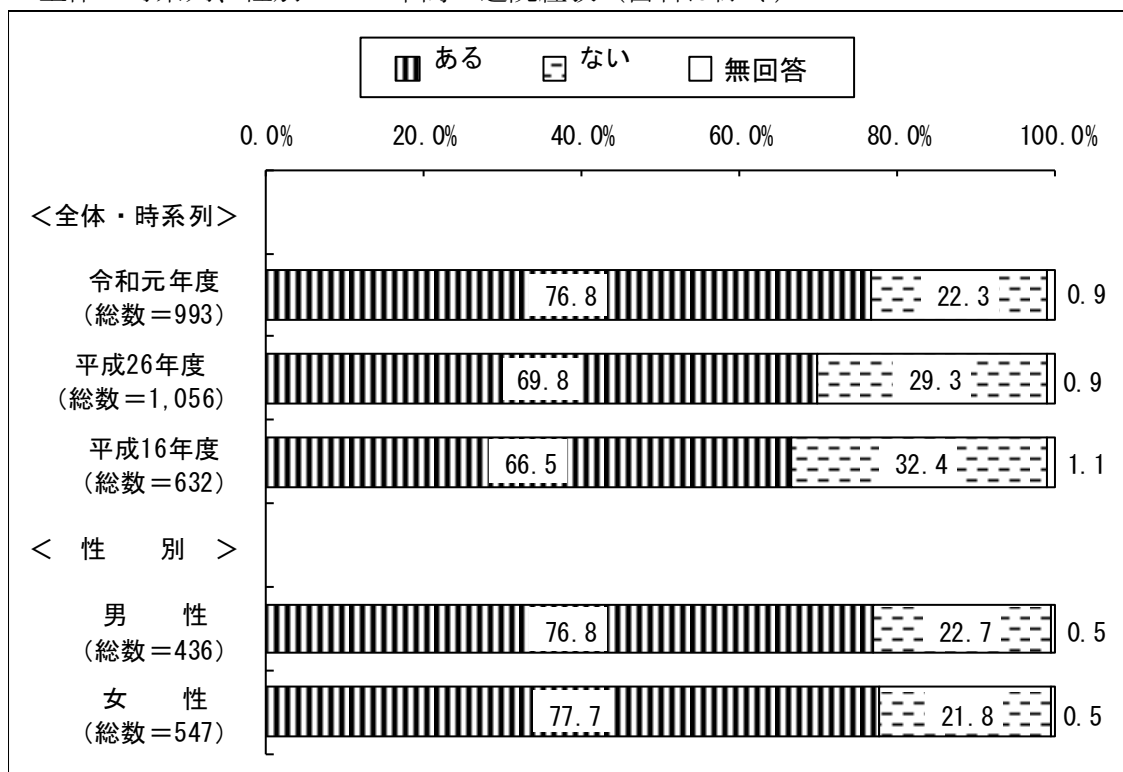
この5年間に入院した医療機関は、「埼玉医科大学総合医療センター以外の川越市内の病院」が最も高く43.8%、次いで「埼玉医科大学総合医療センター」が25.4%、「川越市を除く埼玉県内の病院・診療所」が17.9%となっています。

「埼玉医科大学総合医療センター以外の川越市内の病院」が、平成26年度（39.3%）よりも4.5ポイント高くなっています。

問9 この1年間の通院経験

問9 あなたは、この1年間に医療機関に通院（歯科は除く）したことがありますか。
（1つに○）

■全体・時系列、性別この1年間の通院経験（歯科は除く）



<全体・時系列>

この1年間の通院経験（歯科は除く）は、「ある」が76.8%、「ない」が22.3%となっています。

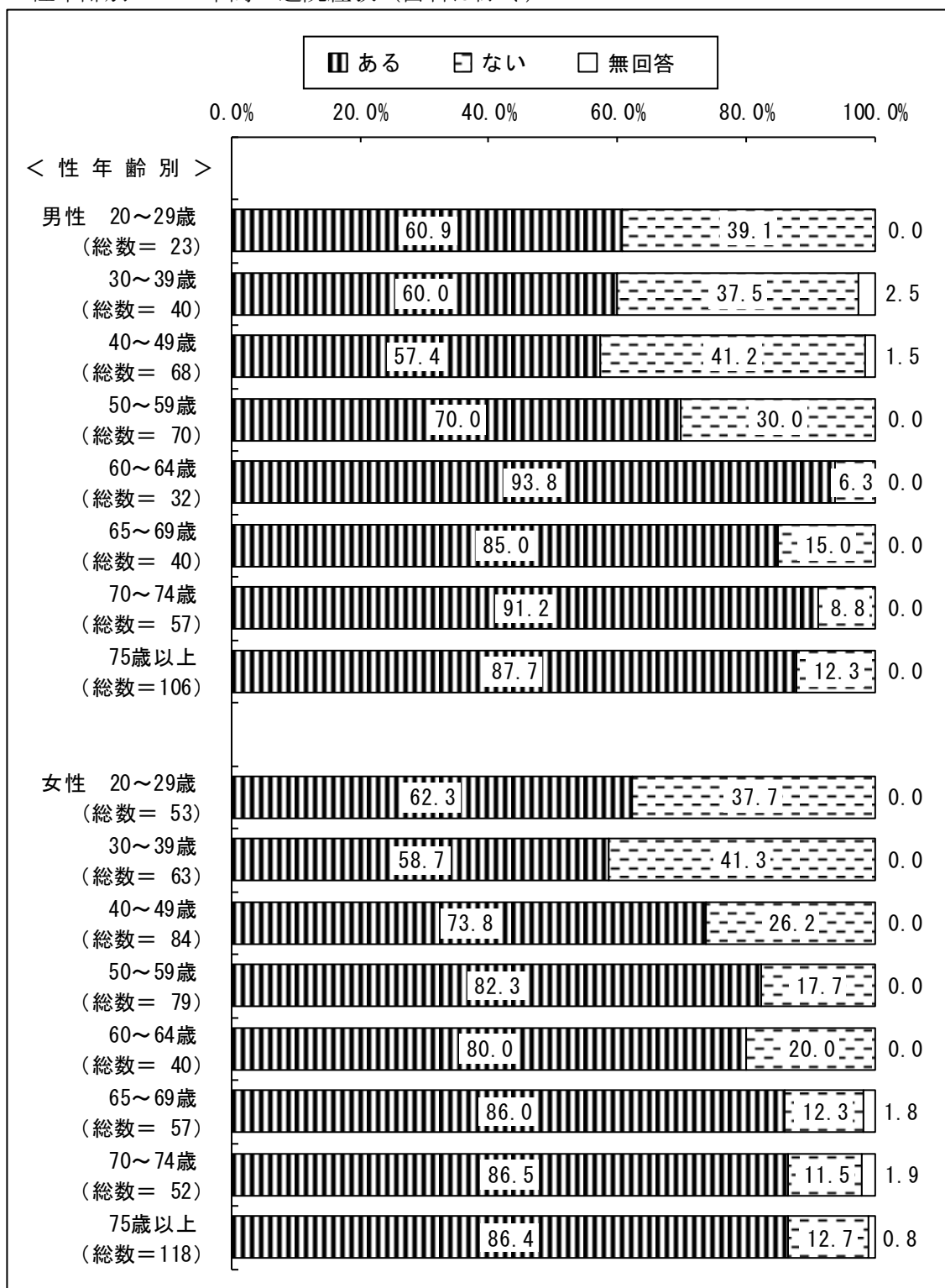
通院経験が「ある」割合は、平成16年度以降上昇傾向にあり、平成26年度（69.8%）よりも7.0ポイント高くなっています。

<性別>

この1年間に通院経験（歯科は除く）が「ある」割合は、女性が77.7%、男性が76.8%であり、女性が男性よりも0.9ポイント高くなっています。

2 調査結果

■性年齢別この1年間の通院経験（歯科は除く）



<性年齢別>

男性、女性ともに、年齢が高くなるにつれこの1年間の通院経験（歯科は除く）が「ある」割合が上昇する傾向にあり、男性では60歳以上、女性では50歳以上で8割以上となっています。

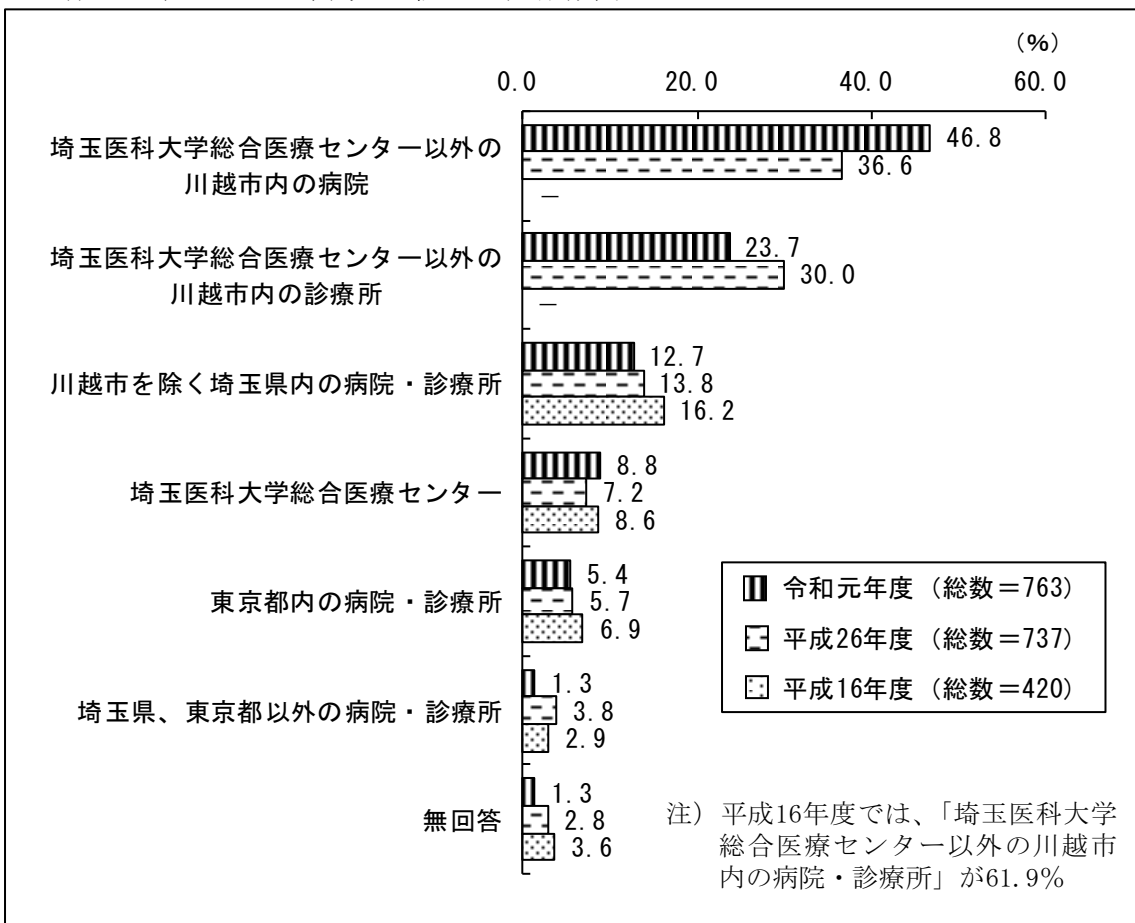
問9-1 この1年間に通院した医療機関

【問9で、「1. ある」と答えた方におたずねします。】

問9-1 どちらの医療機関に通院されましたか。(1つに○)

◆2回以上通院された方は、最近通院された場合についてお答えください。

■全体・時系列この1年間に通院した医療機関



<全体・時系列>

この1年間に通院した医療機関は、「埼玉医科大学総合医療センター以外の川越市内の病院」が最も高く46.8%、次いで「埼玉医科大学総合医療センター以外の川越市内の診療所」が23.7%、「川越市を除く埼玉県内の病院・診療所」が12.7%となっています。

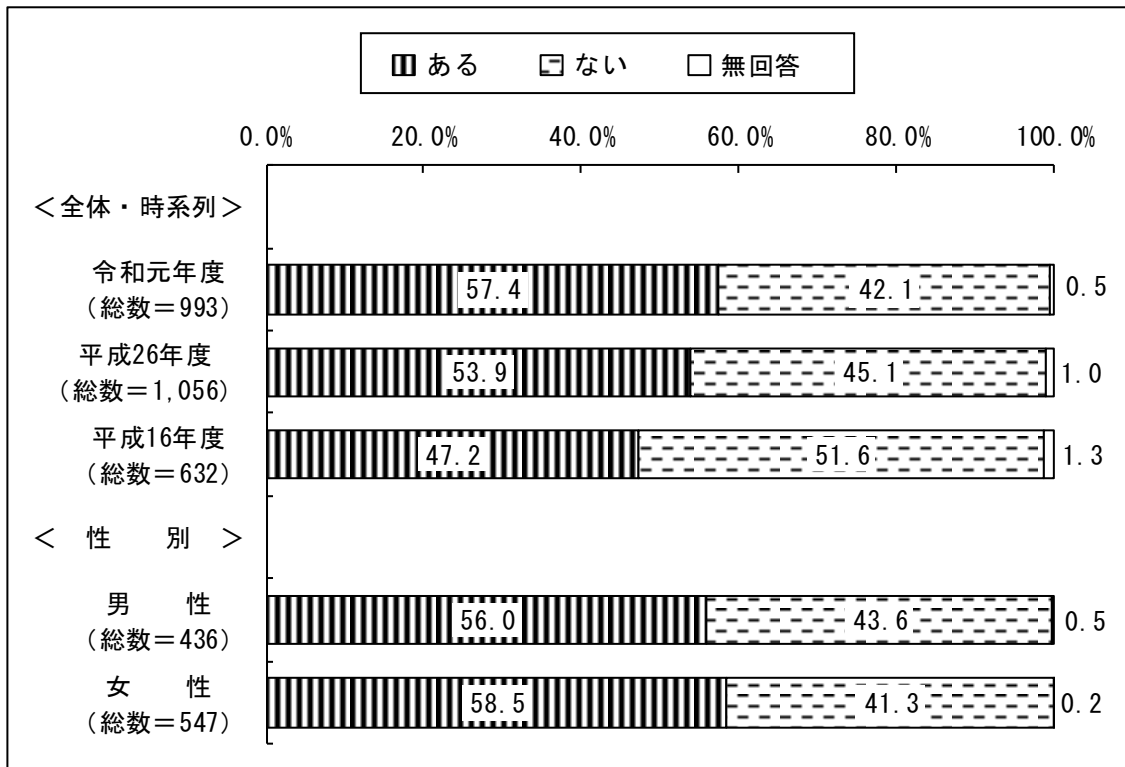
「埼玉医科大学総合医療センター以外の川越市内の病院」が平成26年度(36.6%)よりも10.2ポイント高くなり、「埼玉医科大学総合医療センター以外の川越市内の診療所」が平成26年度(30.0%)よりも6.3ポイント低くなっています。

2 調査結果

問10 この1年間の歯科医院への通院経験

問10 あなたは、この1年間に歯科医院に通院したことがありますか。(1つに○)

■全体・時系列、性別この1年間の歯科医院への通院経験



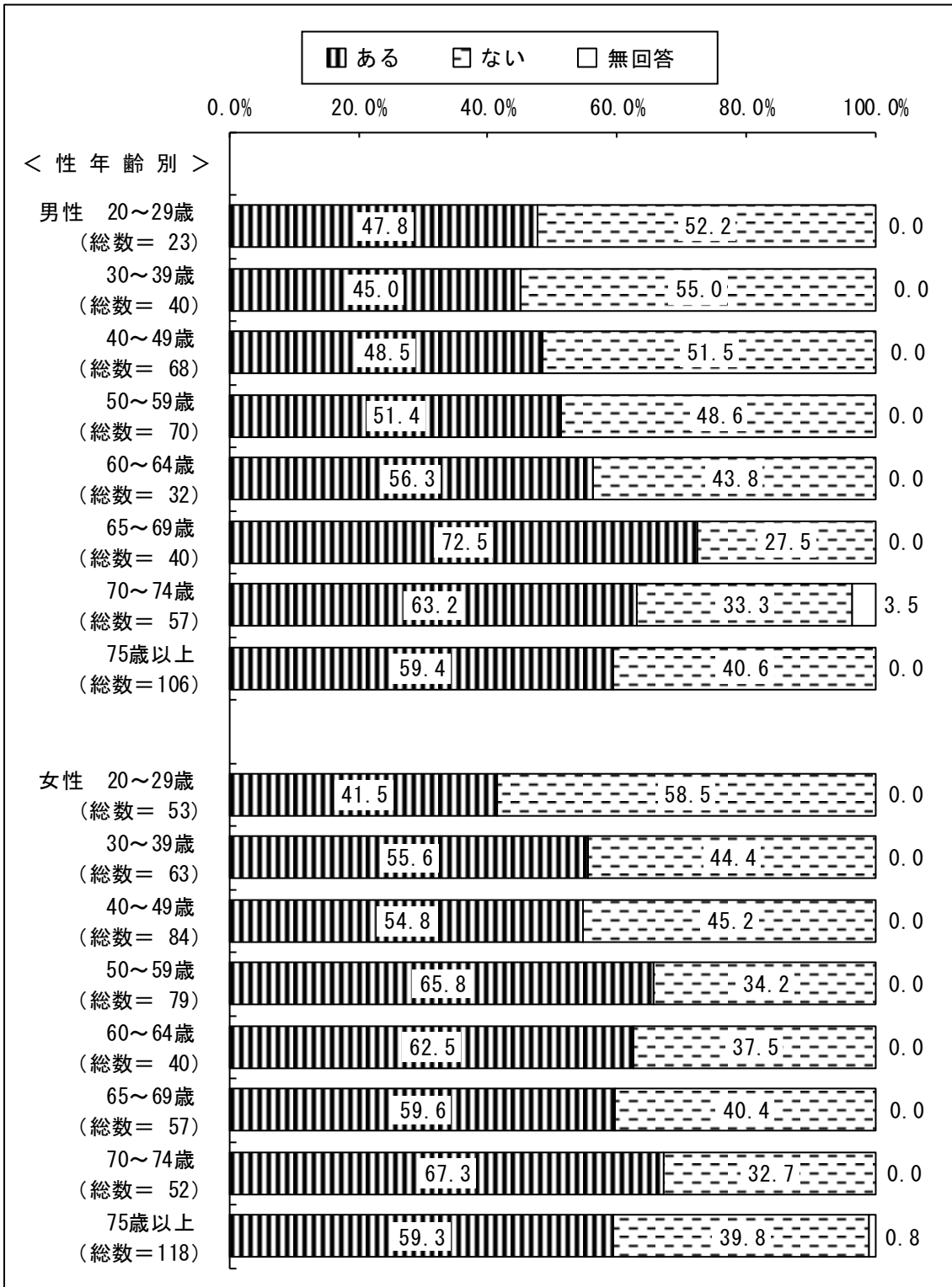
<全体・時系列>

この1年間の歯科医院への通院経験は、「ある」が57.4%、「ない」が42.1%であり、平成16年度以降、通院経験が「ある」割合が上昇傾向にあり、令和元年度では平成26年度(53.9%)よりも3.5ポイント高くなっています。

<性別>

この1年間に歯科医院への通院経験が「ある」割合は、女性が58.5%、男性が56.0%であり、女性が男性よりも2.5ポイント高くなっています。

■性年齢別この1年間の歯科医院への通院経験



<性年齢別>

この1年間の歯科医院への通院経験が「ある」割合は、男性の65~69歳が72.5%と比較的高く、男性の49歳以下、女性の20~29歳では4割台となっています。

2 調査結果

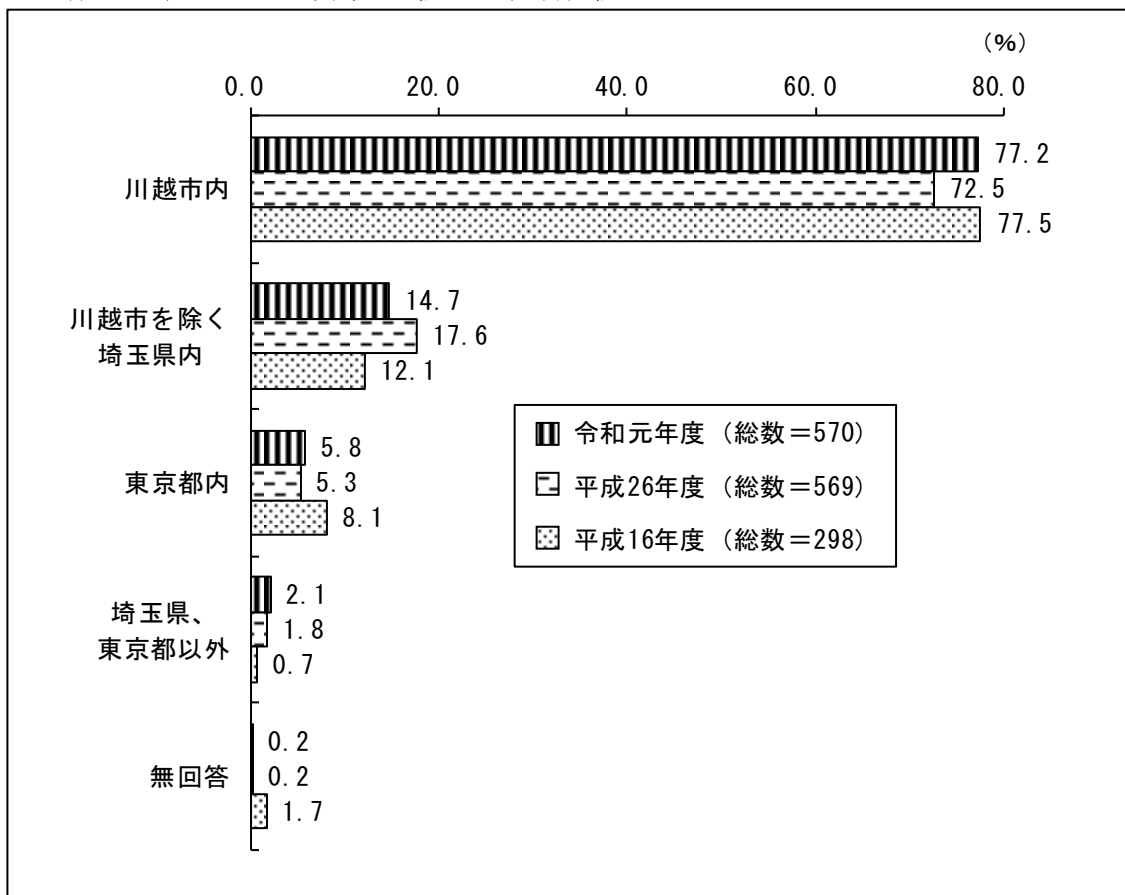
問10-1 この1年間に通院した歯科医院

【問10で、「1. ある」と答えた方におたずねします。】

問10-1 どちらの歯科医院に通院されましたか。(1つに○)

◆2回以上通院された方は、最近通院された場合についてお答えください。

■全体・時系列この1年間に通院した歯科医院



<全体・時系列>

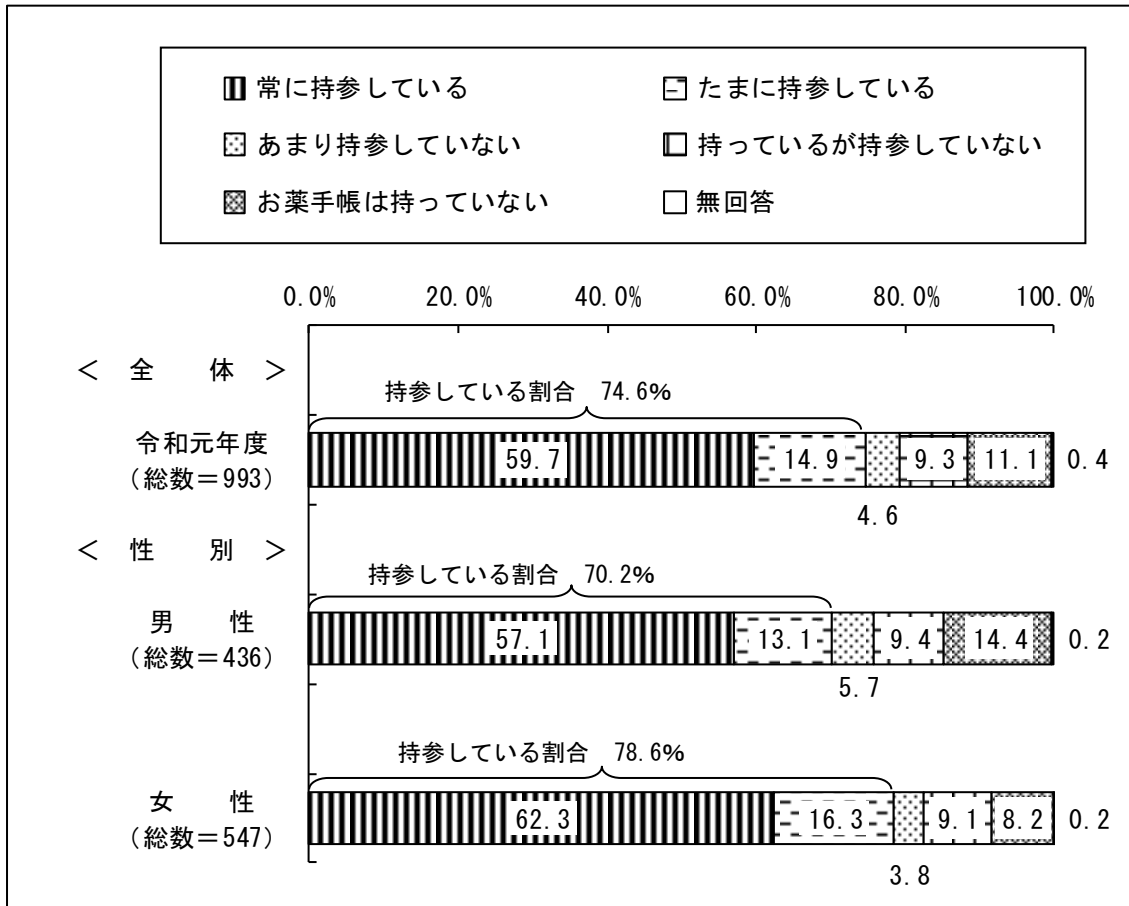
この1年間に通院した歯科医院は、「川越市内」が77.2%と最も高く、次いで「川越市を除く埼玉県内」が14.7%、「東京都内」が5.8%となっています。

各年度とも「川越市内」が7割台であり、令和元年度は平成26年度(72.5%)よりも4.7ポイント高くなっています。

問11 お薬手帳の持参状況

問11 あなたは、医療機関・薬局に行く際に、お薬手帳を持参していますか。(1つに○)

■全体・性別お薬手帳の持参状況



<全体>

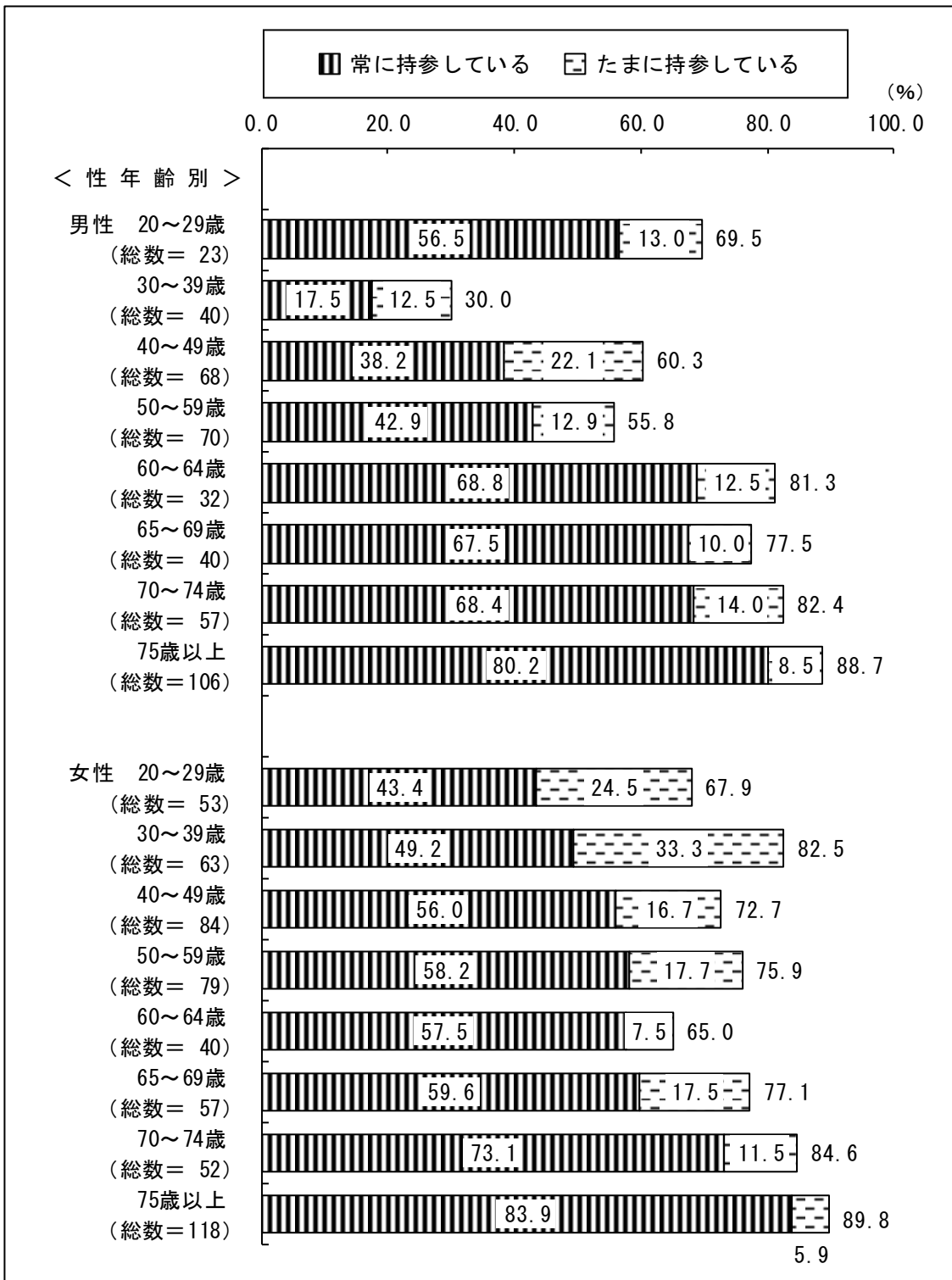
お薬手帳の持参状況は、「常に持参している」が59.7%、「たまに持参している」が14.9%であり、これらを合わせお薬手帳を持参している割合は74.6%となっています。

<性別>

お薬手帳を持参している（「常に持参している」と「たまに持参している」合計）割合は、女性が78.6%、男性が70.2%であり、女性が男性よりも8.4ポイント高くなっています。

2 調査結果

■ 性年齢別お薬手帳を持参している割合



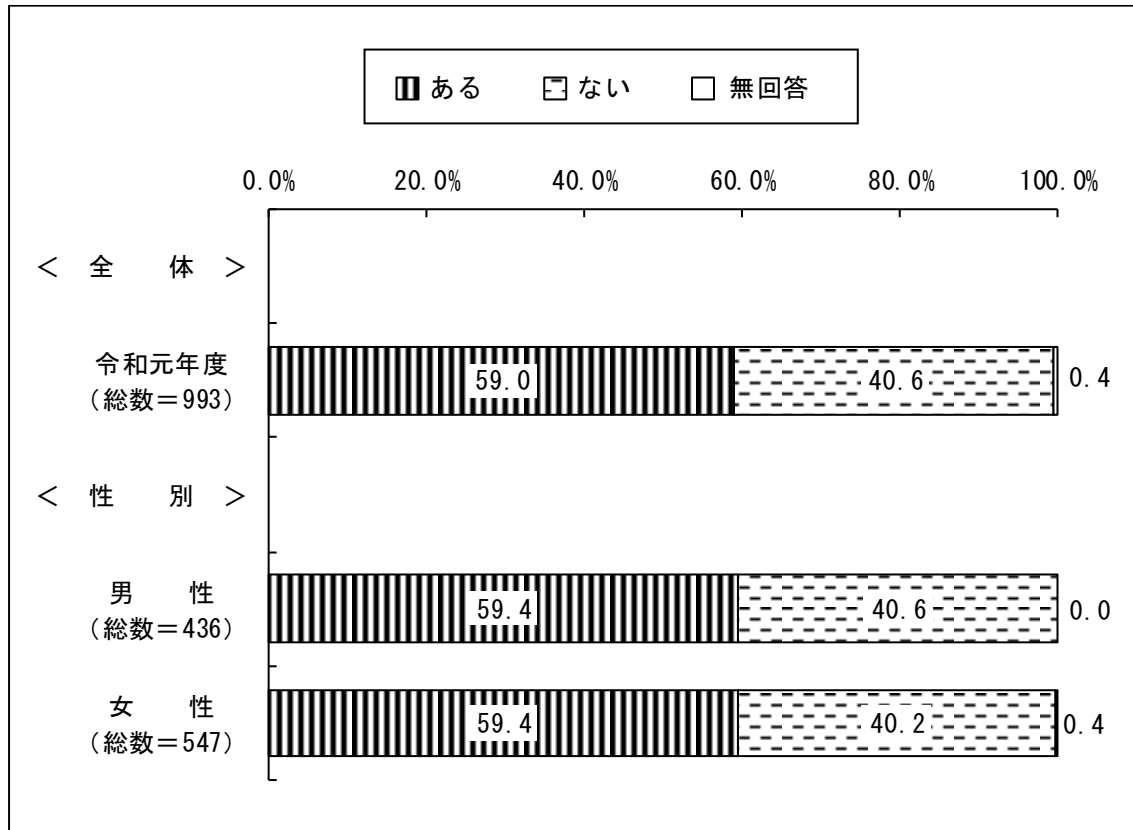
<性年齢別>

お薬手帳を持参している（「常に持参している」と「たまに持参している」の合計）割合が8割以上なのは、男性は75歳以上（88.7%）、70～74歳（82.4%）、60～64歳（81.3%）、女性は75歳以上（89.8%）、70～74歳（84.6%）、30～39歳（82.5%）となっています。

問12 処方薬の飲み残しの有無

問12 あなたは、医療機関から処方された薬を飲み残したことがありますか。(1つに○)

■全体・性別処方薬の飲み残しの有無



<全体・時系列>

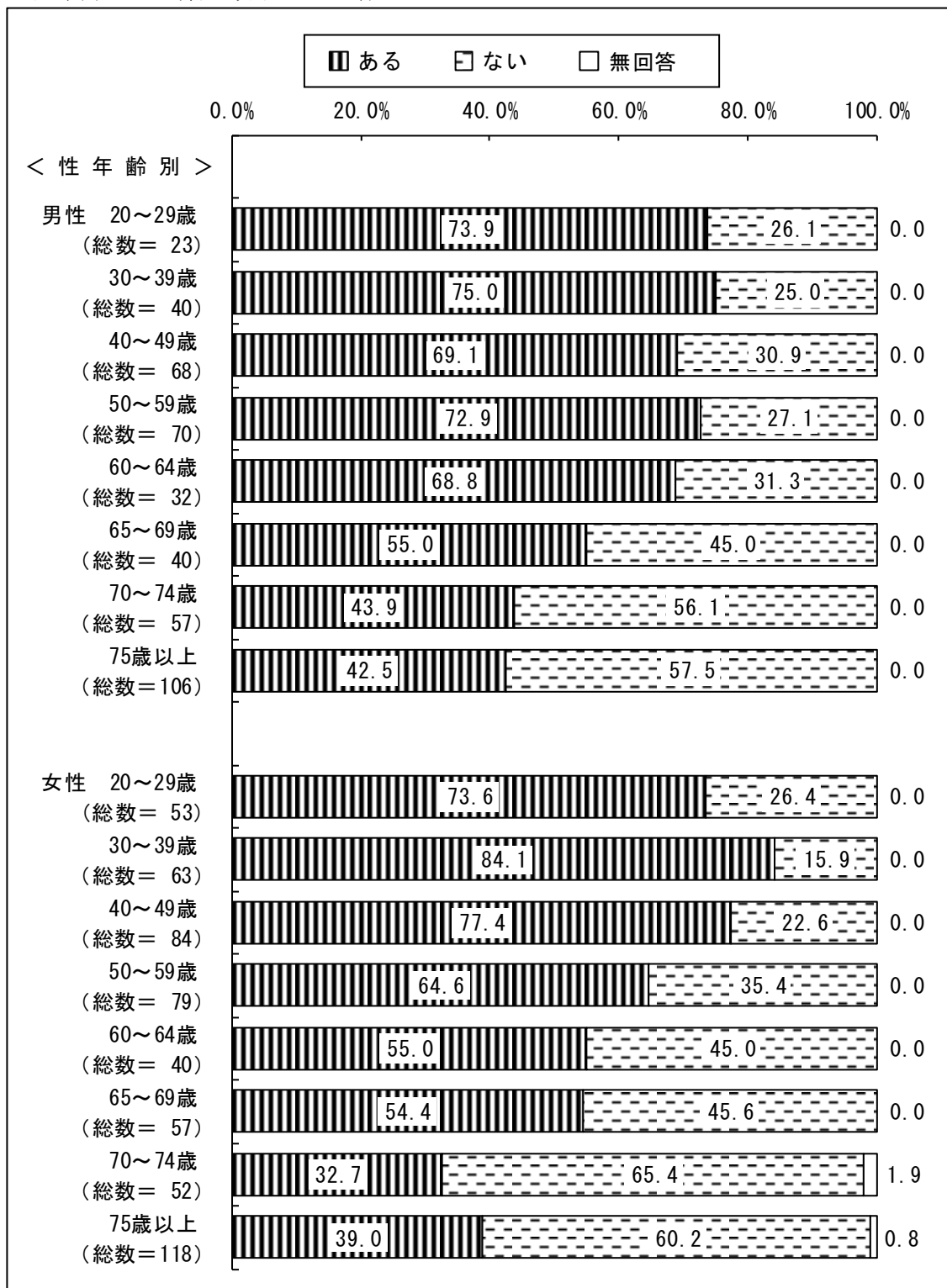
処方薬の飲み残しの有無は、「ある」が59.0%、「ない」が40.6%であり、約6割が処方薬の飲み残しが「ある」としています。

<性別>

処方薬の飲み残しが「ある」のは、男性、女性ともに59.4%となっています。

2 調査結果

■性年齢別処方薬の飲み残しの有無



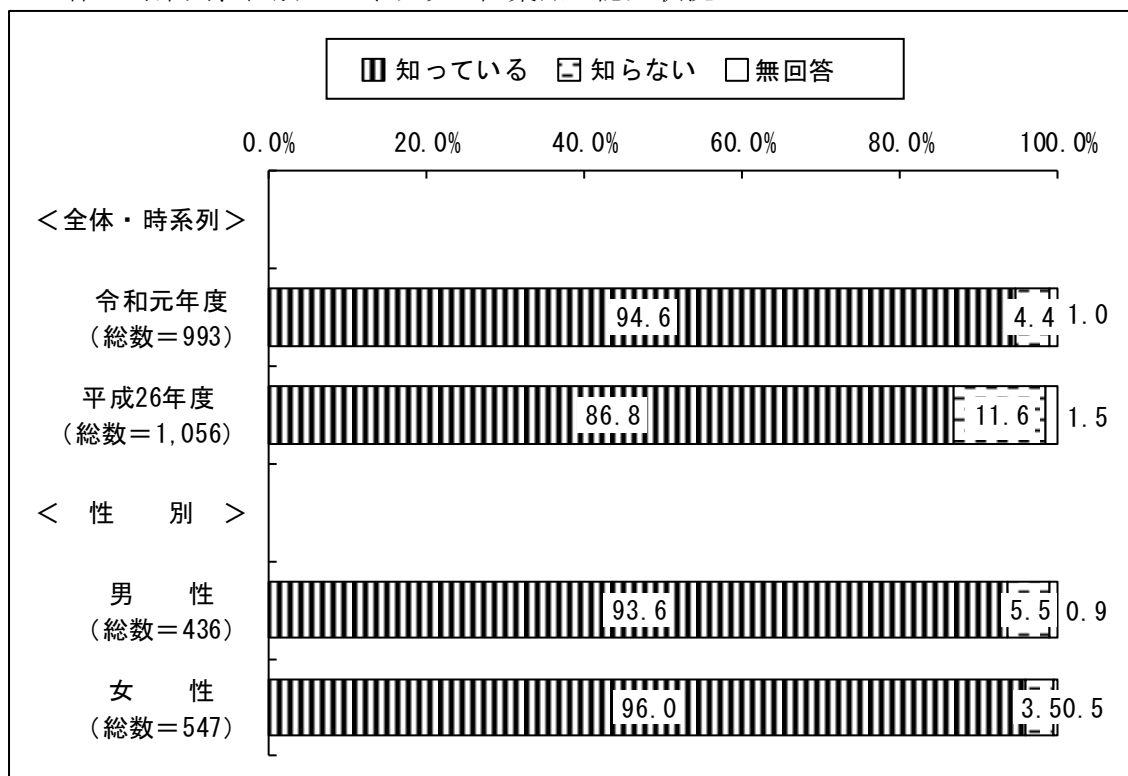
<性年齢別>

処方薬の飲み残しが「ある」のが7割以上なのは、男性は30～39歳（75.0%）、20～29歳（73.9%）、50～59歳（72.9%）、女性は30～39歳（84.1%）、40～49歳（77.4%）、20～29歳（73.6%）となっています。

問13 ジェネリック医薬品の認知状況

問13 あなたは、ジェネリック医薬品（後発医薬品）※を知っていますか。（1つに○）

■全体・時系列、性別ジェネリック医薬品の認知状況



※ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、新薬（先発医薬品）の特許が切れた後に製造販売される、新薬と同一の有効成分を同一量含み、同一の効能・効果を持つ医薬品のことです。

<全体・時系列>

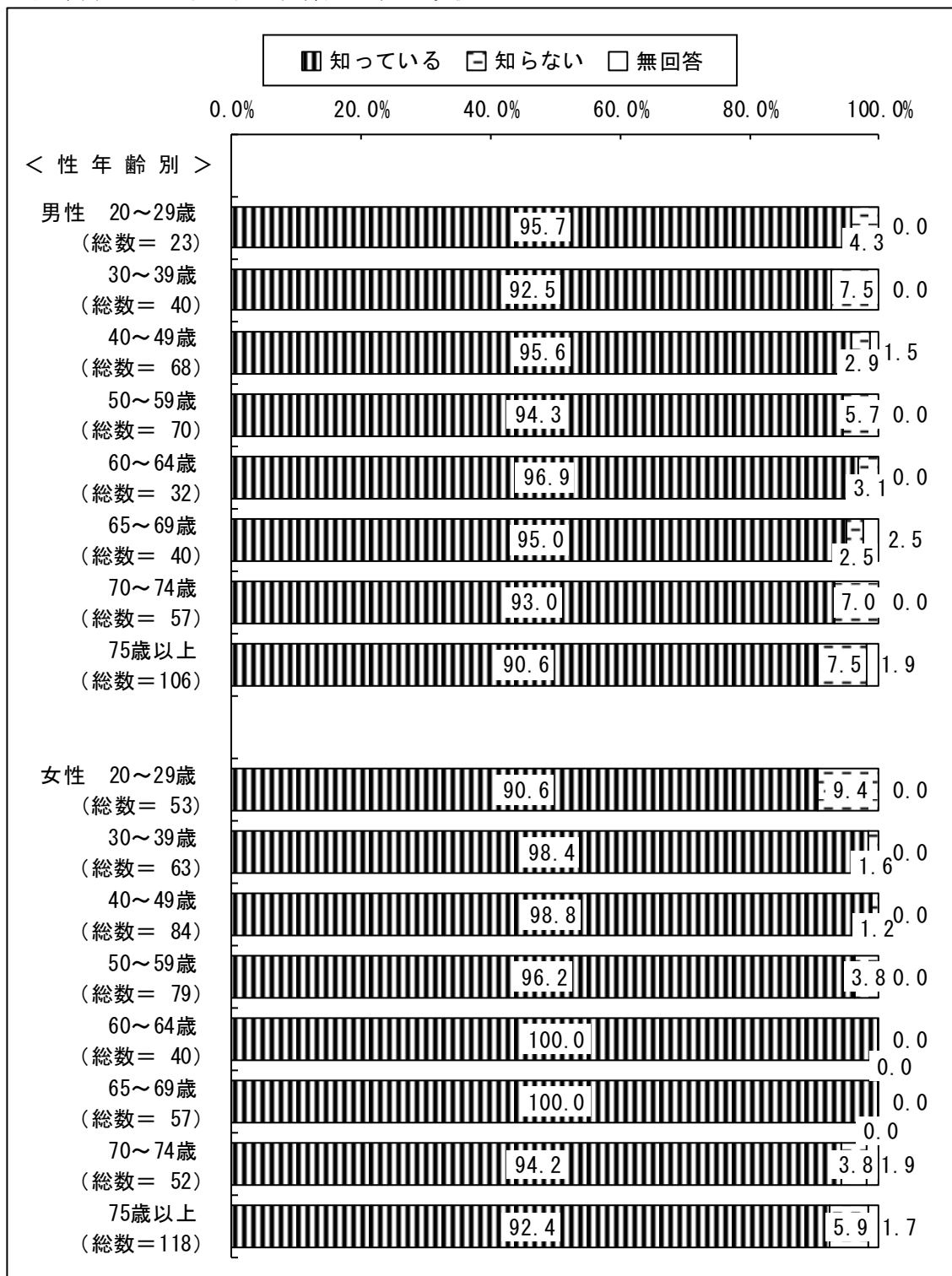
ジェネリック医薬品の認知状況は、「知っている」が94.6%、「知らない」が4.4%であり、「知っている」割合は平成26年度（86.8%）よりも7.8ポイント高くなっています。

<性別>

ジェネリック医薬品を「知っている」のは、女性が96.0%、男性が93.6%であり、女性が男性よりも2.4ポイント高くなっています。

2 調査結果

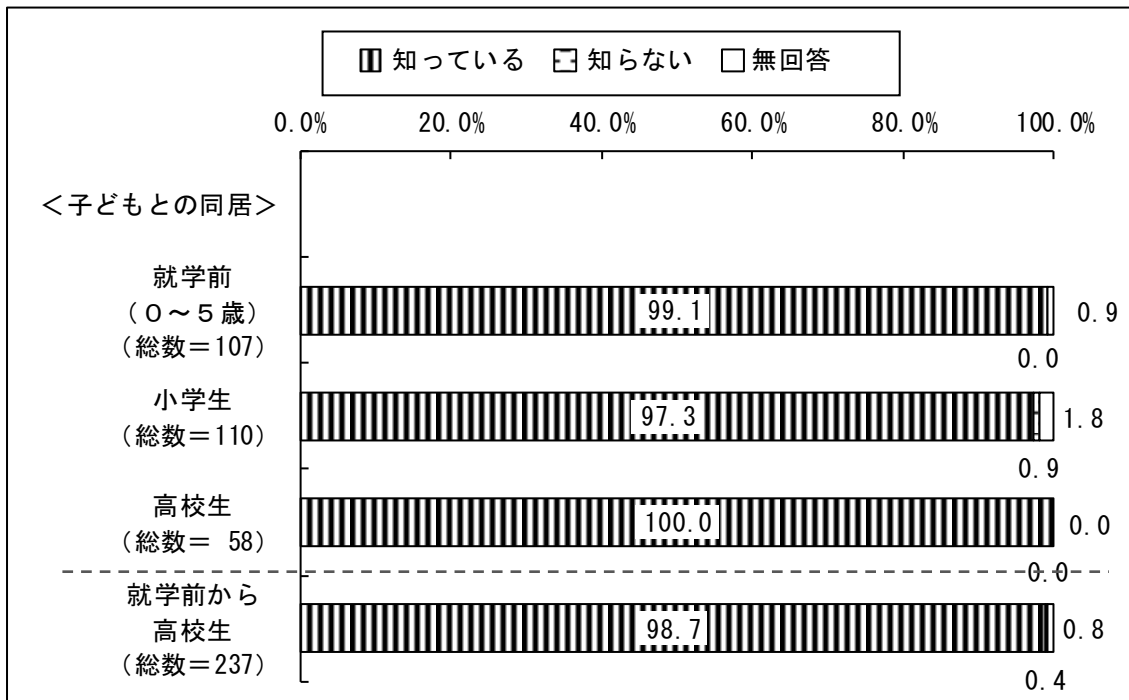
■性年齢別ジェネリック医薬品の認知状況



<性年齢別>

ジェネリック医薬品を「知っている」のは、男性女性の各年代とも9割以上であり、女性の60～64歳、65～69歳では100.0%となっています。

■子どもとの同居ジェネリック医薬品の認知状況



<子どもとの同居>

子どもとの同居の場合のジェネリック医薬品の認知状況は、就学前(0~5歳)、小学生、中学生、高校生のいずれも、ジェネリック医薬品を「知っている」が9割以上と高くなっています。

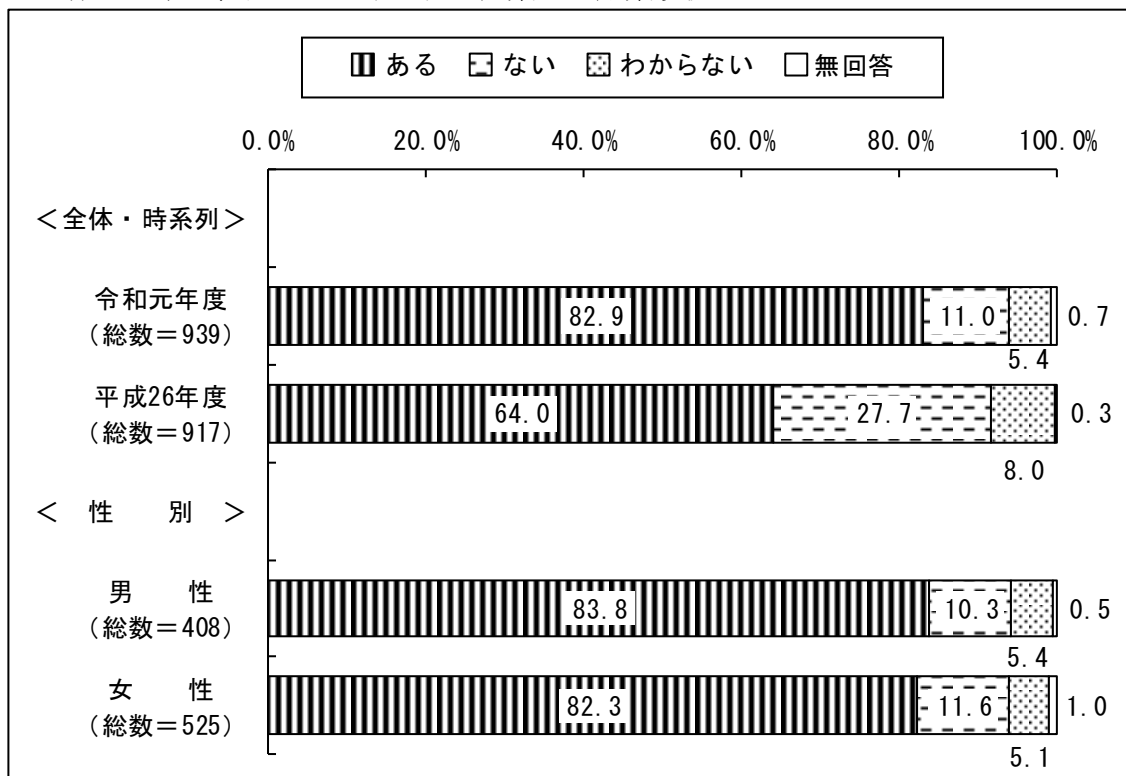
2 調査結果

問13-1 ジェネリック医薬品の服薬状況

【問13で、「1. 知っている」と答えた方におたずねします。】

問13-1 あなたは、ジェネリック医薬品（後発医薬品）を服用したことがありますか。
（1つに○）

■全体・時系列、性別ジェネリック医薬品の服薬状況



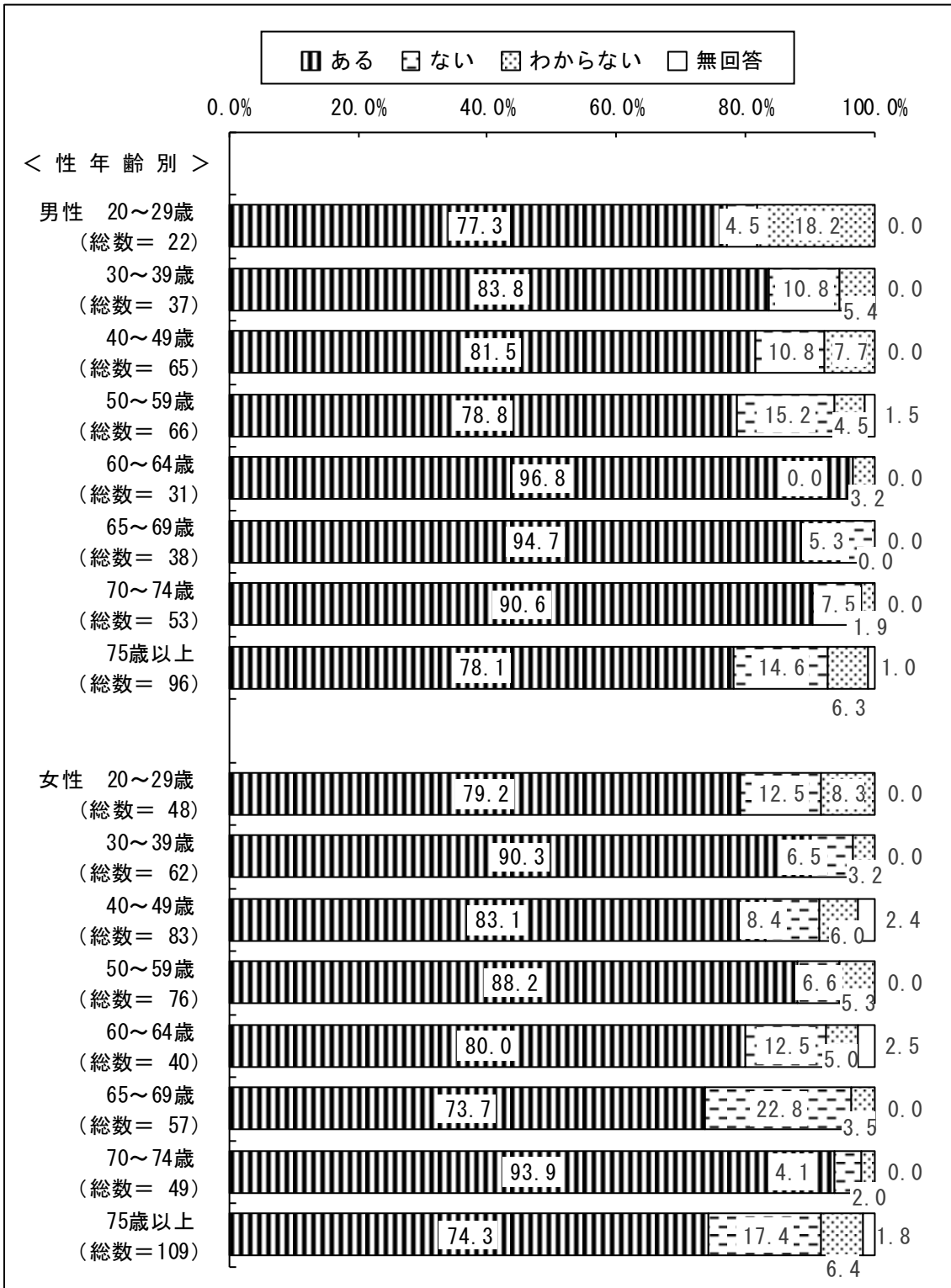
<全体・時系列>

ジェネリック医薬品を「知っている」場合、ジェネリック医薬品を服用したことが「ある」のは82.9%と8割台であり、平成26年度（64.0%）よりも18.9ポイント高くなっています。

<性別>

ジェネリック医薬品を服用したことが「ある」のは、男性が83.8%、女性が82.3%であり、男性が女性よりも1.5ポイント高くなっています。

■性年齢別ジェネリック医薬品の服薬状況



<性年齢別>

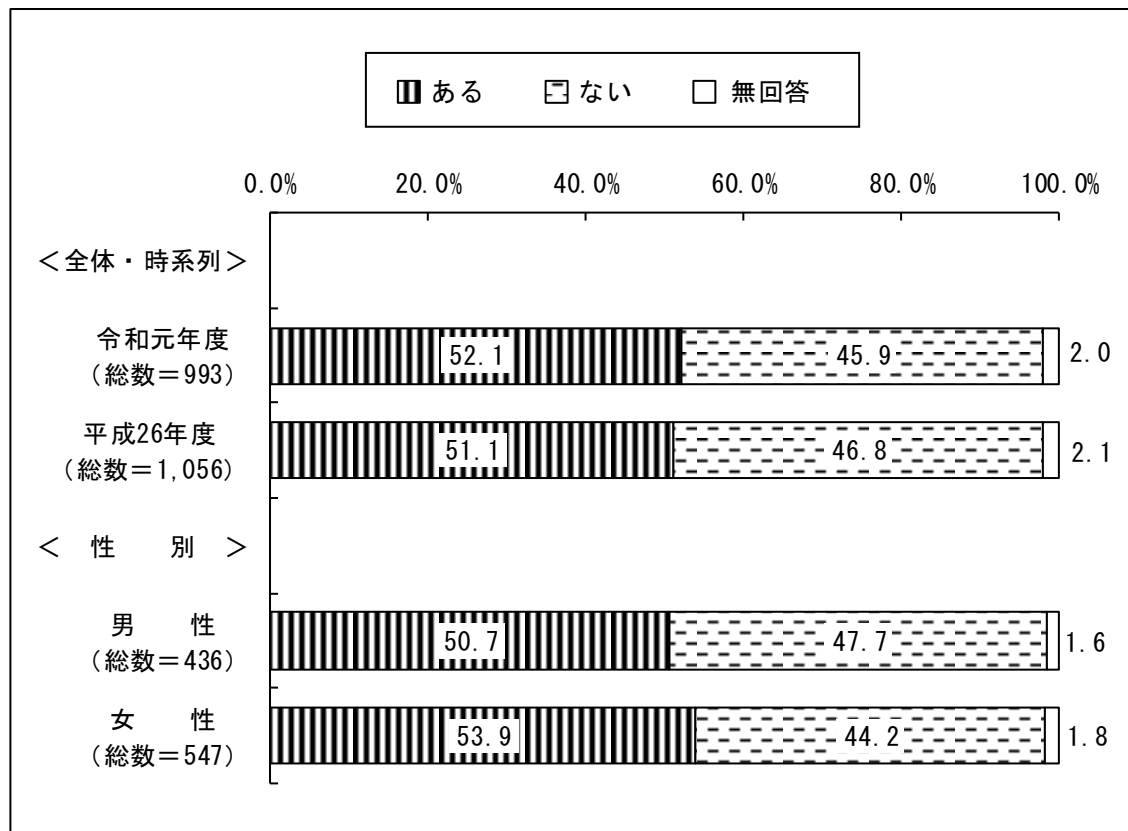
ジェネリック医薬品を服用したことが「ある」割合が9割以上なのは、男性の60～64歳（96.8%）、65～69歳（94.7%）、70～74歳（90.6%）、女性の70～74歳（93.9%）、30～39歳（90.3%）となっています。

2 調査結果

問14 診療時間外の急病経験

問14 あなたやご家族が、休日や夜間などの医療機関の診療時間外に急に具合が悪くなったことがありますか。(1つに○)

■全体・時系列、性別診療時間外の急病経験



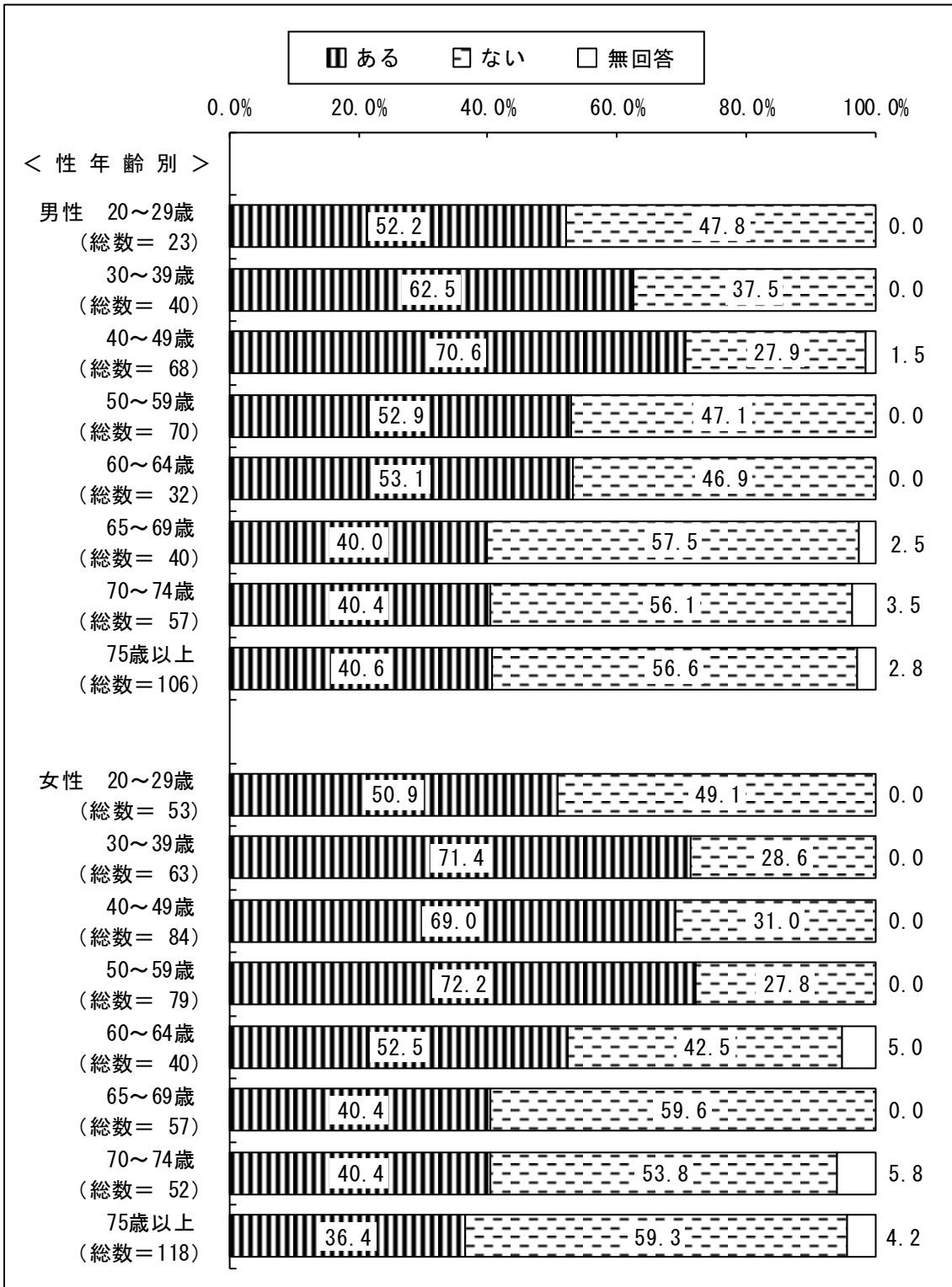
<全体・時系列>

休日や夜間などの医療機関の診療時間外に、自分や家族が急に具合が悪くなったことが「ある」のは52.1%であり、平成26年度（51.1%）よりも1.0ポイント高くなっています。

<性別>

休日や夜間などの医療機関の診療時間外に、自分や家族が急に具合が悪くなったことが「ある」のは、女性が53.9%、男性が50.7%であり、女性が男性よりも3.2ポイント高くなっています。

■ 性年齢別診療時間外の急病経験



< 性年齢別 >

自分や家族が、休日や夜間などの医療機関の診療時間外に急に具合が悪くなったことが「ある」のが7割以上なのは、男性の40～49歳（70.6%）、女性の50～59歳（72.2%）、30～39歳（71.4%）となっています。

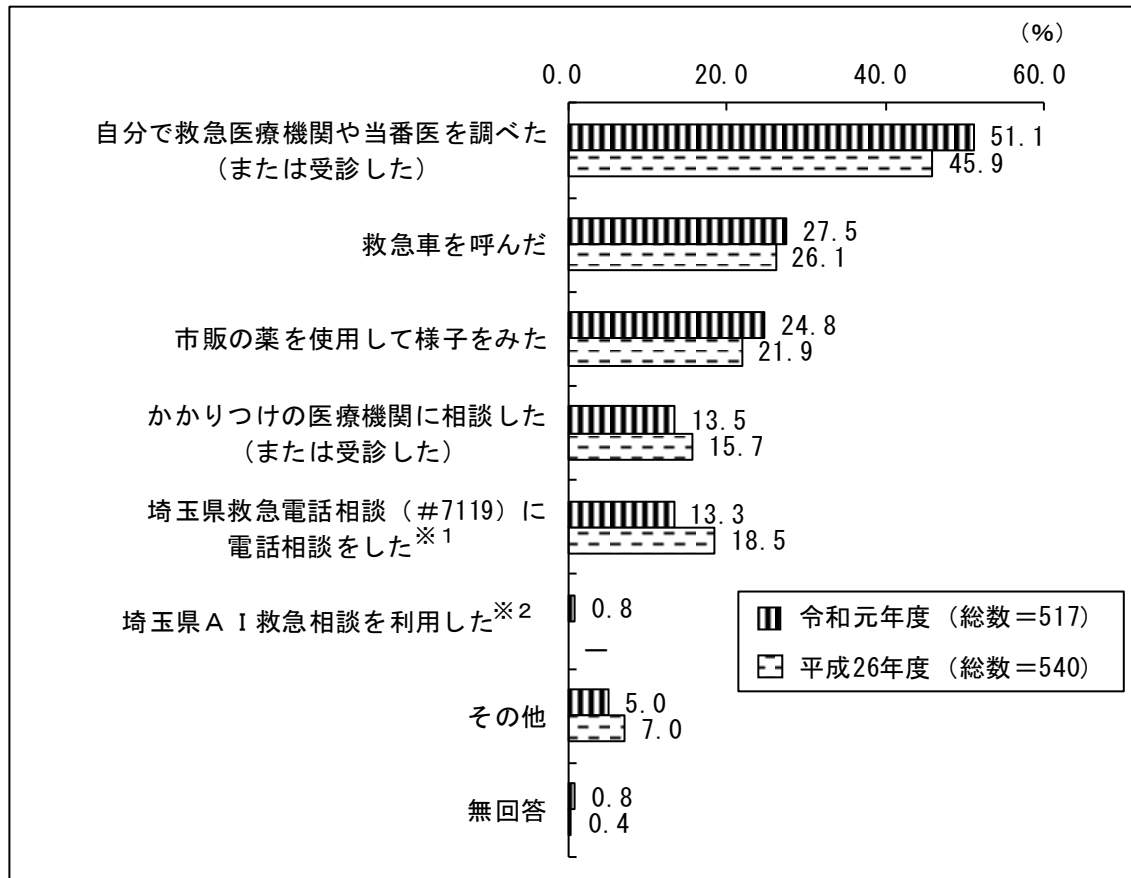
2 調査結果

問14-1 診療時間外の急病時の対応

【問14で、「1. ある」と答えた方におたずねします。】

問14-1 その時あなたは、どのようにしましたか。(〇はいくつでも)

■全体・時系列診療時間外の急病時の対応（複数回答）



※1 埼玉県では、急な病気やけがの際に、家庭での対処方法や医療機関への受診の必要性について、看護師が電話で相談に応じる埼玉県救急電話相談を実施しています。

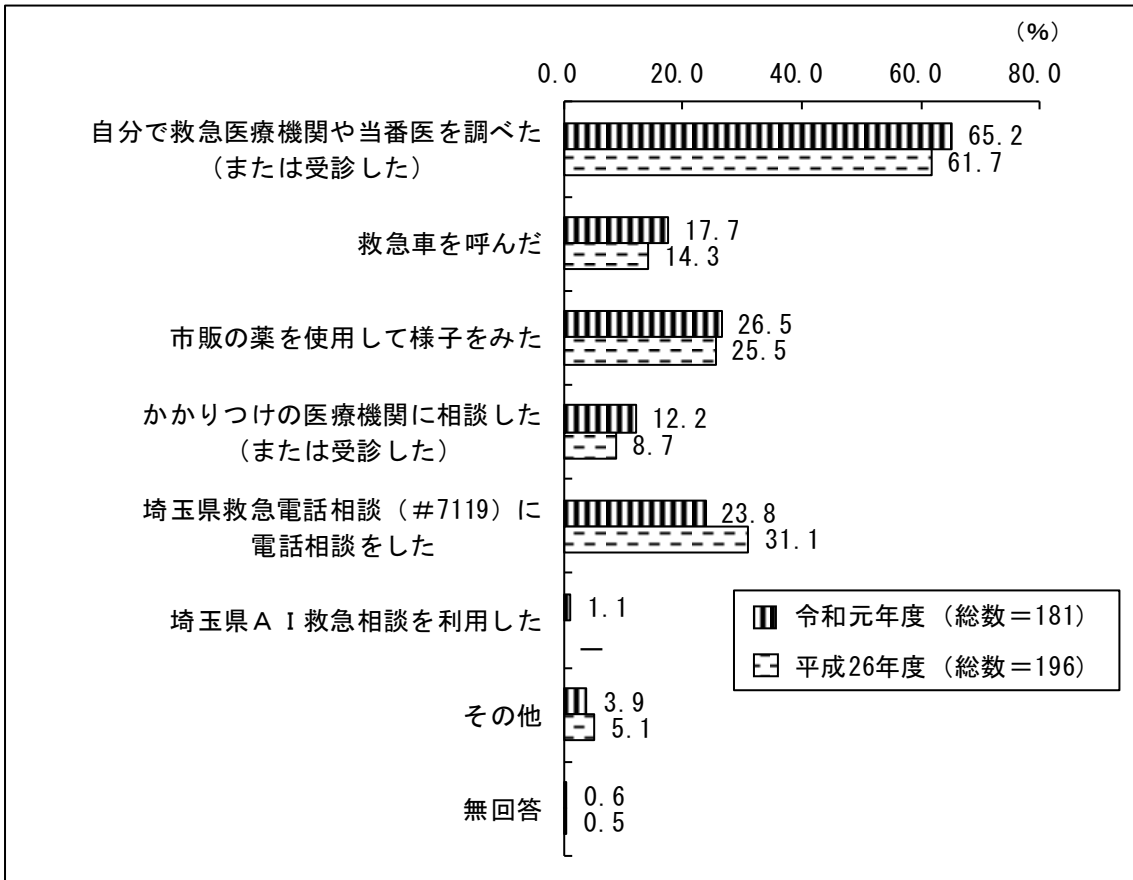
※2 埼玉県では、上記の救急電話相談に加えて、スマートフォンやパソコンから御利用いただける全国初のA Iを活用した救急相談（埼玉県A I救急相談）を導入しています。

<全体・時系列>

休日や夜間などの医療機関の診療時間外に、自分や家族が急に具合が悪くなったことが「ある」場合の対応は、「自分で救急医療機関や当番医を調べた(または受診した)」が最も高く51.1%、次いで「救急車を呼んだ」が27.5%、「市販の薬を使用して様子を見た」が24.8%となっています。

また、「自分で救急医療機関や当番医を調べた(または受診した)」のは平成26年度(45.9%)よりも5.2ポイント高くなっていますが、「埼玉県救急電話相談(#7119)に電話相談をした」は平成26年度(18.5%)よりも5.2ポイント低くなっています。

■ 子どもとの同居診療時間外の急病時の対応（複数回答）



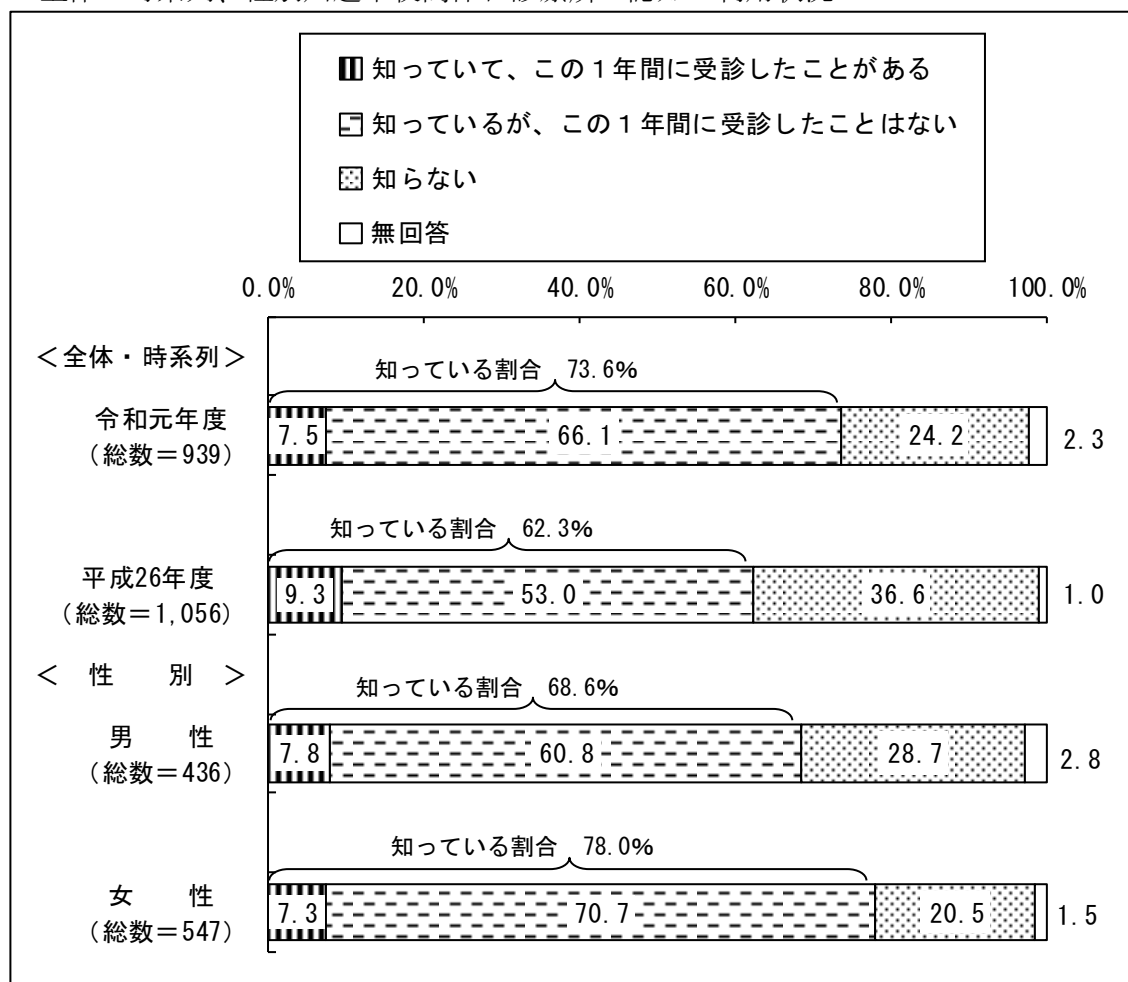
<子どもとの同居・時系列>

就学前（0～5歳）、小学生、中学生、高校生の子どもの同居の場合、診療時間外の急病時の対応は、「自分で救急医療機関や当番医を調べた（または受診した）」が最も高く65.2%であり、平成26年度（61.7%）よりも3.5ポイント高くなっています。

問15 川越市夜間休日診療所の認知・利用状況

問15 あなたは、月曜から土曜の夜間、日曜・祝日・年末年始の昼間・夜間に診療を行う「川越市医師会夜間休日診療所」を知っていますか。また、この1年間に、あなたやご家族が受診したことがありますか。(1つに○)

■全体・時系列、性別川越市夜間休日診療所の認知・利用状況



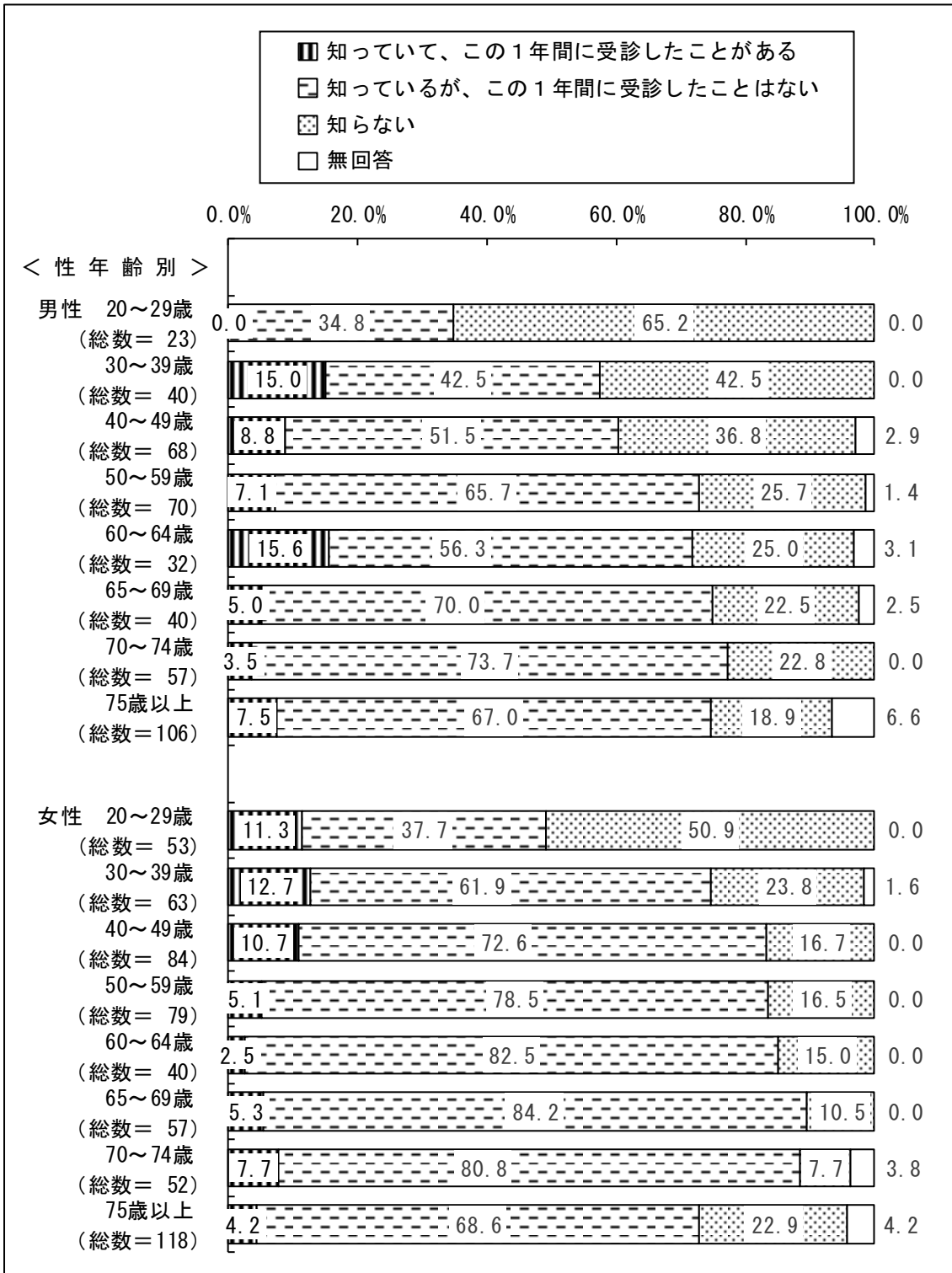
＜全体・時系列＞

川越市夜間休日診療所を「知っている、この1年間に受診したことがある」のは7.5%、「知っているが、この1年間に受診したことはない」が66.1%となっており、これらを合わせ川越市夜間休日診療所を知っている割合は73.6%で、平成26年度（62.3%）よりも11.3ポイント高くなっています。

＜性別＞

川越市夜間休日診療所を「知っている、この1年間に受診したことがある」のは、男性、女性とも1割に満たない状況ですが、知っている割合は女性が78.0%、男性が68.6%であり、女性が男性よりも9.4ポイント高くなっています。

■性年齢別川越市夜間休日診療所の認知・利用状況



<性年齢別>

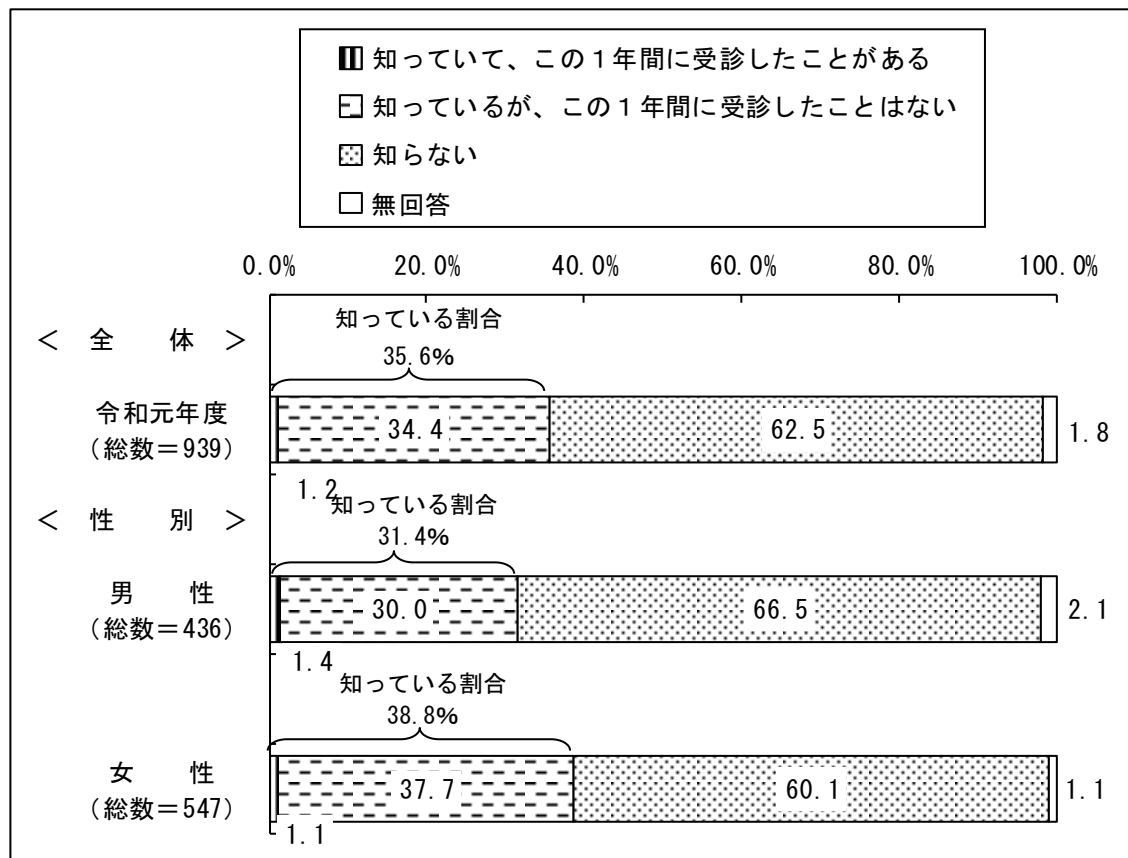
川越市夜間休日診療所を「知っている、この1年間に受診したことがある」のが1割以上なのは、男性の60～64歳（15.6%）、30～39歳（15.0%）、女性の30～39歳（12.7%）、20～29歳（11.3%）、40～49歳（10.7%）となっています。

知っている割合は、男性の50歳以上、女性の30歳以上では7割以上ですが、男性の20～29歳では34.8%、女性の20～29歳では49.0%と低くなっています。

問16 川越市予防歯科センターの認知・利用状況

問16 あなたは、日曜日・祝日・年末年始に緊急に歯科の受診が必要な方の診療を行う「川越市予防歯科センター」を知っていますか。また、この1年間に、あなたやご家族が受診したことがありますか。(1つに〇)

■全体、性別川越市予防歯科センターの認知・利用状況



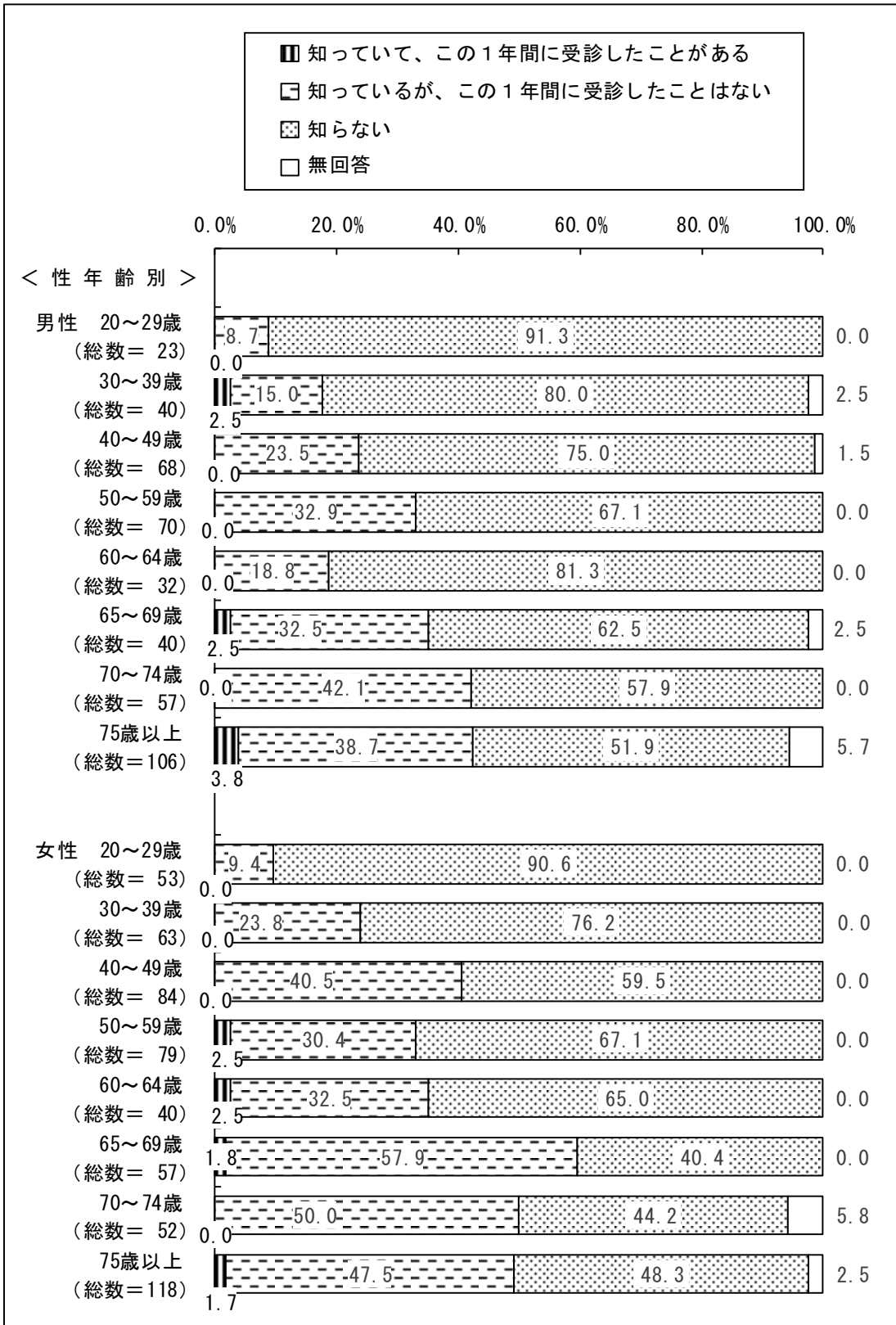
<全体>

川越市予防歯科センターを「知っていて、この1年間に受診したことがある」のは1.2%、「知っているが、この1年間に受診したことはない」が34.4%であり、これらを合わせ知っている割合は35.6%となっています。

<性別>

川越市予防歯科センターを「知っていて、この1年間に受診したことがある」のは、男性、女性とも1%台ですが、知っている割合は女性が38.8%、男性が31.4%であり、女性が男性よりも7.4ポイント高くなっています。

■性年齢別川越市予防歯科センターの認知・利用状況



<性年齢別>

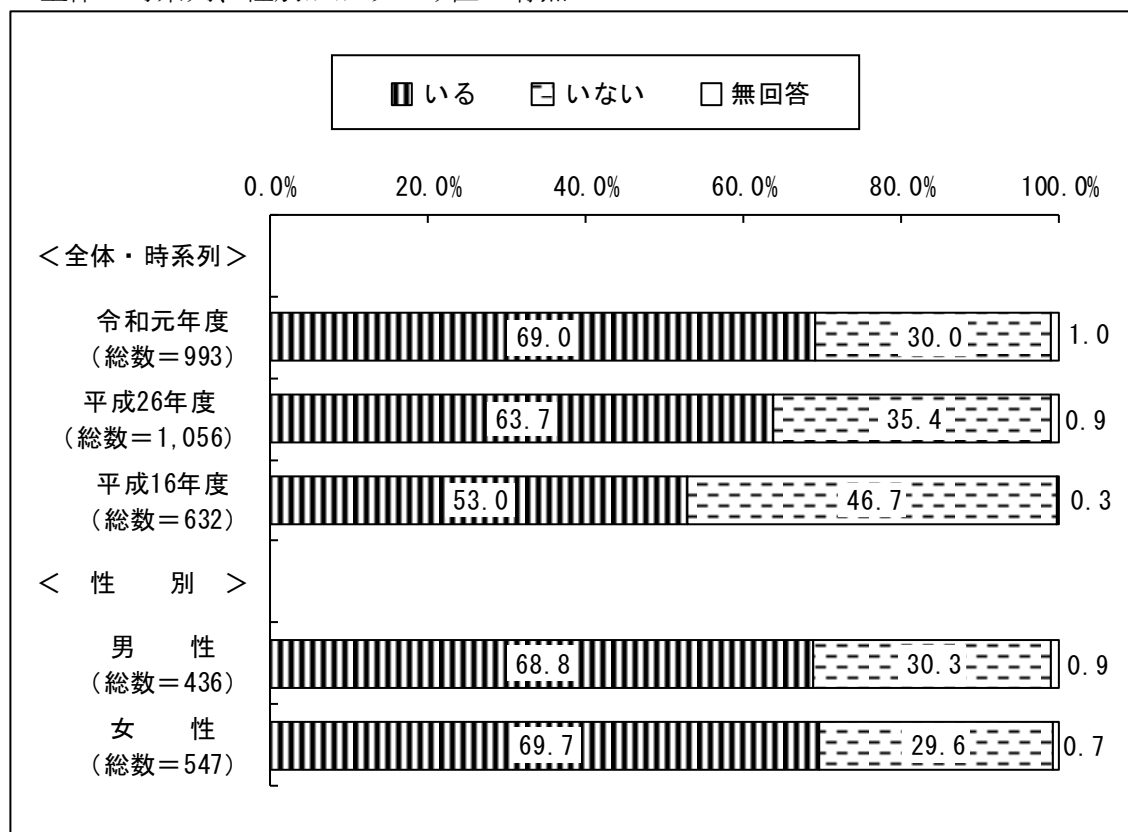
川越市夜間休日診療所を「知っている、この1年間に受診したことがある」のは、男性女性の各年代とも少数ですが、知っている割合は年齢が高くなるにつれ上昇し、女性の65～69歳では59.7%となっています。

2 調査結果

問17 かかりつけ医の有無

問17 あなたやご家族の中で、決まって診察を受ける「かかりつけ医」※がいる方はいますか。(1つに○)

■全体・時系列、性別かかりつけ医の有無



※かかりつけ医は、健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のこと。

<全体・時系列>

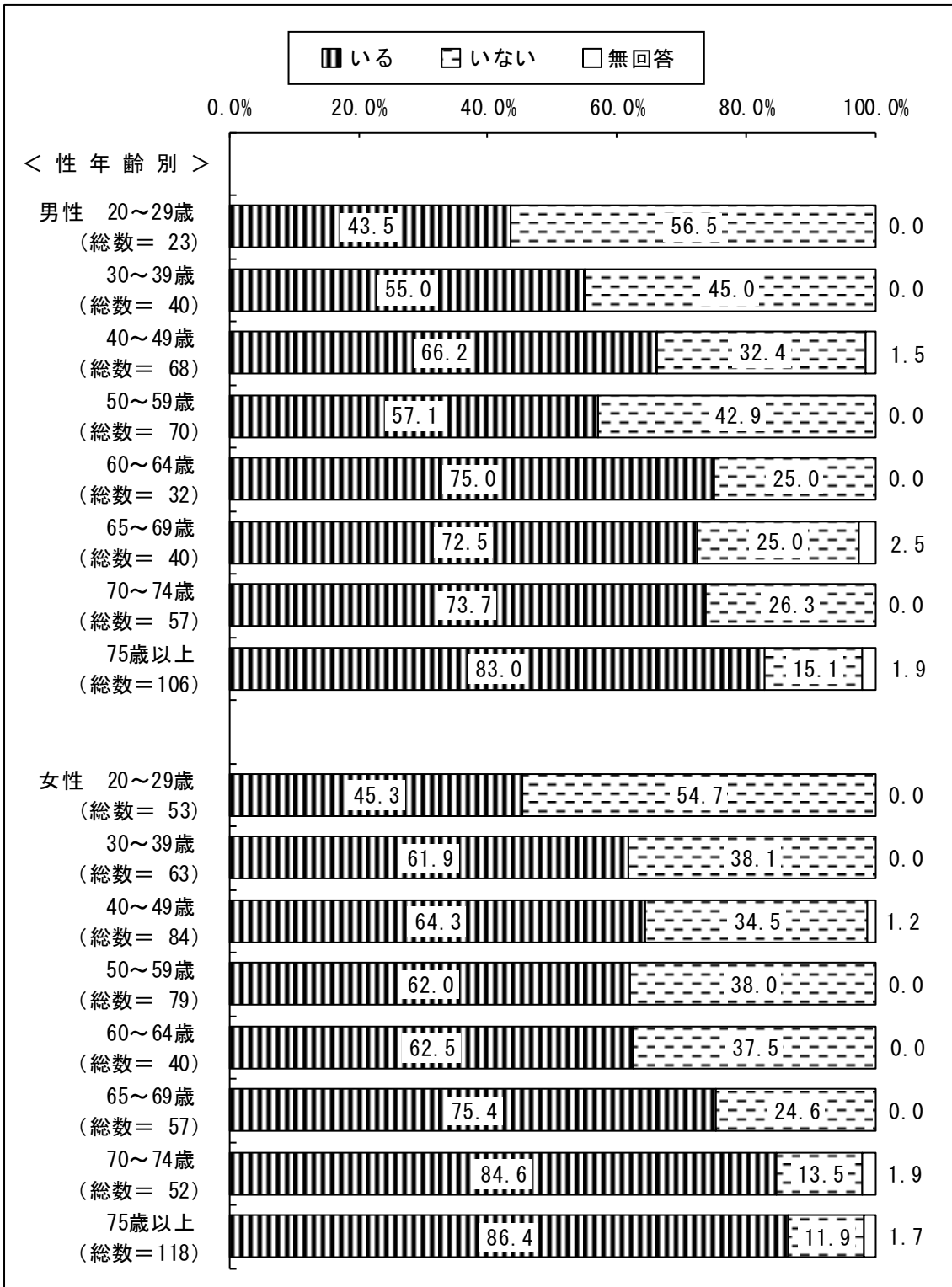
自分や家族の中で、決まって診察を受ける「かかりつけ医」が「いる」のは69.0%、「いない」が30.0%となっています。

かかりつけ医が「いる」割合は上昇傾向にあり、平成26年度(63.7%)よりも5.3ポイント高くなっています。

<性別>

自分や家族の中で、決まって診察を受ける「かかりつけ医」が「いる」のは、女性が69.7%、男性が68.8%であり、女性が男性よりも0.9ポイント高くなっています。

■ 性年齢別かかりつけ医の有無

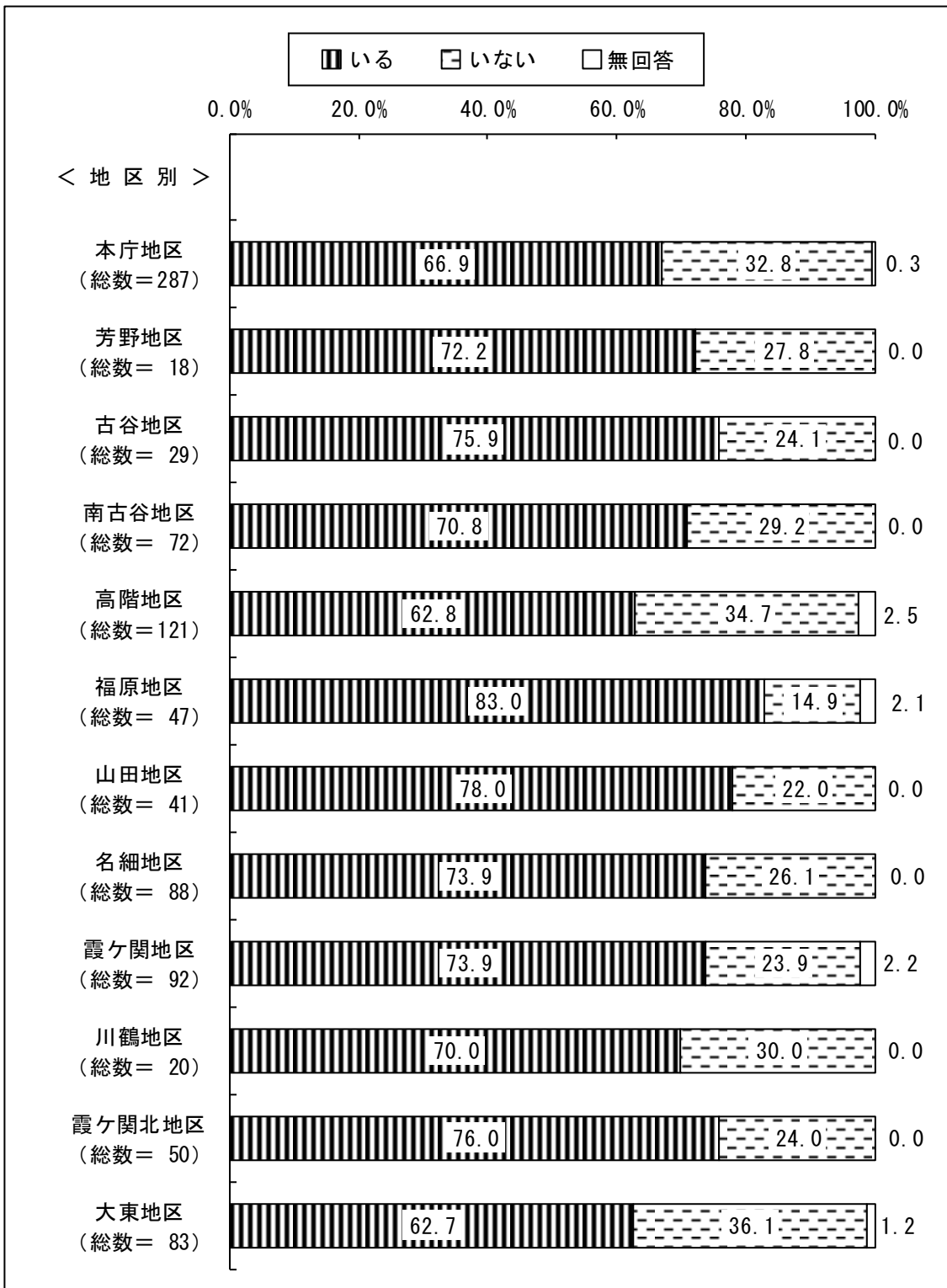


<性年齢別>

自分や家族の中で、決まって診察を受ける「かかりつけ医」が「いる」のは、男性女性ともに年齢が高くなるにつれ上昇する傾向にあり、8割以上なのは、男性の75歳以上(83.0%)、女性の70～74歳(84.6%)、75歳以上(86.4%)となっています。

2 調査結果

■ 地区別かかりつけ医の有無



<地区別>

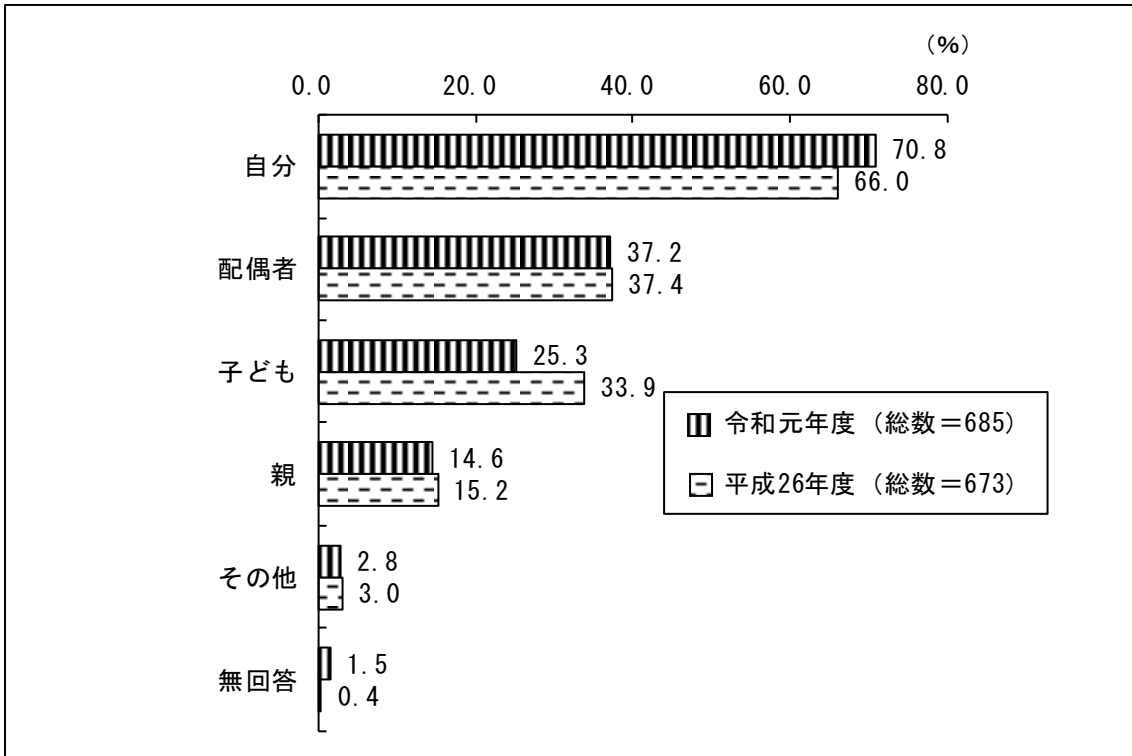
「かかりつけ医」が「いる」割合は、福原地区が最も高く83.0%、次いで山田地区が78.0%、霞ヶ関北地区が76.0%、古谷地区が75.9%となっています。

問17-1 かかりつけ医がいる家族

【問17で、かかりつけ医が「1. いる」と答えた方におたずねします。】

問17-1「かかりつけ医」がいる方は、どなたですか。（〇はいくつでも）

■全体・時系列かかりつけ医がいる家族（複数回答）



<全体・時系列>

かかりつけ医がいる家族は、「自分」が最も高く70.8%、次いで「配偶者」が37.2%、「子ども」が25.3%となっています。

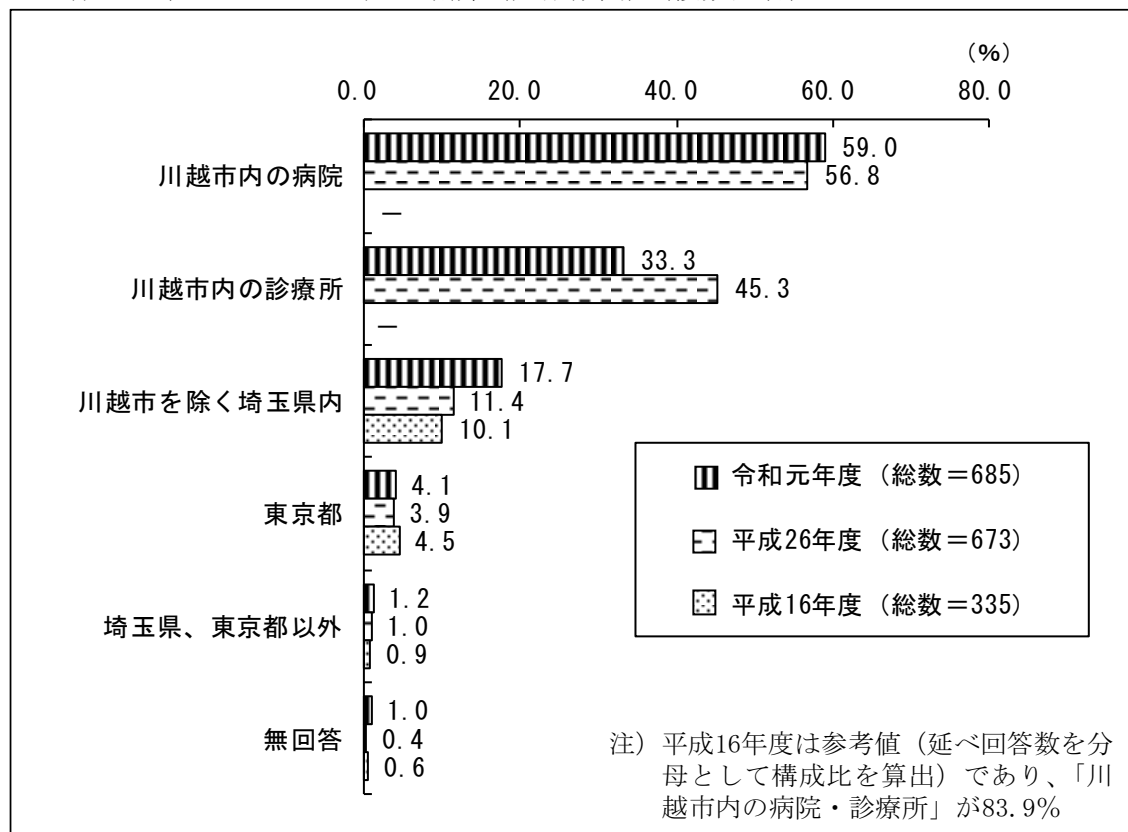
「自分」にかかりつけ医がいる割合は、平成26年度（66.0%）よりも4.8ポイント高くなっています。

2 調査結果

問17-2 かかりつけ医の場所（医療機関）

問17-2「かかりつけ医」は、どちらの医療機関の医師ですか。（〇はいくつでも）

■全体・時系列かかりつけ医の場所（医療機関）（複数回答）

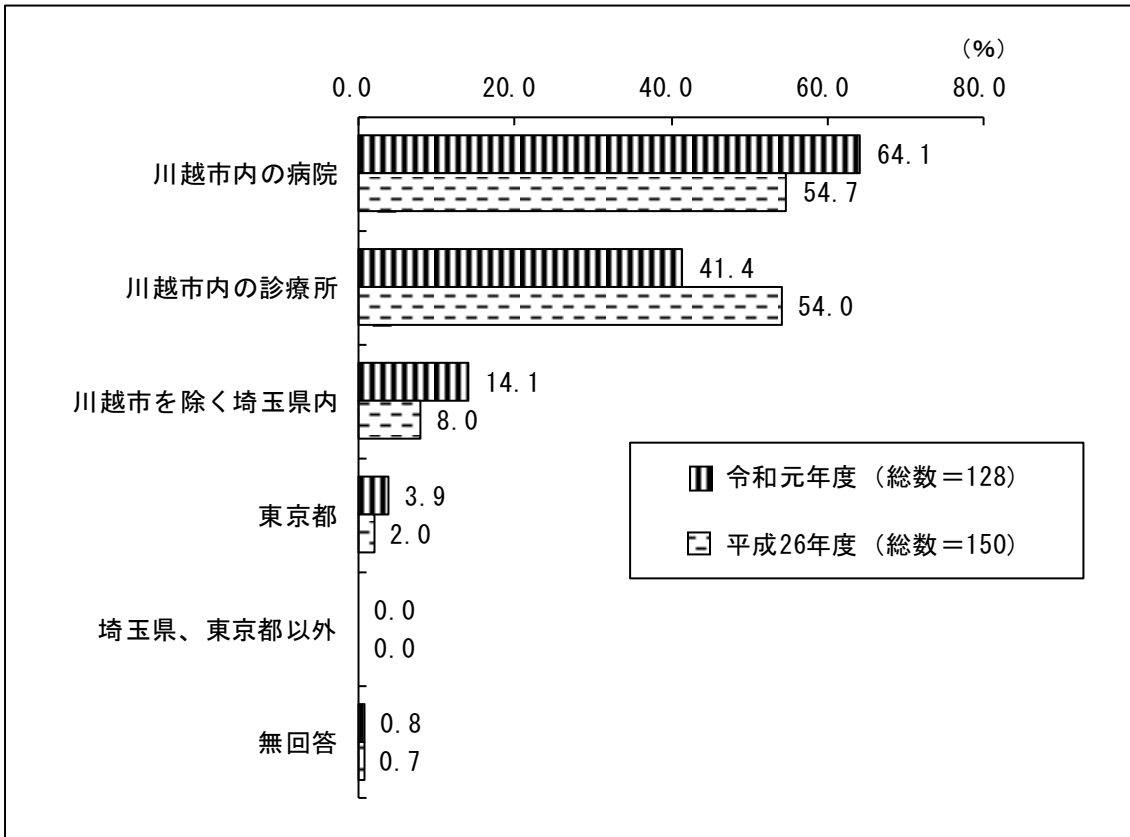


<全体・時系列>

かかりつけ医の場所（医療機関）は、「川越市内の病院」が最も高く59.0%、次いで「川越市内の診療所」が33.3%、「川越市を除く埼玉県内」が17.7%となっています。

かかりつけ医が「川越市内の診療所」の割合は、平成26年度（45.3%）よりもよりの12.0ポイント低くなっています。

■子どもとの同居かかりつけ医の場所（医療機関）（複数回答）



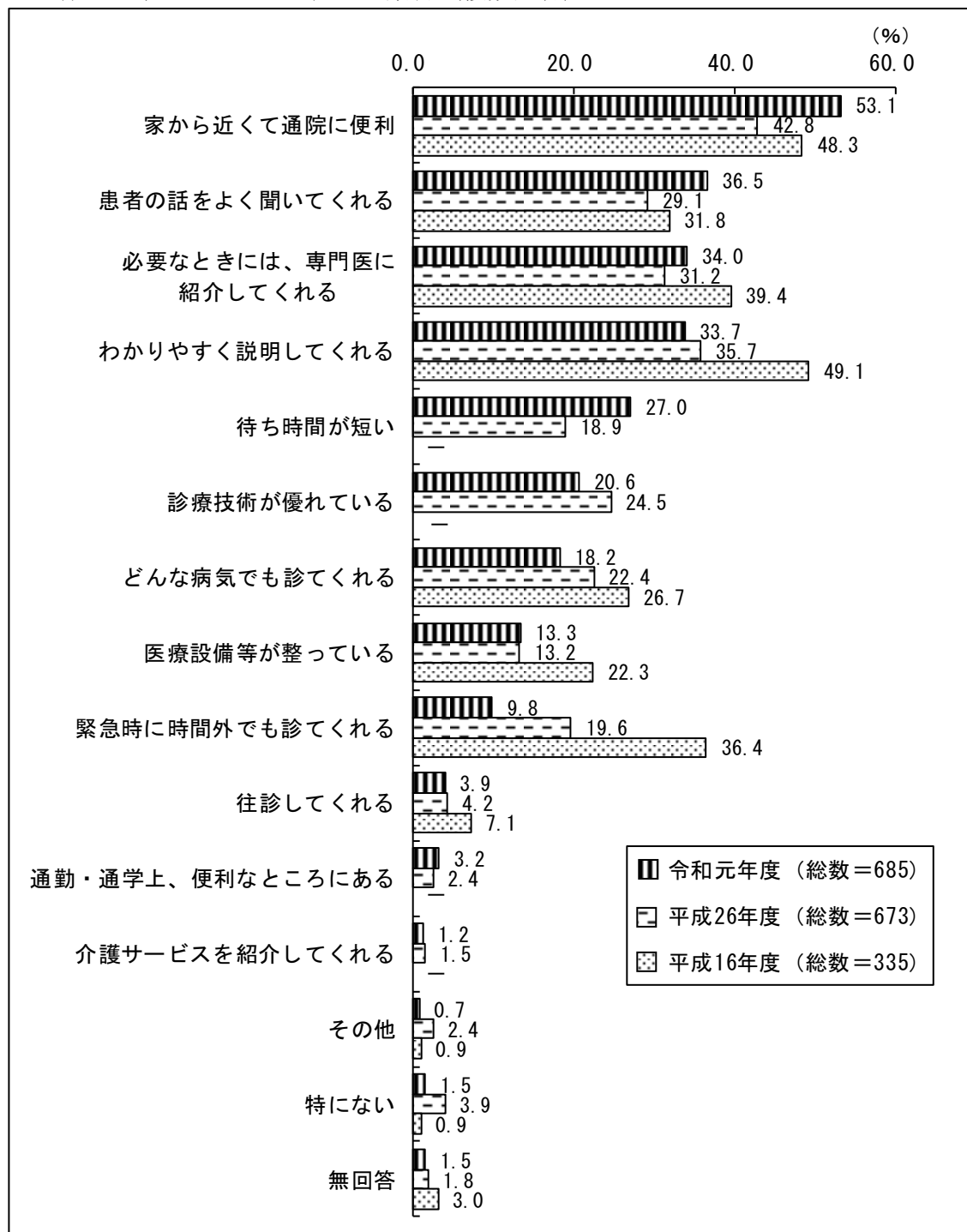
<子どもとの同居・時系列>

就学前（0～5歳）、小学生、中学生、高校生の子どもの同居の場合、かかりつけ医の場所（医療機関）は、「川越市内の病院」が最も高く64.1%であり、平成26年度（54.7%）よりも9.4ポイント高くなっています。

問17-3 かかりつけ医への期待

問17-3 あなたが、「かかりつけ医」に期待することは何ですか。(主なもの3つまで○)

■全体・時系列かかりつけ医への期待（複数回答）



<全体・時系列>

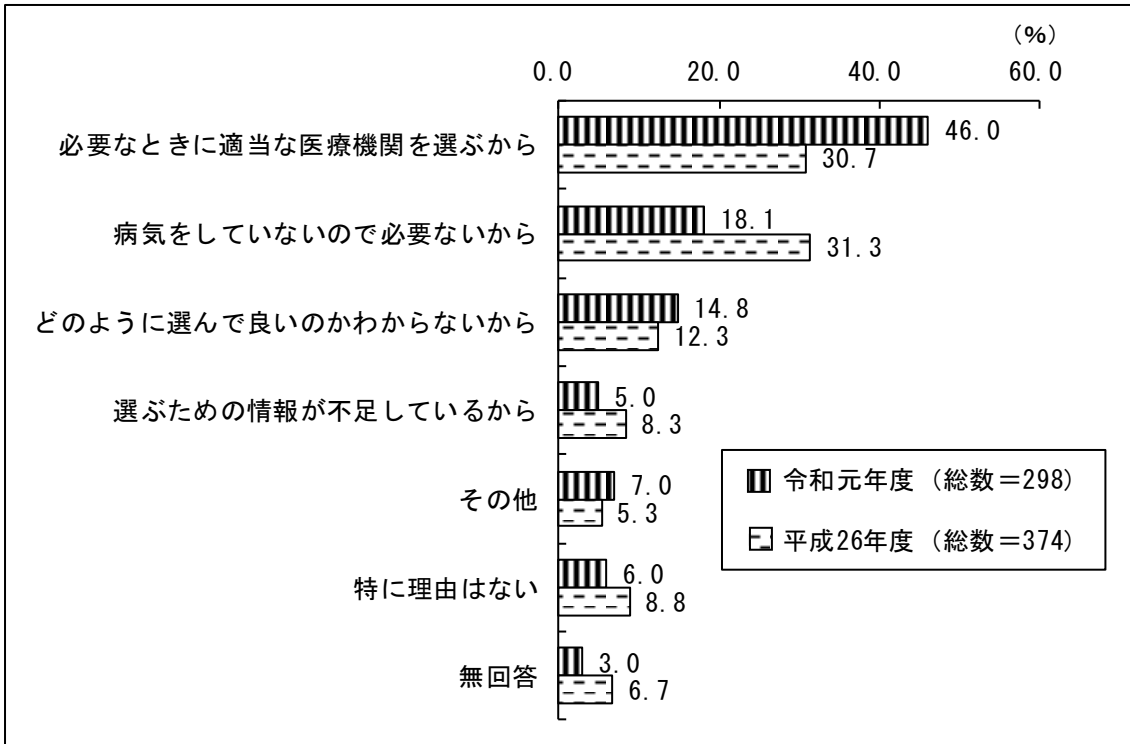
かかりつけ医への期待は、「家から近くて通院に便利」が最も高く53.1%、次いで「患者の話をよく聞いてくれる」が36.5%、「必要なときには、専門医に紹介してくれる」が34.0%であり、「家から近くて通院に便利」が平成26年度（42.8%）よりも10.3ポイント高くなっています。

問17-4 かかりつけ医を決めていない理由

【問17で、かかりつけ医が「2. いない」と答えた方におたずねします。】

問17-4 あなたが、「かかりつけ医」を決めていないのはなぜですか。(1つに○)

■全体・時系列かかりつけ医を決めていない理由



<全体・時系列>

かかりつけ医を決めていない理由は、「必要なときに適当な医療機関を選ぶから」が最も高く46.0%、次いで「病気をしていないので必要ないから」が18.1%、「どのように選んで良いかわからないから」が14.8%となっています。

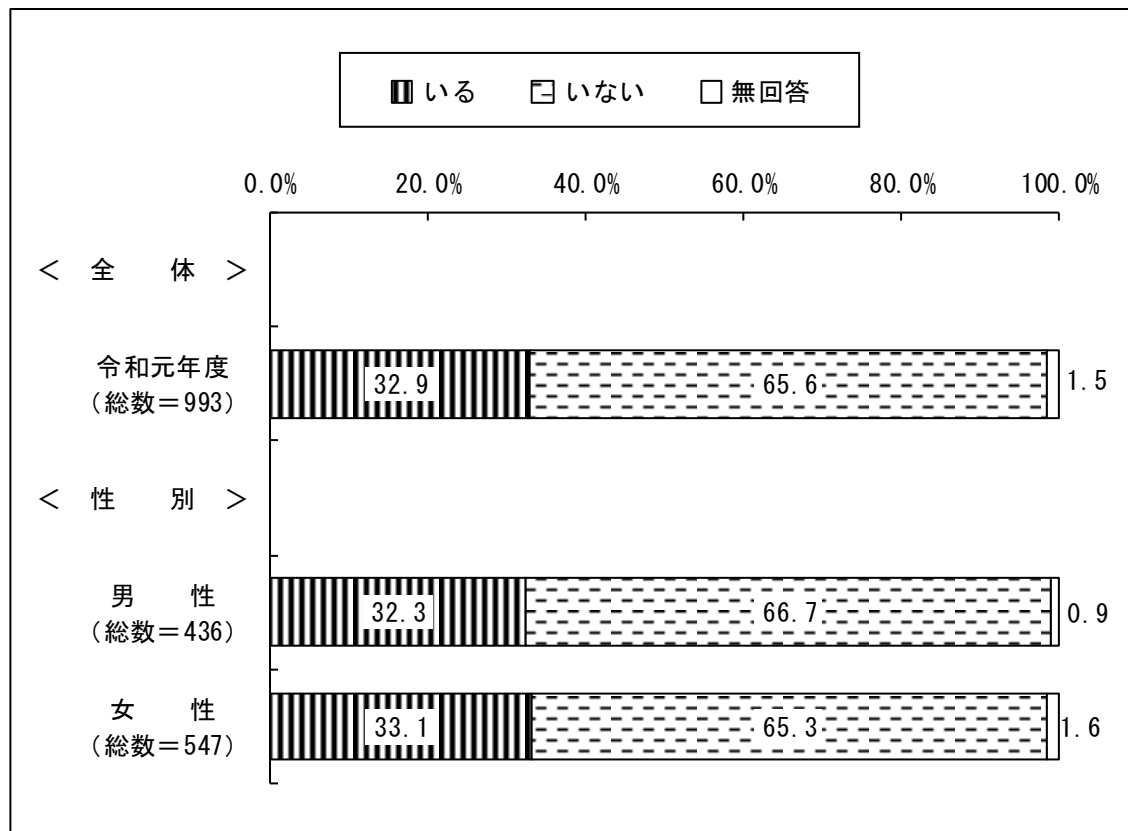
「必要なときに適当な医療機関を選ぶから」とする割合は、平成26年度（30.7%）よりも15.3ポイント高くなっています。

2 調査結果

問18 かかりつけ薬局（薬剤師）の有無

問18 あなたやご家族の中で、身近で薬や健康のことについて相談できる「かかりつけ薬局（薬剤師）」[※]がいる方はいますか。（1つに〇）

■全体・性別かかりつけ薬局（薬剤師）の有無



※かかりつけ薬局（薬剤師）は、薬による治療のこと、健康や介護に関することなどに豊富な知識と経験を持ち、患者や生活者のニーズに沿った相談に応じることができる薬局（薬剤師）のこと。

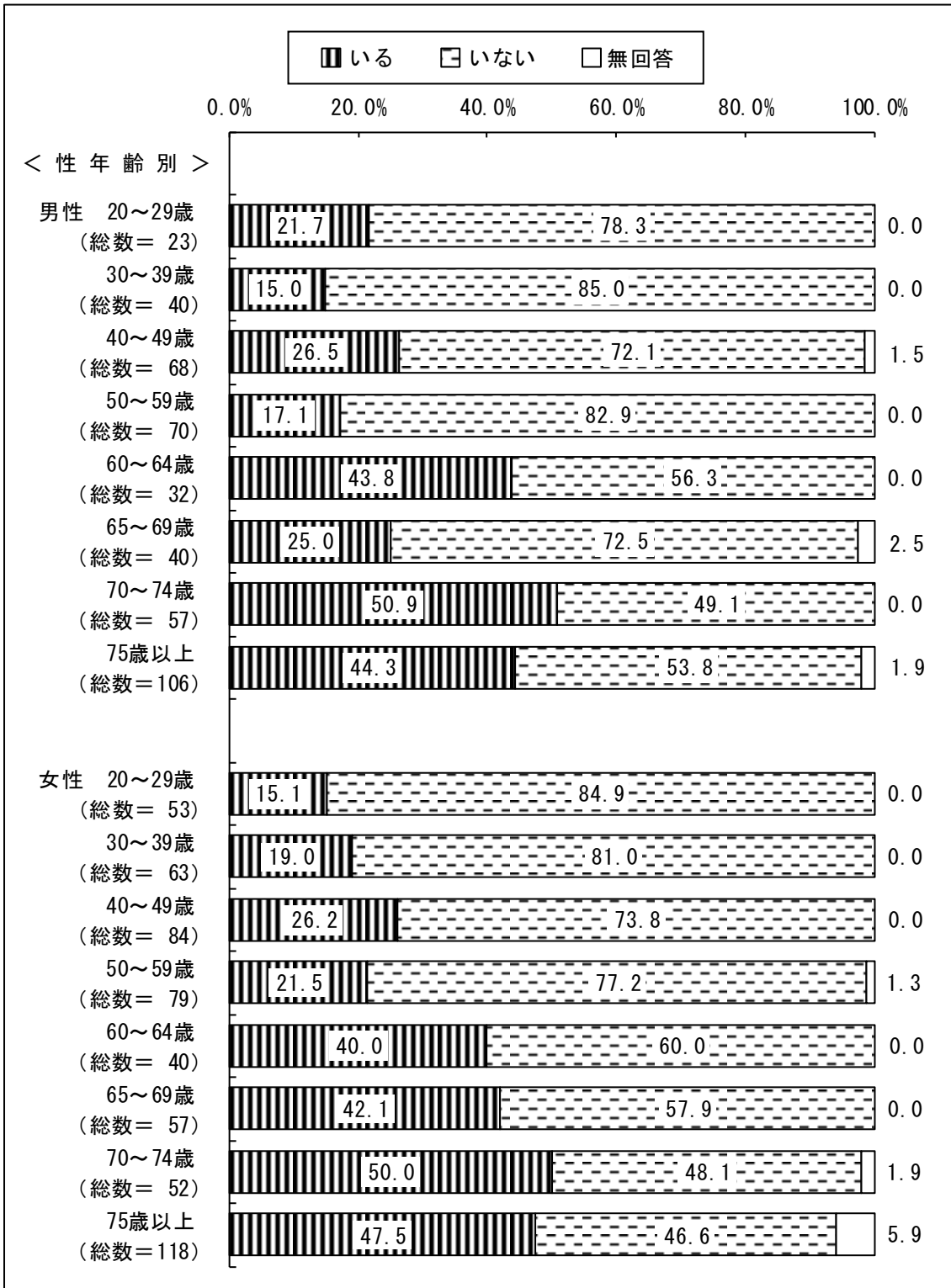
<全体>

自分や家族の中で、身近で薬や健康の相談ができる「かかりつけ薬局（薬剤師）」が「いる」のは32.9%、「いない」が65.6%となっています。

<性別>

「かかりつけ薬局（薬剤師）」が「いる」のは、女性が33.1%、男性が32.3%であり、女性が男性よりも0.8ポイント高くなっています。

■ 性年齢別かかりつけ薬局（薬剤師）の有無

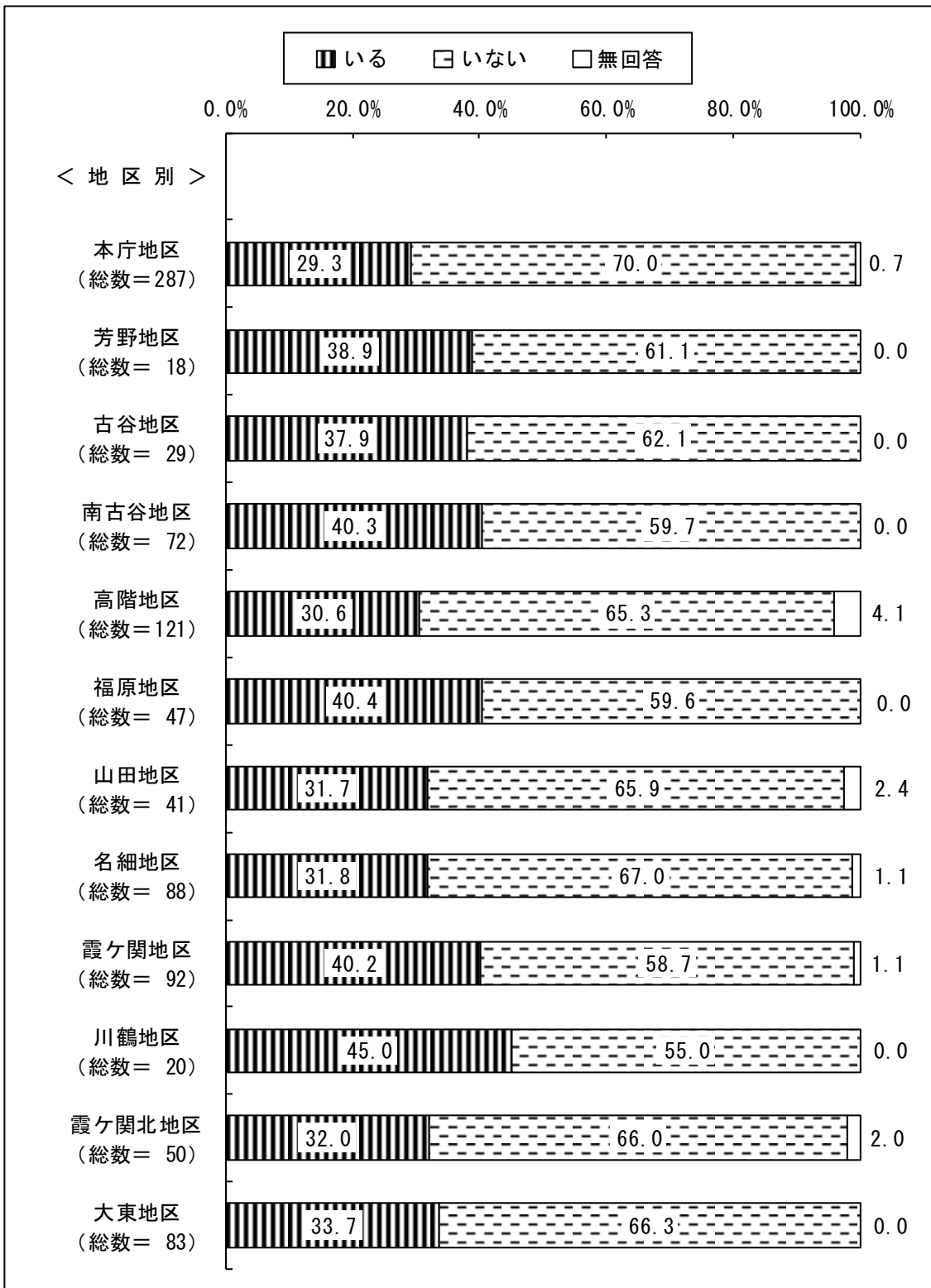


< 性年齢別 >

自分や家族の中で、身近で薬や健康の相談ができる「かかりつけ薬局（薬剤師）」が「いる」のは、男性女性ともに年齢が高くなるにつれ上昇する傾向にあり、5割台なのは男性の70～74歳（50.9%）、女性の70～74歳（50.0%）となっています。

2 調査結果

■地区別かかりつけ薬局（薬剤師）の有無



<地区別>

「かかりつけ薬局（薬剤師）」が「いる」割合が4割以上の地区は、川鶴地区（45.0%）、福原地区（40.4%）、南古谷地区（40.3%）、霞ヶ関地区（40.2%）となっています。

問18-1 かかりつけ薬局がある家族

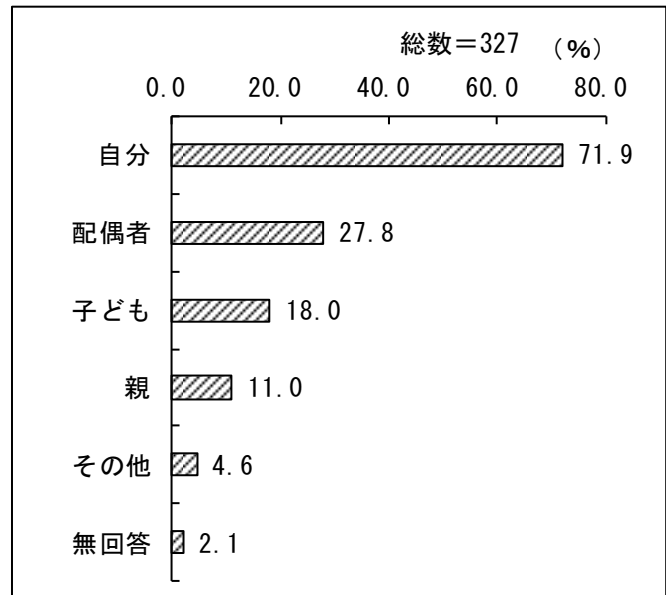
【問18で、かかりつけ薬局（薬剤師）が「1. いる」と答えた方におたずねします。】

問18-1 「かかりつけ薬局（薬剤師）」がいる方は、どなたですか。（〇はいくつでも）

<全体>

「かかりつけ薬局（薬剤師）」が「いる」家族は、「自分」が最も高く71.9%、次いで「配偶者」が27.8%、「子ども」が18.0%となっています。

■全体かかりつけ薬局（薬剤師）がいる家族
（複数回答）



問18-2 かかりつけ薬局（薬剤師）の場所

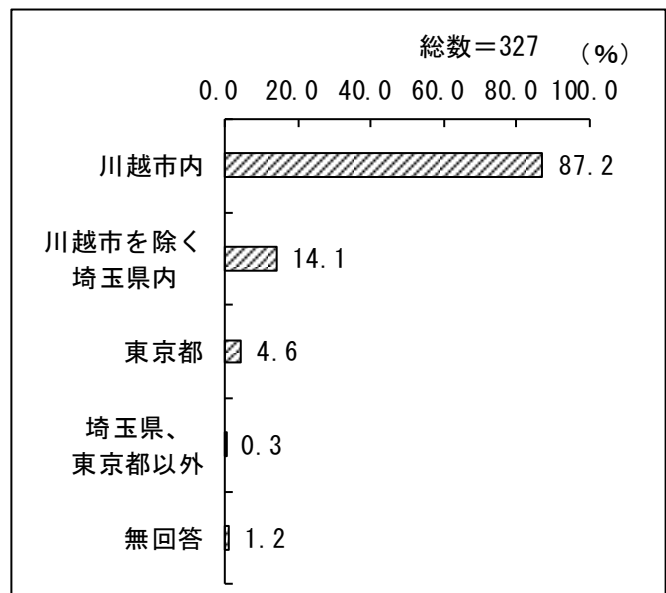
問18-2 「かかりつけ薬局（薬剤師）」は、どちらの薬局（薬剤師）ですか。

（〇はいくつでも）

<全体>

「かかりつけ薬局（薬剤師）」の場所は、「川越市内」が最も高く87.2%、次いで「川越市を除く埼玉県内」が14.1%、東京都が4.6%となっています。

■全体かかりつけ薬局（薬剤師）の場所
（複数回答）

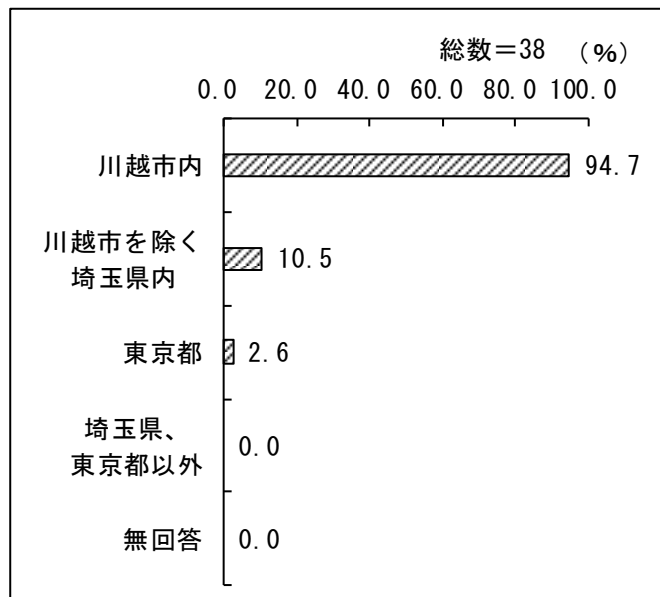


2 調査結果

<子どもとの同居>

就学前(0～5歳)、小学生、中学生、高校生の子どもの同居の場合、かかりつけ薬局(薬剤師)の場所は、「川越市内」が最も高く94.7%、次いで「川越市を除く埼玉県内」が10.5%となっています。

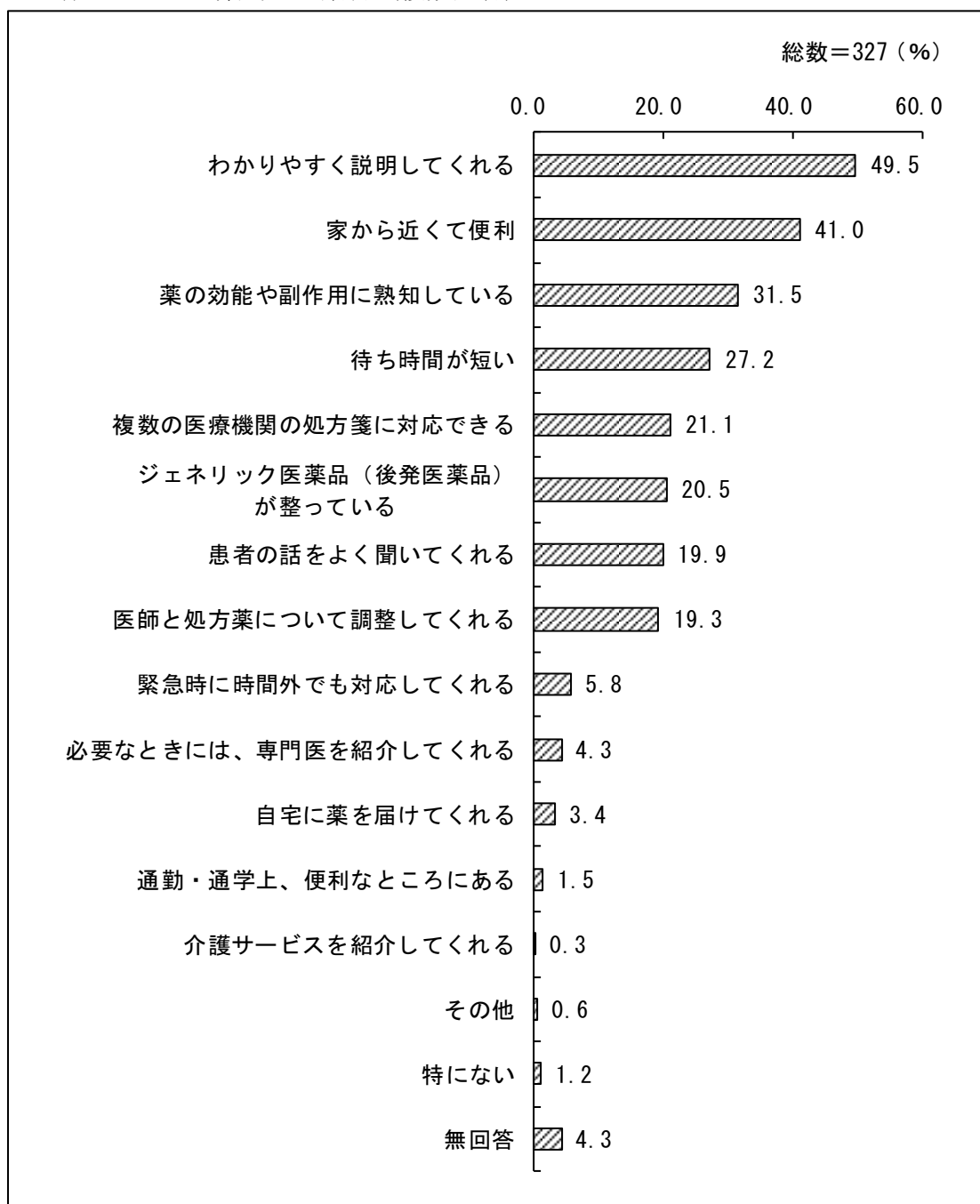
■子どもとの同居かかりつけ薬局
(薬剤師)の場所(複数回答)



問18-3 かかりつけ薬局への期待

問18-3 あなたが、「かかりつけ薬局（薬剤師）」に期待することは何ですか。
（主なもの3つまで○）

■全体かかりつけ薬局への期待（複数回答）



<全体>

「かかりつけ薬局（薬剤師）」への期待は、「わかりやすく説明してくれる」が最も高く49.5%、次いで「家から近くて便利」が41.0%、「薬の効能や副作用に熟知している」が31.5%となっています。

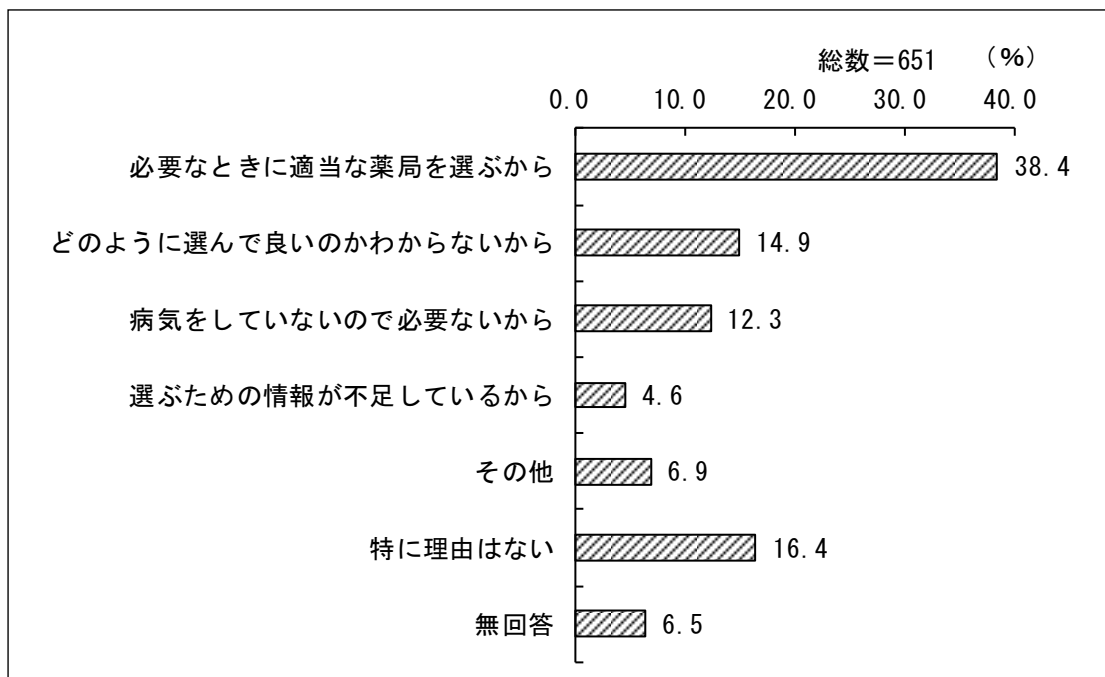
2 調査結果

問18-4 かかりつけ薬局を決めていない理由

【問18で、かかりつけ薬局（薬剤師）が「2. いない」と答えた方におたずねします。】

問18-4 あなたが、「かかりつけ薬局（薬剤師）」を決めていないのはなぜですか。
(1つに○)

■全体かかりつけ薬局を決めていない理由



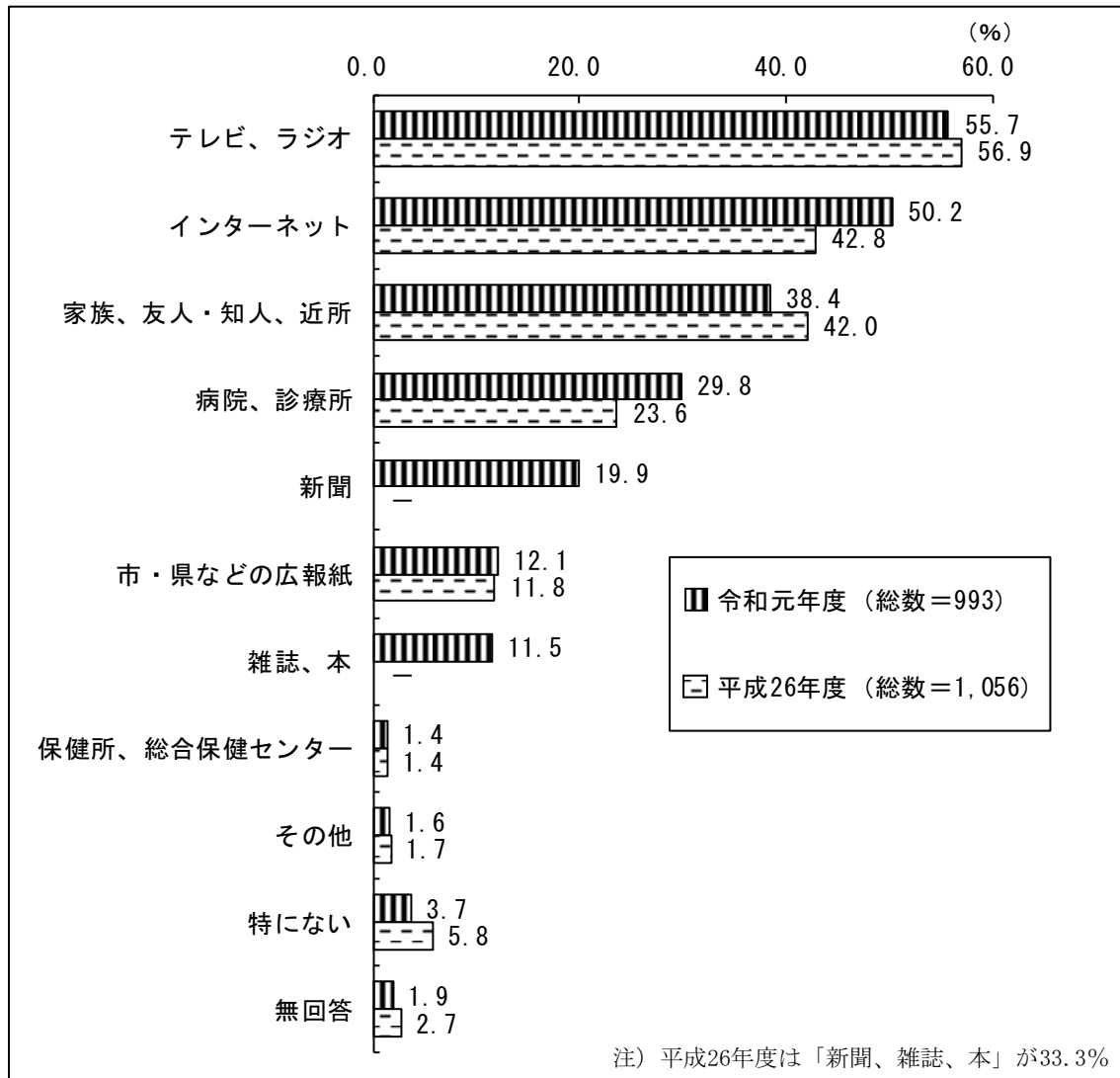
<全体>

かかりつけ薬局を決めていない理由は、「必要なときに適当な薬局を選ぶから」が最も高く38.4%、次いで「どのように選んで良いのかわからないから」が14.9%、「病気をしていないので必要ないから」が12.3%となっています。

問19 病気や医療の情報の入手方法

問19 あなたは、病気や医療に関する情報を主に何から得ていますか。(主なもの3つまで○)

■全体・時系列病気や医療の情報の入手方法（複数回答）



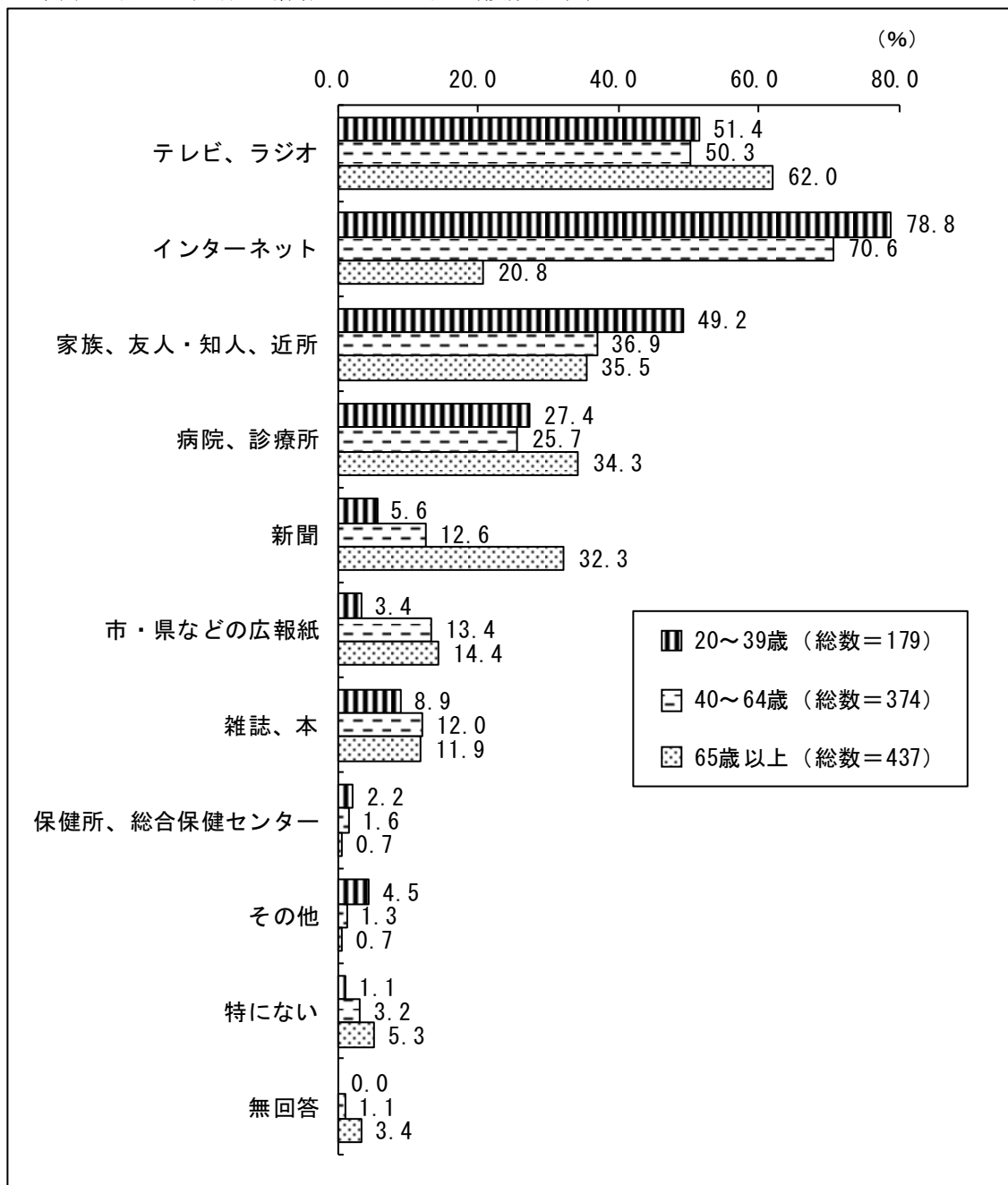
<全体・時系列>

病気や医療の情報の入手方法は、「テレビ、ラジオ」が55.7%と最も高く、次いで「インターネット」が50.2%、「家族、友人・知人、近所」が38.4%となっています。

「テレビ、ラジオ」は平成26年度（56.9%）とともに5割台であり、「インターネット」は平成26年度（42.8%）よりも7.4ポイント高く、「病院、診療所」は平成26年度（23.6%）よりも6.2ポイント高くなっています。

2 調査結果

■年齢別病気や医療の情報の入手方法（複数回答）



注) グラフ順は全体の順位

<年齢別>

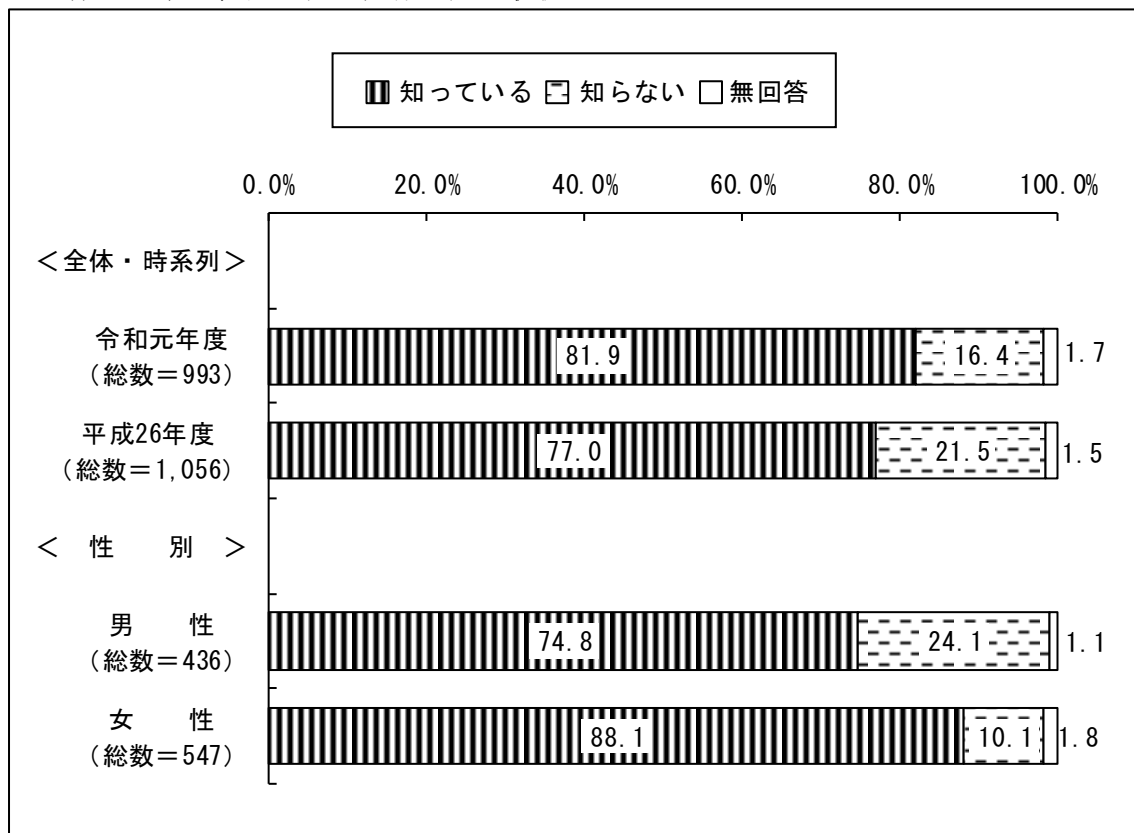
年齢別では、20～39歳、40～64歳では「インターネット」が最も高く7割以上であり、65歳以上では「テレビ、ラジオ」が最も高く62.0%になっています。

(3) 在宅医療等の認知状況

問20 在宅医療の認知状況

問20 通院できなくなった場合など、医師や看護師などの訪問を受けて、自宅で治療・療養する医療を「在宅医療」といいますが、あなたは「在宅医療」を知っていましたか。
(1つに○)

■全体・時系列、性別在宅医療の周知状況



<全体・時系列>

「在宅医療」を「知っている」のは81.9%、「知らない」が16.4%となっています。

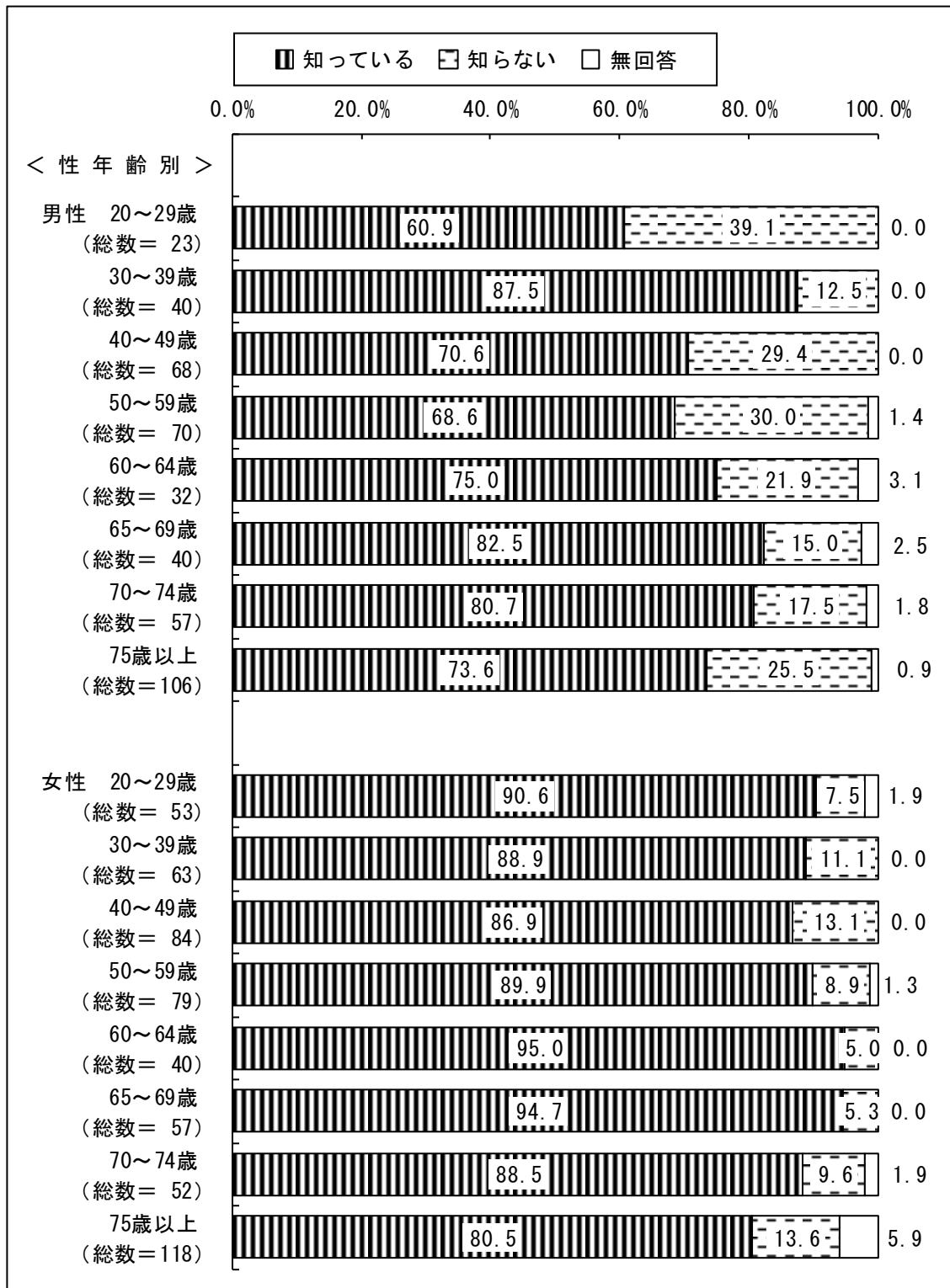
「在宅医療」を「知っている」割合は、平成26年度（77.0%）よりも4.9ポイント高くなっています。

<性別>

「在宅医療」を「知っている」割合は、女性が88.1%、男性が74.8%であり、女性が男性よりも13.3ポイント高くなっています。

2 調査結果

■性年齢別在宅医療の周知状況



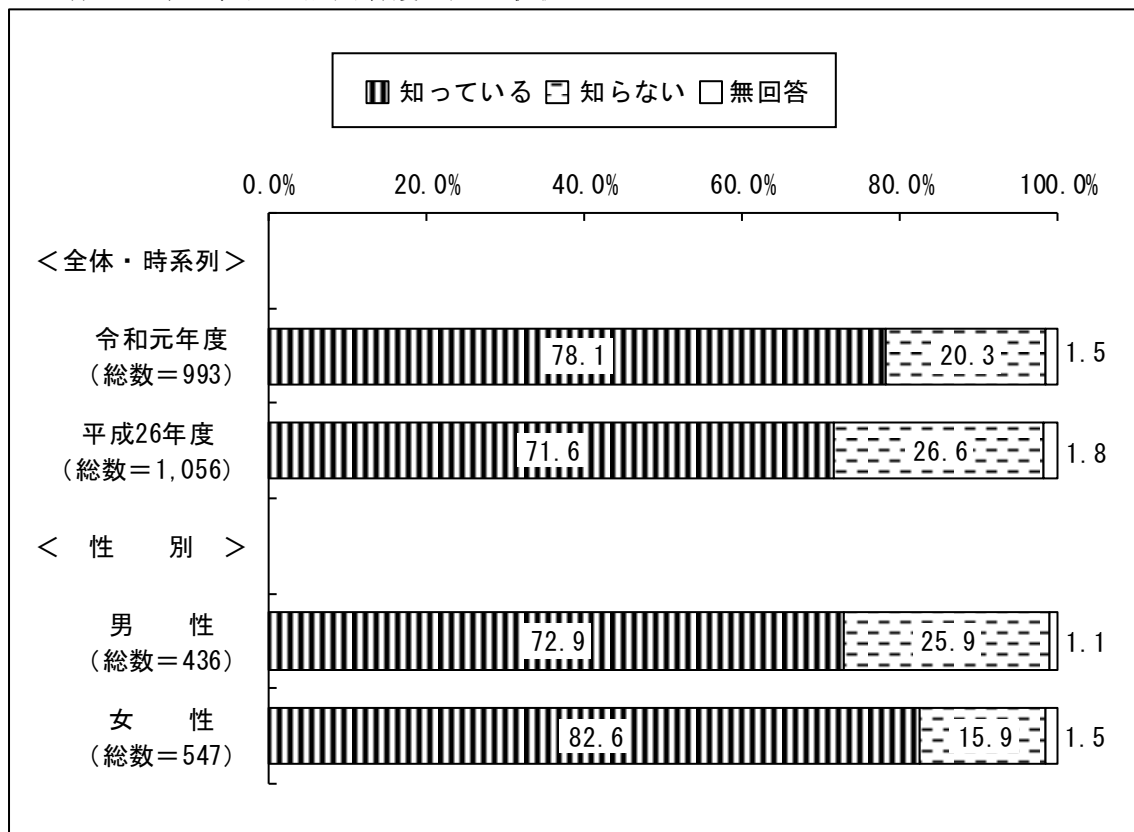
<性年齢別>

「在宅医療」を「知っている」割合は、女性は各年齢とも8割以上と高く、男性で8割以上なのは30～39歳（87.5%）、65～69歳（82.5%）、70～74歳（80.7%）となっています。

問21 訪問看護の認知状況

問21 医師の指示を受けた看護師が、患者の自宅を訪問して看護することを「訪問看護」といいますが、あなたは「訪問看護」を知っていましたか。(1つに○)

■全体・時系列、性別訪問看護の周知状況



<全体・時系列>

「訪問看護」を「知っている」のは78.1%、「知らない」が20.3%となっています。

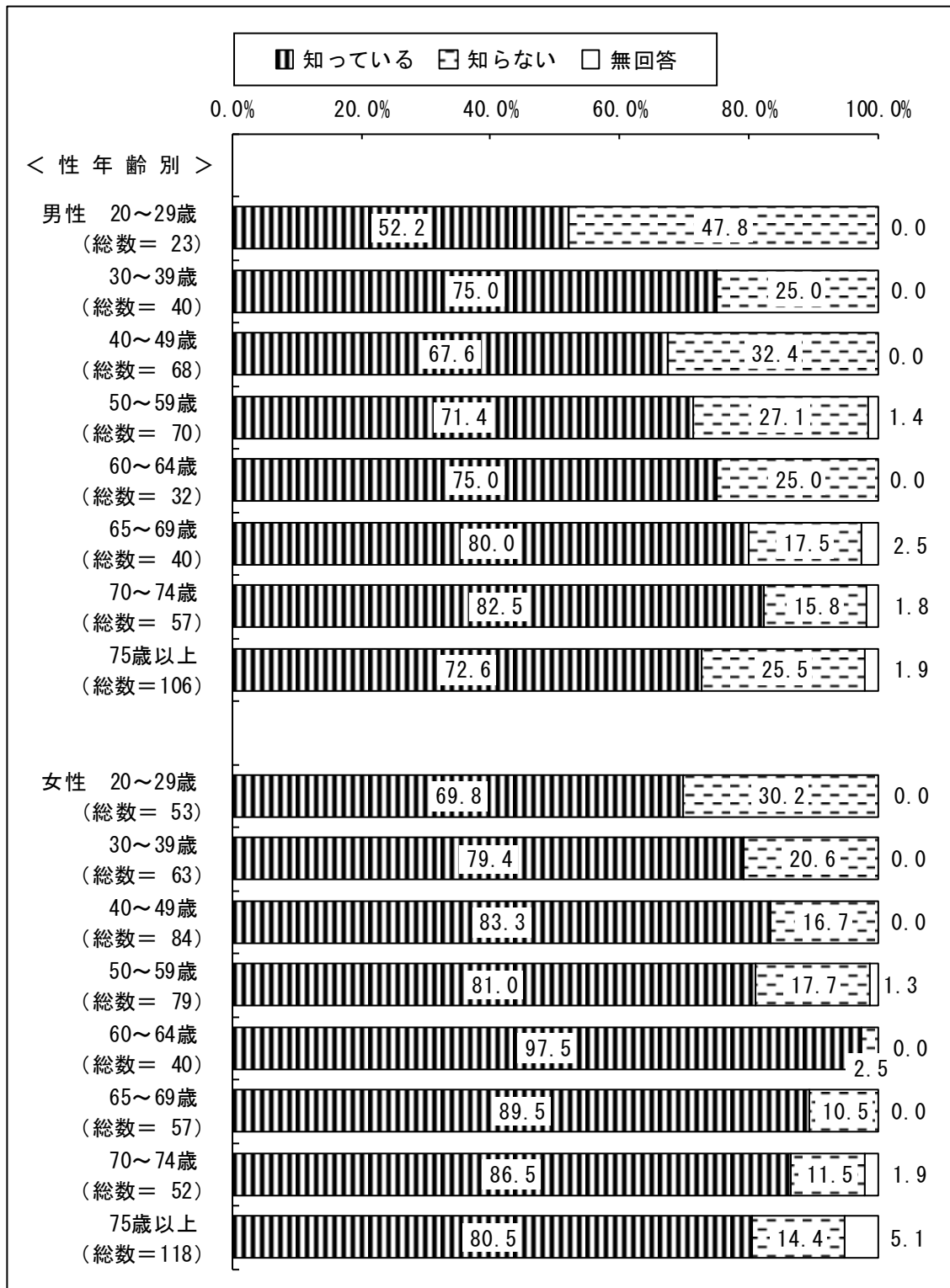
「訪問看護」を「知っている」割合は、平成26年度（71.6%）よりも6.5ポイント高くなっています。

<性別>

「訪問看護」を「知っている」割合は、女性が82.6%、男性が72.9%であり、女性が男性よりも9.7ポイント高くなっています。

2 調査結果

■性年齢別訪問看護の周知状況



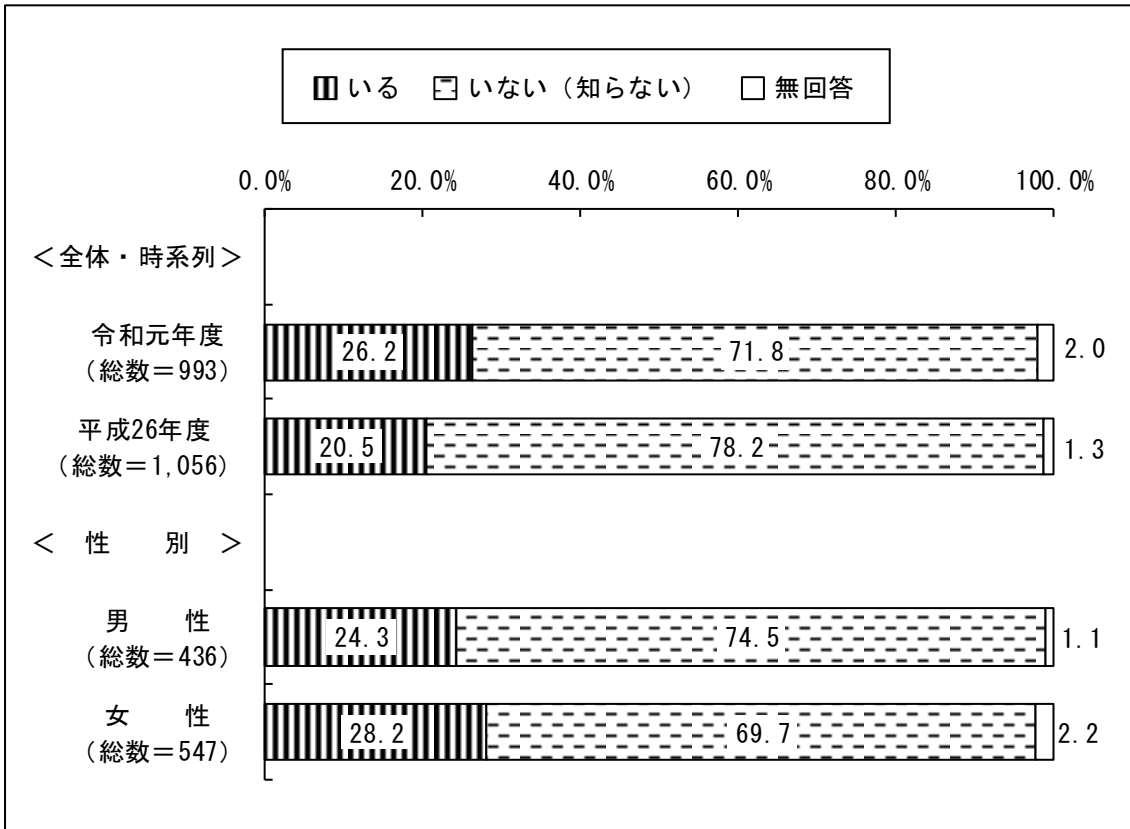
<性年齢別>

「訪問看護」を「知っている」割合は、各年齢とも女性が男性を上回り、女性の60～64歳では97.5%と高くなっています。

問22 在宅医療の利用状況

問22 あなたのご家族や友人・知人に在宅医療を受けた方がいますか、または知っていますか。(1つに○)

■全体・時系列、性別在宅医療の利用状況



＜全体・時系列＞

家族や友人・知人で在宅医療を受けた方が「知っている」(受けた方を知っている)のは26.2%、「知らない(知らない)」が71.8%となっています。

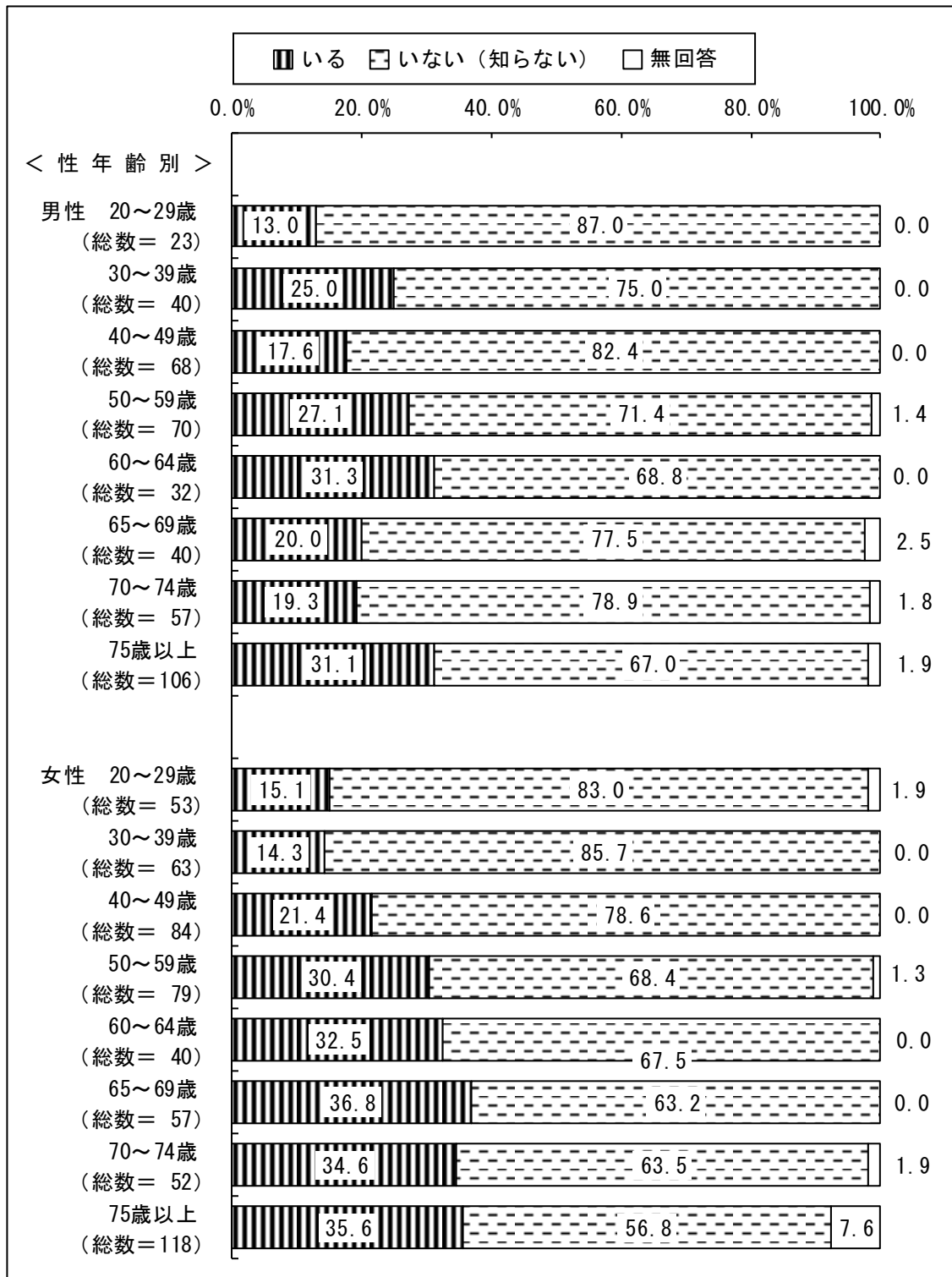
家族や友人・知人で在宅医療を受けた方が「知っている」割合は、平成26年度(20.5%)よりも5.7ポイント高くなっています。

＜性別＞

家族や友人・知人で在宅医療を受けた方が「知っている」(受けた方を知っている)割合は、女性が28.2%、男性が24.3%であり、女性が男性よりも3.9ポイント高くなっています。

2 調査結果

■性年齢別在宅医療の利用状況



<性年齢別>

家族や友人・知人で在宅医療を受けた方が「いる」(受けた方を知っている)割合は、男性では60～64歳が31.3%、75歳以上が31.1%、女性では50歳以上で3割台であり、65～69歳が36.8%、75歳以上が35.6%となっています。

(4) 保健医療行政への関心・重点意向

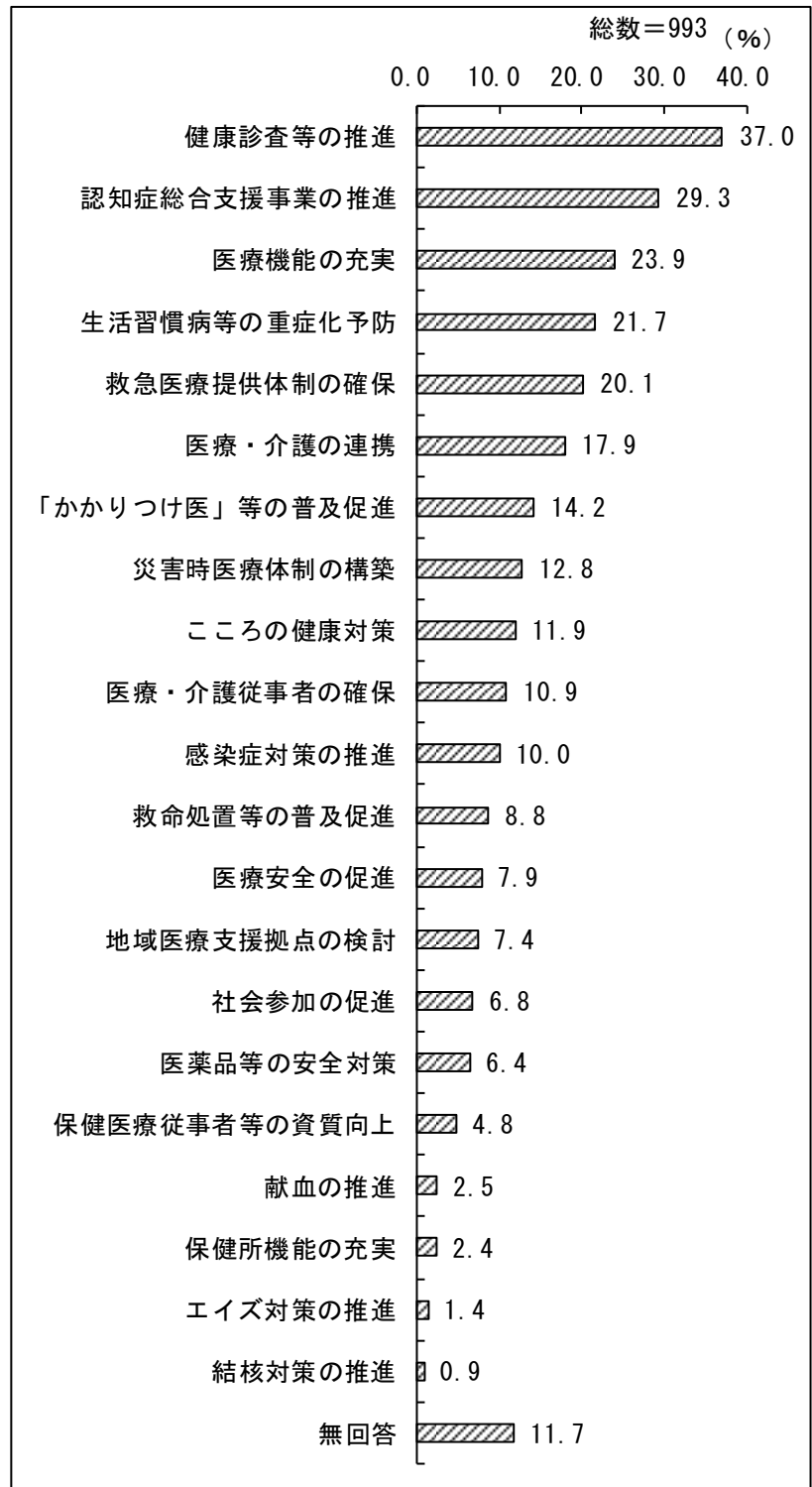
問23-1 現在関心のある施策

問23 保健医療行政全般について、あなたが現在関心のある施策、また、今後力を入れてほしい施策をそれぞれ3つずつ選んで、回答欄に番号を記入してください。

<全体>

保健医療行政で「現在関心のある施策」は、「健康診査等の推進」が最も高く37.0%、次いで「認知症総合支援事業の推進」が29.3%、「医療機能の充実」が23.9%となつています。

■ 全現在関心のある施策（複数回答）



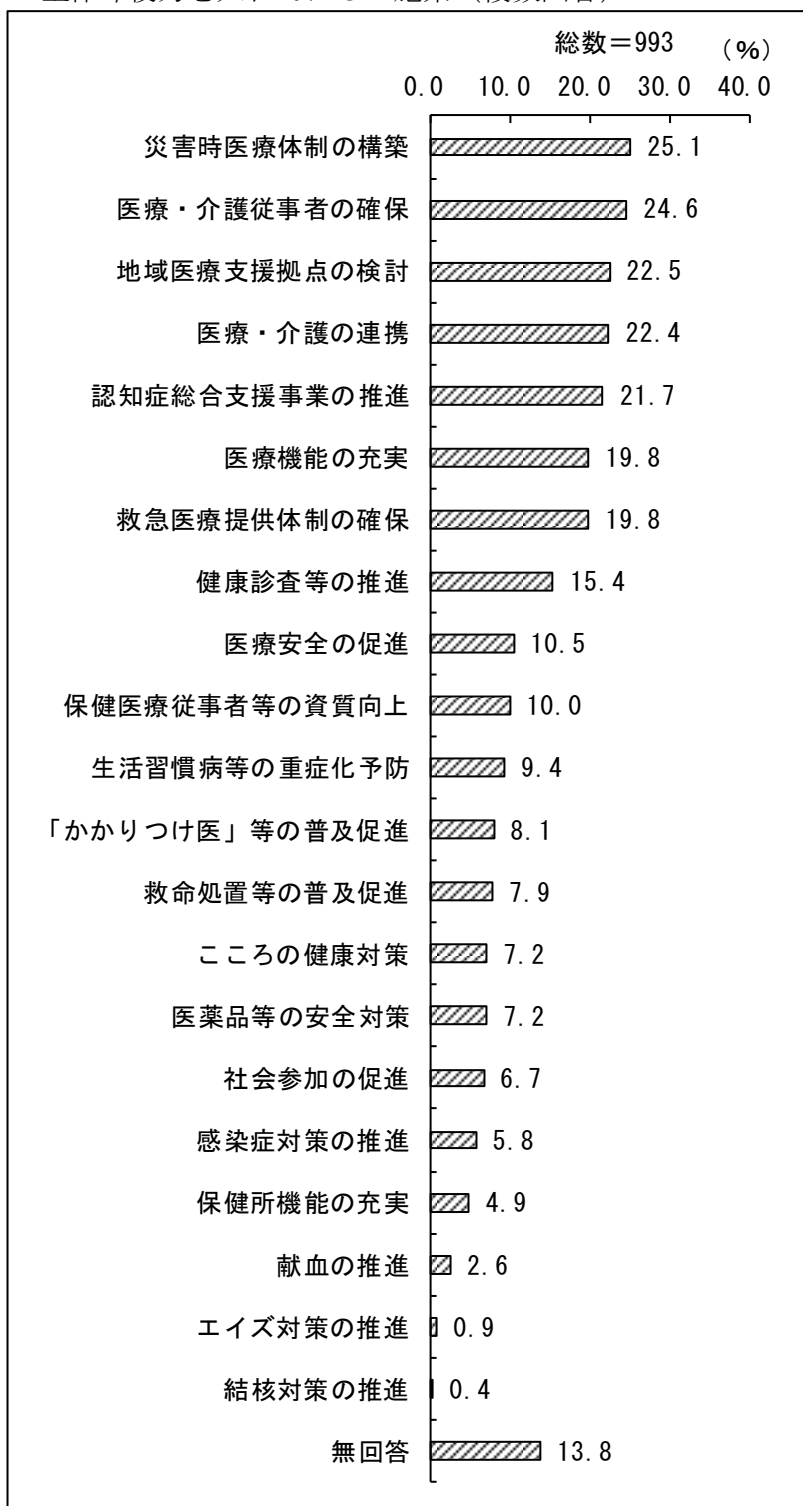
問23-2 今後力をいれてほしい施策

問23 保健医療行政全般について、あなたが現在関心のある施策、また、今後力をいれてほしい施策をそれぞれ3つずつ選んで、回答欄に番号を記入してください。

<全体>

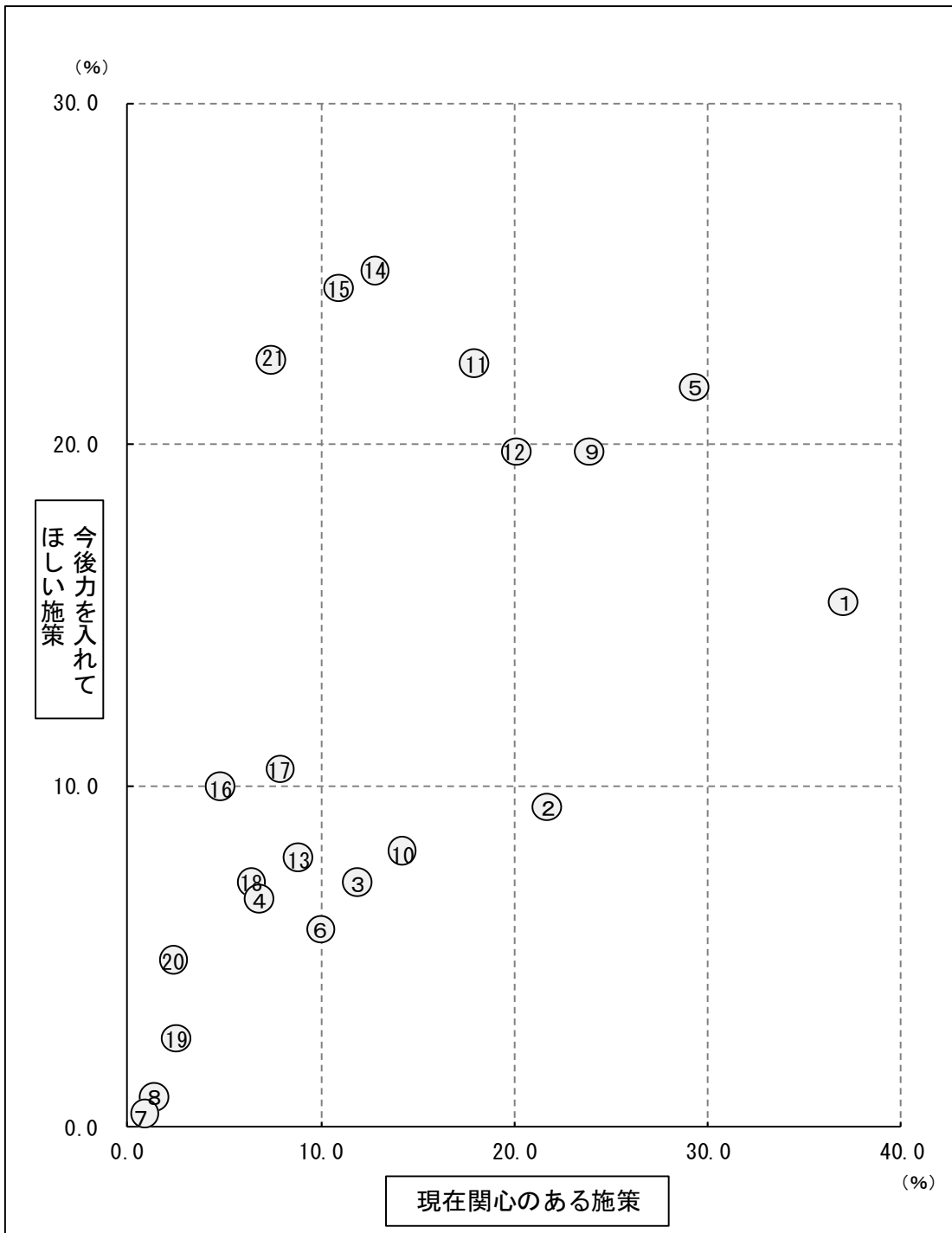
保健医療行政で「今後力をいれてほしい施策」は、「災害時医療体制の構築」が最も高く25.1%、次いで「医療・介護従事者の確保」が24.6%、「地域医療支援拠点の検討」が22.5%となっています。

■ 全体今後力をいれてほしい施策（複数回答）



■ 「現在関心のある施策」と「今後力を入れてほしい施策」の関係

①健康診査等の推進	⑧結核対策の推進	⑮医療・介護従事者の確保
②生活習慣病等の重症化予防	⑨医療機能の充実	⑯保健医療従事者等の資質向上
③こころの健康対策	⑩「かかりつけ医」等の普及促進	⑰医療安全の促進
④社会参加の促進	⑪医療・介護の連携	⑱医薬品等の安全対策
⑤認知症総合支援事業の推進	⑫救急医療提供体制の確保	⑲献血の推進
⑥感染症対策の推進	⑬救命処置等の普及促進	⑳保健所機能の充実
⑦エイズ対策の推進	⑭災害時医療体制の構築	㉑地域医療支援拠点の検討



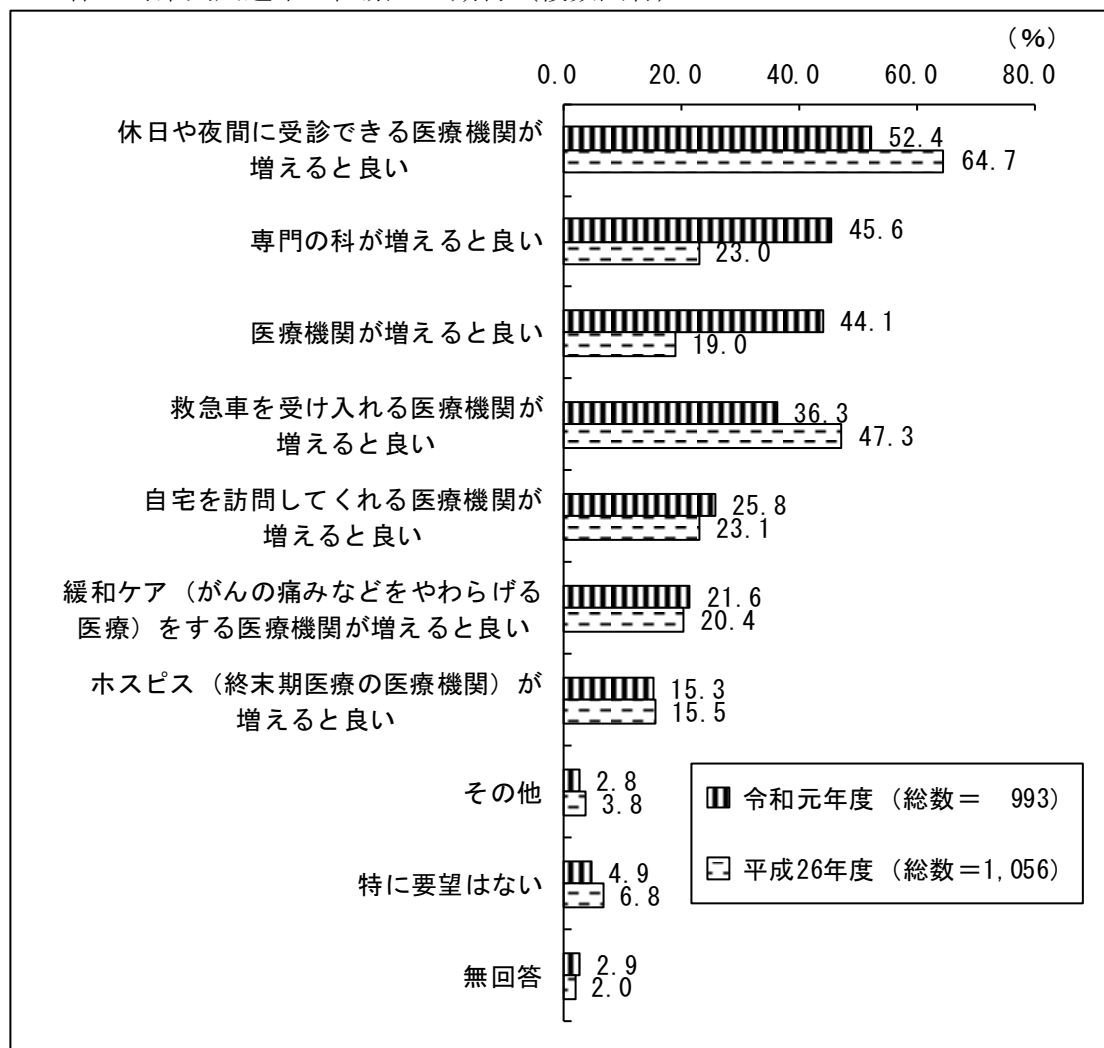
注) 丸数字の項目は上表参照

(5) 今後の医療への意向

問24 川越市の医療への期待

問24 あなたは、川越市における医療について、どのようになっていくことを期待しますか。
(主なものを3つに○)

■全体・時系列川越市の医療への期待（複数回答）

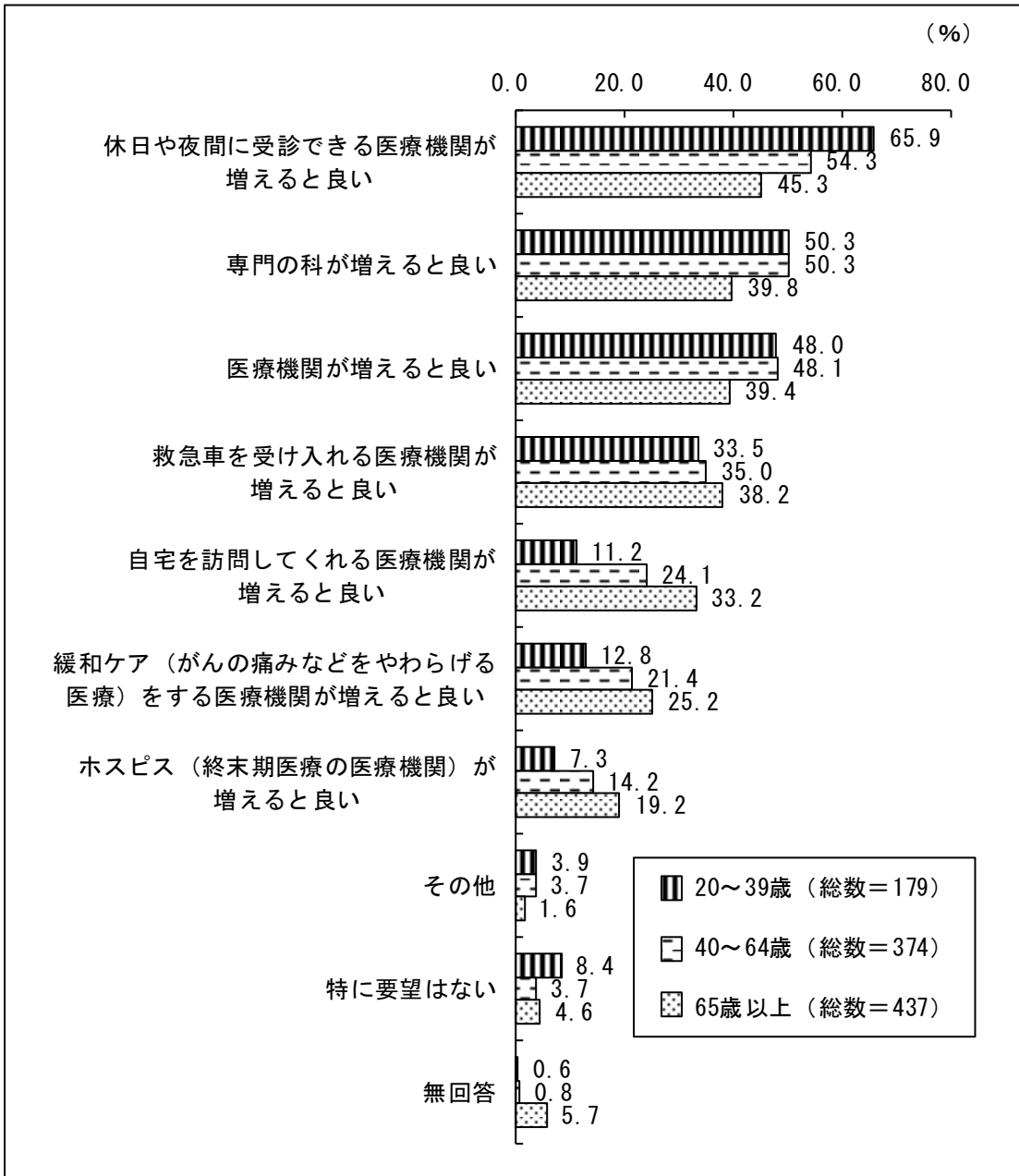


<全体・時系列>

川越市の医療への期待は、「休日や夜間に受診できる医療機関が増えると良い」が最も高く52.4%、次いで「専門の科が増えると良い」が45.6%、「医療機関が増えると良い」が44.1%となっています。

「休日や夜間に受診できる医療機関が増えると良い」は平成26年度（64.7%）よりも12.3ポイント低いですが、「専門の科が増えると良い」は平成26年度（23.0%）よりも22.6ポイント、「医療機関が増えると良い」は平成26年度（19.0%）よりも25.1ポイント高くなっています。

■年齢別川越市の医療への期待（複数回答）



注) グラフ順は全体の順位

<年齢別>

年齢別の川越市の医療への期待で最も高いのは、いずれも「休日や夜間に受診できる医療機関が増えると良い」が最も高く、20～39歳が65.9%、40～64歳が54.3%、65歳以上が45.3%となっています。

また、65歳以上では「自宅を訪問してくれる医療機関が増えると良い」が33.2%であり、他の年代よりも比較的高くなっています。

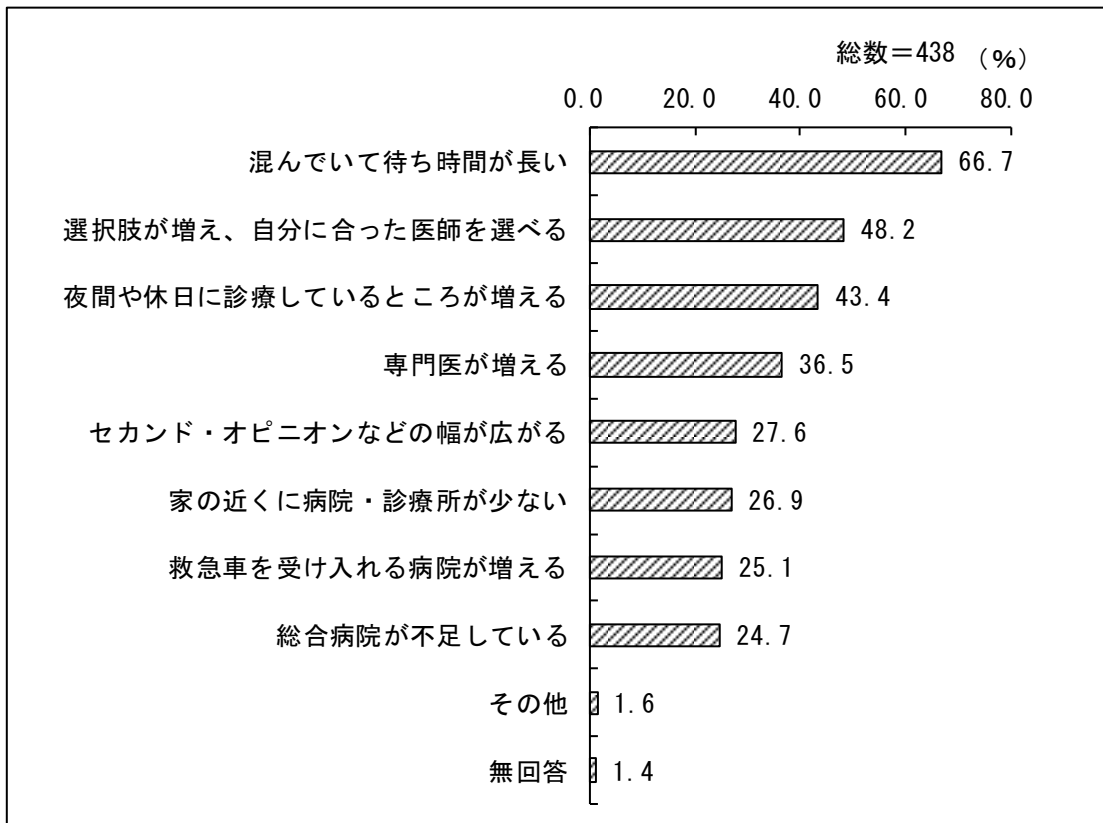
2 調査結果

問24-1 医療機関が増えると良い理由

【問24で、「1. 医療機関が増えると良い」と答えた方におたずねします。】

問24-1 あなたが、医療機関が増えると良い理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

■全体医療機関が増えると良い理由（複数回答）



<全体>

医療機関が増えると良い理由は、「混んでいて待ち時間が長い」が最も高く66.7%、次いで「選択肢が増え、自分に合った医師を選べる」が48.2%、「夜間や休日に診療しているところが増える」が43.4%となっています。

問24-2 増えると良い診療科

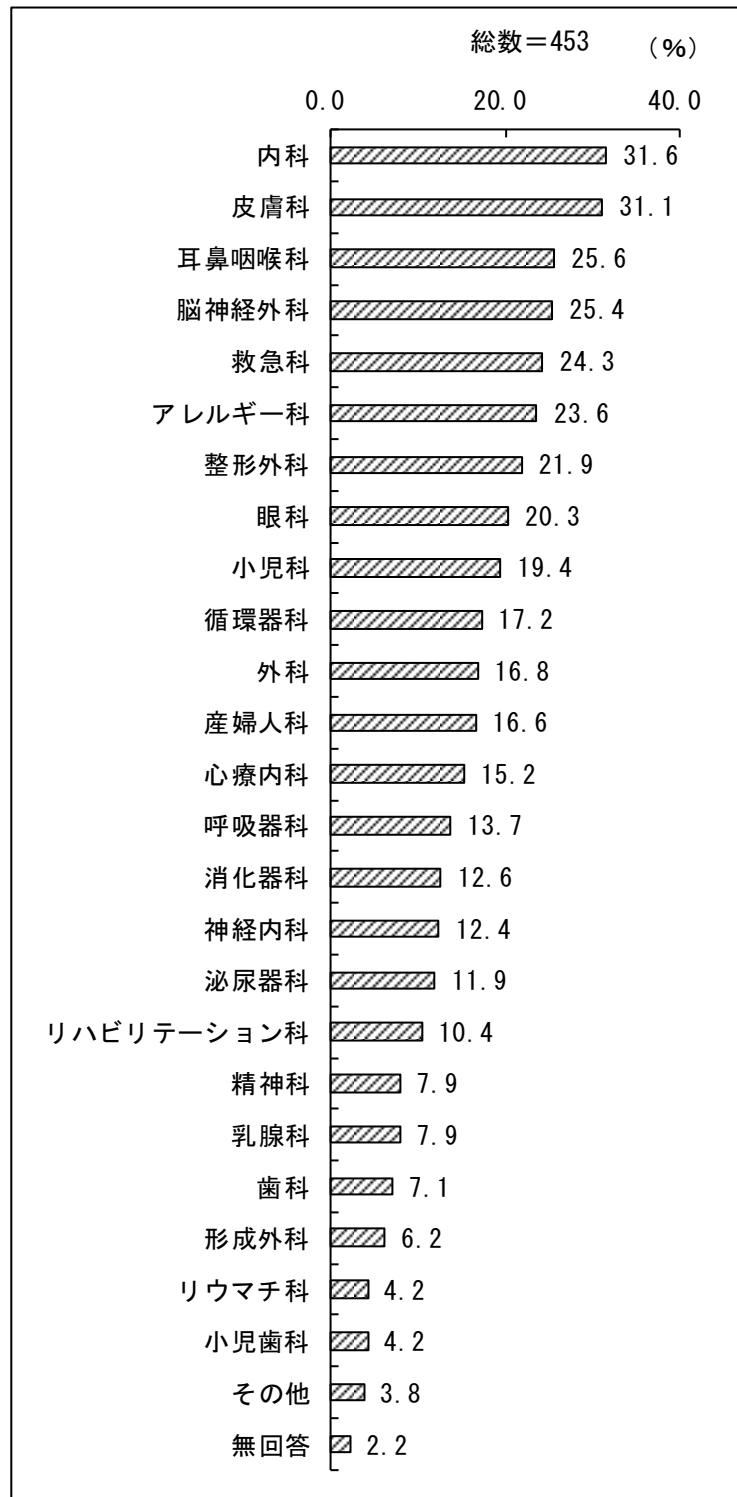
【問24で、「2. 専門の科が増えると良い」と答えた方におたずねします。】

問24-2 あなたが、増えると良い診療科は何科ですか。(あてはまるものすべてに○)

<全体>

増えると良い診療科は、「内科」が最も高く31.6%、次いで「皮膚科」が31.1%、「耳鼻咽喉科」が25.6%、「脳神経外科」が25.4%、「救急科」が24.3%となっています、

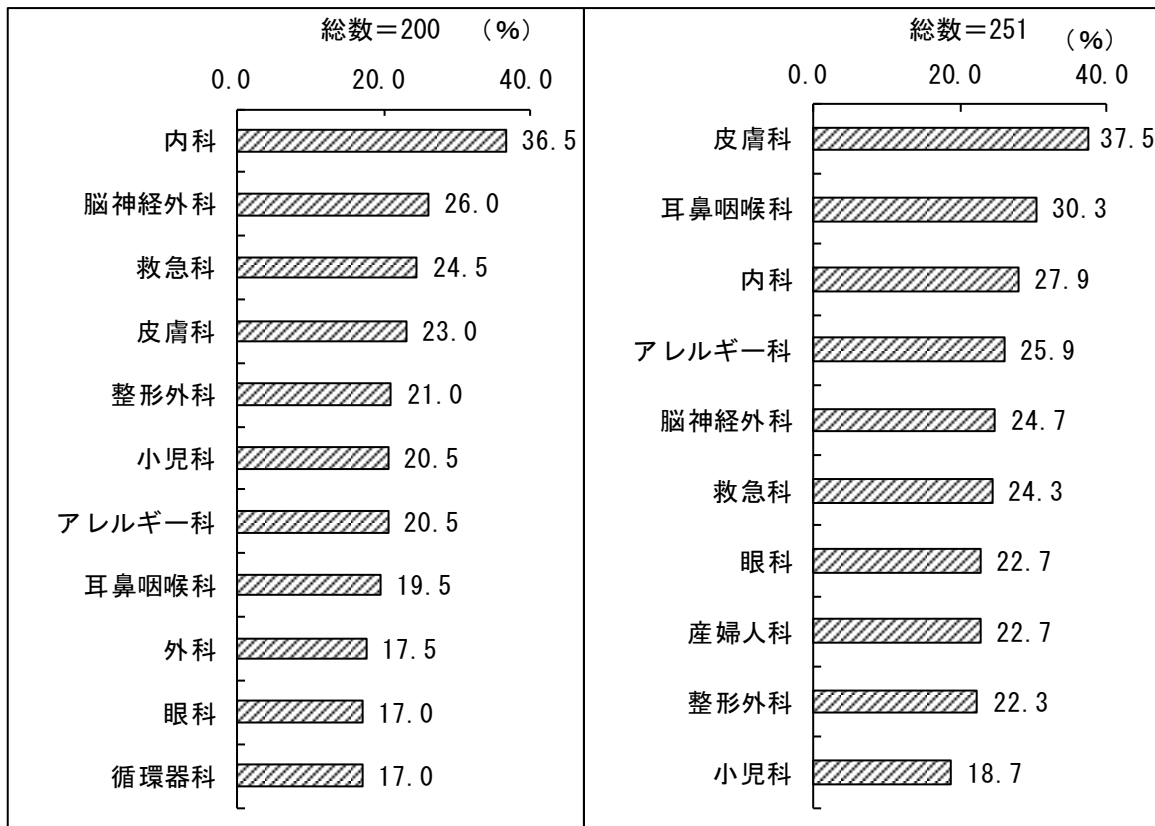
■全体増えると良い診療科（複数回答）



2 調査結果

■男性増えると良い診療科（上位10位）
（複数回答）

■女性増えると良い診療科（上位10位）
（複数回答）



<性別>

増えると良い診療科は、男性では「内科」が最も高く36.5%、次いで「脳神経外科」が26.0%、「救急科」が24.5%となっています。

女性では「皮膚科」が最も高く37.5%、次いで「耳鼻咽喉科」が30.3%、「内科」が27.9%となっています。

資料（調査票）

川越市 医療に関する意識調査

～ 調査へのご協力をお願い ～

日頃から川越市の保健医療行政にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

川越市では、保健医療施策のさらなる充実を図るため、平成28年度から「自分で守る 地域でつくる みんなの力で いきいき川越」を基本理念とした「第二次川越市保健医療計画」を進めてまいりました。

本調査は、「第二次川越市保健医療計画」が令和2年度をもって計画期間の満了を迎えることから、市民の皆様の医療に関する意識やご意見をあらためてお伺いし、今後新たな計画を策定する上での貴重な資料として活用させていただくため実施するものです。

御多用中のところ、大変恐縮ではありますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和元年12月

川越市長 川 合 善 明

◎住民基本台帳に登録されている20歳以上の市民の方から2,000人を無作為に選ばせていただき、お願いしております。

◎調査結果はコンピュータで統計的に処理しますので、ご回答いただきました内容から個人が特定されることは一切ございませんので、ありのままをお答えください。

～ ご記入にあたってのお願い ～

1. あて名のご本人がお答えください（ご本人がご記入できない場合は、ご家族等が、ご本人の立場でご記入ください）。
2. ご記入は、黒ボールペンまたは濃い鉛筆でご記入ください。
3. お答えは、あてはまる番号に○をつけてください。
4. 質問によって○をつける数を「1つに○」「主なもの3つまで○」「○はいくつでも」などと指定しておりますので、その範囲でお答えください。
5. 質問によっては、お答えしていただく方が限られる場合がありますので、ご注意ください。
6. 「その他」にあてはまる場合で、（ ）がある場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容をご記入ください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて12月23日（月）までにご投函ください（切手を貼る必要はありません。また、返信用封筒に、ご住所、お名前をお書きいただく必要はございません）。

【お問い合わせ先】 川越市役所 保健医療部 保健医療推進課

電話 049-224-5832（直通）

（月曜から金曜の午前8時30分から午後5時15分まで）

I あなたご自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別について、お答えください。（1つに○）

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの満年齢について、お答えください。（1つに○）

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 | 4. 50～59歳 |
| 5. 60～64歳 | 6. 65～69歳 | 7. 70～74歳 | 8. 75歳以上 |

問3 あなたのご職業は、次のどれにあたりますか。（主なもの1つに○）

- | | | |
|------------------|--------|----------------|
| 1. 会社員・公務員などの勤め人 | 2. 自営業 | 3. 家族従業（家業手伝い） |
| 4. パートタイム、アルバイト | 5. 自由業 | 6. 農業 |
| 7. 家事専業（主婦、主夫） | 8. 学生 | 9. 無職 |
| 10. その他（ | | ） |

問4 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。（1つに○）

- | | | |
|---------|---------------|-----------------|
| 1. 夫婦のみ | 2. 二世帯世帯（親と子） | 3. 三世帯世帯（親と子と孫） |
| 4. 単身世帯 | 5. その他（ | ） |

問4-1 同居のご家族に次に該当する方はいますか。（○はいくつでも）

- | | | | |
|--------------|----------|--------|--------|
| 1. 就学前（0～5歳） | 2. 小学生 | 3. 中学生 | 4. 高校生 |
| 5. 65～74歳 | 6. 75歳以上 | 7. いない | |

問5 あなたのお住まいは、次のどちらの地区ですか。（1つに○）

※送付しました封筒あて名の右上に表示されています。

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|----------|
| 1. 第1地区 | 2. 第2地区 | 3. 第3地区 | 4. 第4地区 |
| 5. 第5地区 | 6. 第6地区 | 7. 第7地区 | 8. 第8地区 |
| 9. 第9地区 | 10. 第10地区 | 11. 第11地区 | 12. 芳野地区 |
| 13. 古谷地区 | 14. 南古谷地区 | 15. 高階地区 | 16. 福原地区 |
| 17. 山田地区 | 18. 名細地区 | 19. 霞ヶ関地区 | 20. 川鶴地区 |
| 21. 霞ヶ関北地区 | 22. 大東地区 | | |

問6 あなたの現住所での居住期間は、次のどれにあたりますか。（1つに○）

- | | | |
|---------------|-------------|--------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上5年未満 | 3. 5年以上10年未満 |
| 4. 10年以上20年未満 | 5. 20年以上 | |

問7 あなたがご加入の医療保険等の種類は、次のどれにあたりますか。（1つに○）

- | | |
|--------------------------|------------|
| 1. 国民健康保険（市町村国保、組合国保） | 2. 後期高齢者医療 |
| 3. 被用者保険（協会健保・組合健保、共済など） | 4. その他（ |
| | ） |

Ⅱ 医療機関の利用状況についておたずねします

問 8 あなたは、この5年間に病気やけがで入院したことがありますか。（1つに○）

- | | |
|-------|---------------|
| 1. ある | 2. ない ⇒【問 9へ】 |
|-------|---------------|



【問 8で、「1. ある」と答えた方におたずねします。】

問 8-1 どちらの医療機関*に入院されましたか。（1つに○）

◆2回以上入院された方は、最近入院された場合についてお答えください。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 埼玉医科大学総合医療センター | 2. 「1」以外の川越市内の病院 |
| 3. 「1」以外の川越市内の診療所 | 4. 川越市を除く埼玉県内の病院・診療所 |
| 5. 東京都内の病院・診療所 | 6. 埼玉県、東京都以外の病院・診療所 |

※医療機関（病院と診療所）について

- ・患者を入院させることができる施設等（病床）が、20床以上ある医療機関が「病院」です。
- ・病床が19床以下、または、病床が無い医療機関が「診療所」です。
- ・医療機関の名称を「〇〇病院」とすることができるのは「病院」だけです。

問 9 あなたは、この1年間に医療機関に通院（歯科は除く）したことがありますか。（1つに○）

- | | |
|-------|----------------|
| 1. ある | 2. ない ⇒【問 10へ】 |
|-------|----------------|



【問 9で、「1. ある」と答えた方におたずねします。】

問 9-1 どちらの医療機関に通院されましたか。（1つに○）

◆2回以上通院された方は、最近通院された場合についてお答えください。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 埼玉医科大学総合医療センター | 2. 「1」以外の川越市内の病院 |
| 3. 「1」以外の川越市内の診療所 | 4. 川越市を除く埼玉県内の病院・診療所 |
| 5. 東京都内の病院・診療所 | 6. 埼玉県、東京都以外の病院・診療所 |

問 10 あなたは、この1年間に歯科医院に通院したことがありますか。（1つに○）

- | | |
|-------|----------------|
| 1. ある | 2. ない ⇒【問 11へ】 |
|-------|----------------|



【問 10で、「1. ある」と答えた方におたずねします。】

問 10-1 どちらの歯科医院に通院されましたか。（1つに○）

◆2回以上通院された方は、最近通院された場合についてお答えください。

- | | | | |
|---------|---------------|---------|--------------|
| 1. 川越市内 | 2. 川越市を除く埼玉県内 | 3. 東京都内 | 4. 埼玉県、東京都以外 |
|---------|---------------|---------|--------------|

問 11 あなたは、医療機関・薬局に行く際に、お薬手帳を持参していますか。（1つに○）

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 常に持参している | 2. たまに持参している |
| 3. あまり持参していない | 4. 持っているが持参していない |
| 5. お薬手帳は持っていない | |

問 12 あなたは、医療機関から処方された薬を飲み残したことがありますか。（1つに○）

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

資料（調査票）

問13 あなたは、ジェネリック医薬品（後発医薬品）※を知っていますか。（1つに○）

1. 知っている 2. 知らない ⇒【問14へ】



【問13で、「1. 知っている」と答えた方におたずねします。】

問13-1 あなたは、ジェネリック医薬品（後発医薬品）を服用したことがありますか。（1つに○）

1. ある 2. ない 3. わからない

※ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、新薬（先発医薬品）の特許が切れた後に製造販売される、新薬と同一の有効成分を同一量含み、同一の効能・効果を持つ医薬品のことです。

問14 あなたやご家族が、休日や夜間などの医療機関の診療時間外に急に具合が悪くなったことがありますか。（1つに○）

1. ある 2. ない ⇒【問15へ】



【問14で、「1. ある」と答えた方におたずねします。】

問14-1 その時あなたは、どのようにしましたか。（○はいくつでも）

1. 市販の薬を使用して様子をみた
2. 埼玉県救急電話相談（#7119）に電話相談をした※¹
3. 埼玉県AI救急相談を利用した※²
4. かかりつけの医療機関に相談した（または受診した）
5. 自分で救急医療機関や当番医を調べた（または受診した）
6. 救急車を呼んだ
7. その他（ ）

※¹ 埼玉県では、急な病気やけがの際に、家庭での対処方法や医療機関への受診の必要性について、看護師が電話で相談に応じる埼玉県救急電話相談を実施しています。

※² 埼玉県では、上記の救急電話相談に加えて、スマートフォンやパソコンから御利用いただける全国初のAIを活用した救急相談（埼玉県AI救急相談）を導入しています。

問15 あなたは、月曜から土曜の夜間、日曜・祝日・年末年始の昼間・夜間に診療を行う「川越市医師会夜間休日診療所」を知っていますか。また、この1年間に、あなたやご家族が受診したことがありますか。（1つに○）

1. 知っていて、この1年間に受診したことがある
2. 知っているが、この1年間に受診したことはない 3. 知らない

問16 あなたは、日曜日・祝日・年末年始に緊急に歯科の受診が必要な方の診療を行う「川越市予防歯科センター」を知っていますか。また、この1年間に、あなたやご家族が受診したことがありますか。（1つに○）

1. 知っていて、この1年間に受診したことがある
2. 知っているが、この1年間に受診したことはない 3. 知らない

問17 あなたやご家族の中で、決まって診察を受ける「かかりつけ医」※がいる方はいますか。（1つに○）

※かかりつけ医は、健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のこと。

1. いる ⇒【問17-1へ】 2. いない ⇒【問17-4へ】

【問17で、かかりつけ医が「1. いる」と答えた方におたずねします。】

問17-1 「かかりつけ医」がいる方は、どなたですか。（〇はいくつでも）

1. 自分 2. 子ども 3. 配偶者 4. 親 5. その他（ ）

問17-2 「かかりつけ医」は、どちらの医療機関の医師ですか。（〇はいくつでも）

1. 川越市内の病院 2. 川越市内の診療所 3. 川越市を除く埼玉県内
4. 東京都 5. 埼玉県、東京都以外

問17-3 あなたが、「かかりつけ医」に期待することは何ですか。（主なもの3つまで〇）

- | | |
|---|-------------------------|
| 1. 待ち時間が短い | 2. 往診してくれる |
| 3. どんな病気でも診てくれる | 4. 診療技術が優れている |
| 5. 家から近くて通院に便利 | 6. 医療設備等が整っている |
| 7. わかりやすく説明してくれる | 8. 患者の話をよく聞いてくれる |
| 9. 介護サービスを紹介してくれる | 10. 緊急時に時間外でも診てくれる |
| 11. 通勤・通学上、便利なところにある | 12. 必要なときには、専門医に紹介してくれる |
| 13. その他（ ） | 14. 特にない |

⇒ 回答後は【問18へ】

【問17で、かかりつけ医が「2. いない」と答えた方におたずねします。】

問17-4 あなたが、「かかりつけ医」を決めていないのはなぜですか。（1つに〇）

1. 病気をしていないので必要ないから
2. 必要なときに適当な医療機関を選ぶから
3. 選ぶための情報が不足しているから
4. どのように選んで良いのかわからないから
5. その他（ ）
6. 特に理由はない

問18 あなたやご家族の中で、身近で薬や健康のことについて相談できる「かかりつけ薬局（薬剤師）」*がいる方はいますか。（1つに〇）

*かかりつけ薬局（薬剤師）は、薬による治療のこと、健康や介護に関することなどに豊富な知識と経験を持ち、患者や生活者のニーズに沿った相談に応じることができる薬局（薬剤師）のこと。

1. いる 2. いない ⇒ 【問18-4へ】

↓

【問18で、かかりつけ薬局（薬剤師）が「1. いる」と答えた方におたずねします。】

問18-1 「かかりつけ薬局（薬剤師）」がいる方は、どなたですか。（〇はいくつでも）

1. 自分 2. 子ども 3. 配偶者 4. 親 5. その他（ ）

問18-2 「かかりつけ薬局（薬剤師）」は、どちらの薬局（薬剤師）ですか。（〇はいくつでも）

1. 川越市内 2. 川越市を除く埼玉県内 3. 東京都
4. 埼玉県、東京都以外

IV 保健医療行政全般についておたずねします

問 2 3 保健医療行政全般について、あなたが現在関心のある施策、また、今後力を入れてほしい施策をそれぞれ3つずつ選んで、回答欄に番号を記入してください。

番号	施 策 施策の内容
1	健康診査等の推進 特定健診・がん検診の周知や受診体制の整備を進め、受診率の向上による疾病予防を推進します。
2	生活習慣病等の重症化予防 特定保健指導の実施の促進に向けて体制整備を進めるとともに、適切な治療を受けられるよう支援します。
3	こころの健康対策 こころの健康やアルコール等に関する相談支援体制や精神保健福祉に関する普及・啓発の充実を図ります。
4	社会参加の促進 こころの病気を患った方の社会復帰・社会参加の促進を図ります。
5	認知症総合支援事業の推進 認知症の状態に応じた適切なサービスを提供し、認知症の方やその家族を支援します。
6	感染症対策の推進 感染症予防の普及・啓発を図るとともに、医療機関等と連携し、まん延防止を図ります。
7	エイズ対策の推進 エイズを含む性感染症に関する正しい知識の普及・啓発を実施するとともに、検査・相談を行い、病気のまん延を防止します。
8	結核対策の推進 結核患者の再発を防止するとともに、早期発見・早期治療によるまん延防止を図ります。
9	医療機能の充実 医療機関相互の連携促進と医療機関の役割の明確化に取り組むとともに、市民への情報提供や意識の啓発を推進します。
10	「かかりつけ医」等の普及促進 かかりつけ医等の普及・定着のため、市民への情報提供や意識の啓発を推進します。
11	医療・介護の連携 地域包括ケアシステムの構築に向け、地域包括支援センターの充実、在宅医療・介護の連携体制の整備を図ります。
12	救急医療提供体制の確保 救急医療体制の確保と救急搬送患者の円滑な受入れを推進するため、救急医療を行う医療機関を支援します。
13	救命処置等の普及促進 市民へのAED・応急手当の普及・啓発や高齢者への救急情報キットの配布等を推進します。
14	災害時医療体制の構築 関係機関との連携体制のマニュアル化、初動医療体制の整備や災害時防疫体制の充実等を図ります。
15	医療・介護従事者の確保 看護師等の養成機関への支援や医療・介護従事者の研修等により人材の確保・定着を図ります。
16	保健医療従事者等の資質向上 臨床研修医の研修や医学生・看護学生等の実習の受入れを推進し、地域保健の人材育成を図ります。
17	医療安全の促進 医療機関の監視指導や患者からの苦情等に対応し、医療の安全、医療への信頼確保を促進します。
18	医薬品等の安全対策 医薬品の正しい知識の普及・啓発や安全確保のため、医薬品販売業等の監視指導を行います。
19	献血の推進 献血の必要性についての普及・啓発や献血者の確保を図る事業を支援します。
20	保健所機能の充実 保健所を地域における保健衛生の拠点として健康危機管理体制の充実を図るとともに、衛生的な生活環境の確保を推進します。
21	地域医療支援拠点の検討 在宅医療を中心とした地域医療の充実と、医療と介護の連携を図ります。

回答欄



現在、関心のある施策番号		

今後、力を入れるべき施策番号		

V 今後の医療についておたずねします

問24 あなたは、川越市における医療について、どのようになっていることを期待しますか。（主なもの3つに○）

- 1. 医療機関が増えると良い ⇒【問24-1へ】
- 2. 専門の科が増えると良い ⇒【問24-2へ】
- 3. 救急車を受け入れる医療機関が増えると良い
- 4. 自宅を訪問してくれる医療機関が増えると良い
- 5. 休日や夜間に受診できる医療機関が増えると良い
- 6. ホスピス（終末期医療の医療機関）が増えると良い
- 7. 緩和ケア（がんの痛みなどをやわらげる医療）をする医療機関が増えると良い
- 8. その他（)
- 9. 特に要望はない

【問24で、「1. 医療機関が増えると良い」と答えた方におたずねします。】

問24-1 あなたが、医療機関が増えると良い理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 混んでいて待ち時間が長い
- 2. 家の近くに病院・診療所が少ない
- 3. 専門医が増える
- 4. 救急車を受け入れる病院が増える
- 5. 選択肢が増え、自分に合った医師を選べる
- 6. セカンド・オピニオンなどの幅が広がる
- 7. 夜間や休日に診療しているところが増える
- 8. 総合病院が不足している
- 9. その他（)

【問24で、「2. 専門の科が増えると良い」と答えた方におたずねします。】

問24-2 あなたが、増えると良い診療科は何科ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 内科
- 2. 小児科
- 3. 外科
- 4. 脳神経外科
- 5. 神経内科
- 6. 心療内科
- 7. 精神科
- 8. 眼科
- 9. 耳鼻咽喉科
- 10. 循環器科
- 11. 呼吸器科
- 12. 消化器科
- 13. 泌尿器科
- 14. 整形外科
- 15. リハビリテーション科
- 16. リウマチ科
- 17. 形成外科
- 18. アレルギー科
- 19. 皮膚科
- 20. 産婦人科
- 21. 救急科
- 22. 乳腺科
- 23. 歯科
- 24. 小児歯科
- 25. その他（)

問25 川越市における医療に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

.....

.....

.....

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて12月23日（月）までにご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

医療に関する意識調査報告書

発行／川越市

発行日／令和2年3月

編集／川越市保健医療部保健医療推進課

〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3番地1

電話 049-224-5832 (直通)

市ホームページ <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>